山田美妙雜稿

特別
イ5
1664
68

15
1664
13

る為めに作れるに名、汎称、
とこみや　常宮（名）ながく変らぬ宮、古語、とこみやと
定めまつりて……
とこむし　常虫（名）虫動　ためむし見れねじ、
とこめづらし　常珍（名）常にめづらし、古語、難波人あ
しびなく庭のすだれど我れが妻こそとこめづらしき、
とこや　床屋（名）寝処を営むる、又ゆかどこ、かみどこ、
とこやみ　常闇（名）いつも闇なること、常にくらきこと
、古語、あけむ日をその日と知らずとこやみにねれの日ま
であひこひきらむ、
とこよ　常夜（名）いつも夜のみなること、古語ヲ見申し
とこよ　常世（名）いつも変らぬ世、常に変らぬこと、ち
語ヲ見申、
とこよのかみ　常世神（名）動物　体だかむしの異名ヲ
て古語ヲ見申、名としたほど祈らぬものを徒ゆぬのとこよ
の神のめぐみありや、
とこよのくに　常世国（名）永久に変化せぬ国といふ意
、昔ち、あの世を指す、大水、蓬莱山、仙郷、
とこよのたちばな　常世橘（名）垂仁天皇の朝、田道間
守が帝の命を奉じ、常世の国の国ヨ陸り持ち来れる橘をい
ふ、古語ヲ、非時の香の木の実をれめてとあり、其実は卵

ち、橘の種ならすし、
とこよのとり　常世鳥（名）動物　にはとりの異名、
古語、かとことよのながなきどりともいふ、
とこよべ　常世邊（名）常世の国のほとり、古語、とこよ
べにすむべきものを……
とこよむし　常世虫（名）動物　いもむしに似たるむし、
トゴランド　（名）地名　西部亜弗利加の奴隷海岸
にある独逸領地なり、其面積一六〇〇〇方哩、人口二百万
余、首府はかかと呼ぶ、西の地の独逸領となりたるは其
西暦一八八四年とす、
ところ　所（名）ばしよ、ば、物のある位置、指定する其
、所ち、ねねと申すところ、此本中すところ
ところ　野老（名）植物　根は山の芋に似て全体に細根あり
、葉は長く、花はふさくして青き実を結ぶ、根は食用と
適し味苦かし、古語ヲ、ところづらともいふ、
ところ　處（接）処に、ふるに、接続詞として能く用ひ
ねどに用ひらる、然くやとみえず、
ところ　所（接尾）一、朝廷の寮寺の官署を呼ぶときにつ
けてう語、学校の意ある如し、侍どころ、亦歌どころ、二
、尊ぶべき人で数ふる引用ゐる語、ふたみやどころ、
ところあらはし　所顕（名）古語、婚禮の志らせ、四等

る為めに作れる小屋、浮舗、
とこ、みや　常宮　名　ながく変らぬ宮、古語、とこみやと
定めまつりて……
とこ、むし　鼠婦蟲　名　わらじむし、わらじ、
とこ、めづらし　常珍　名　常にめづらし、古語、難波人あ
しびたく屋のすしだれどわのが妻こそとこめづらしき、
とこ、や　床屋　名　理髪で営む家、髪ゆひどこ、かみどこ、
とこ、やみ　常闇　名　いつも闇なること、常にくらきこと
、古語、あはむ日をその日と知らずとこやみにいづれの日ま
であれこひをらむ、
とこ、よ　常夜　名　いつも夜のみなること、古語に見ゆ、
とこ、よ　常世　名　いつも変らぬ世、常に変らぬこと、古
語に見ゆ、
とこよ、の、かみ　庚来神　名　動物　はだかむしの異名に
て古語に見ゆ、名にしたはむ祈らぬものを徒りぬのとこよ
の神のめぐみありやと、
とこよ、の、くに　常世国　名　永久に変化せぬ国といふ意
、即ち、あの世を指す、九泉、蓬莱山、仙郷、
とこよ、の、たちばな　常世橘　名　垂仁天皇の朝、田道間
守が帝の命を奉じ、常世外国の国に渡り持ち来れる橘をい
ふ、古語に、非時の香の木の実を求めてとあり、其実は即

ち、橘の種なる可し、
とこよ、の、とり　常世鳥　名　動物　にはとり、の異名、
古語、亦とこよのながなきどりともいふ、
とこよ、べ　常世邊　名　常世の国のほとり、古語、とこよ
べにすむべきものを……
とこよ、むし　常世虫　名　動物　いもむしにわれなし、
トゴランド　~~[illegible]~~　名　地名　西部亜弗利加の奴隷海岸
にある独逸領地なり、其面積一六〇〇〇方哩、人口二百萬
餘、首府はポポと呼ぶ、西の地の独逸領と称したるは其下
西暦一八八四年とす、
とこ、ろ　所　名　ばしよ、ば、物のある位置、指定する点
、即ち、ねねと申すところ、水上申すところ、
ところ　野老　名　植物　根は山の芋に似て全体に細根あり
、葉甚だ長く、花は小さくして青き実を結ぶ、根は食用に
適し味甚だ苦がし、古語に、ところづら、ともいふ、
ところ　處　接　続ろに、さうに、接続詞にして能く同用文
などに用ゐらる、斯く申上候、
ところ　所　接尾　一、朝廷或は幕府の官署を呼ぶときにつ
けてう語、尊敬の意ある如し、侍どころ、大歌どころ、二
、尊ときを数ふる時用ゆる語、ふたみやどころ、
ところ、あらはし　所顕　名　古語、婚姻の志らせ、[illegible]

1429

ありてぞ、御ところあらはしありける、
ところえ、がほ 所得顔 (名) 事に満足し或は手柄を知して
、、得る顔つき、得意顔、
ところ、えたる、さむらひ 得所得 (名) 重きをなせるさ
むらひ、威勢のある武士、
ところ、たく 置所 (動) 自己の位置を へりくだり、他人に後
ることと古語、不敵にして、兄よも、ところおきなく、
ところ、がき 所書 (名) 人の住処番地を書るせるもの、
ところ、がへ 所替 (名) いどころを、他に移すこと、所を
かゆること、移封、移居、等、大名の領地を移しかゆるこ
とをもいふ、国替、
ところ、がら 所柄 (副) 場所がら、所のさまに従ひて、
ところ、ことば 方言 (名) 所に限り行はるる言語、
ところ、さる 避所 (動) ところおくに来なにし、
ところ、せく 処狭 (副) 場所狭く、あたり狭いほどに、と
ころせく語らひ給ふは、
ところ、せ 所狭 (名) 場所の狭きこと、
ところ、せう 所狭 (副) 所狭くの音便の変化、
ところ、せし 所狭 (形) 場所せまし、窮屈なり、
ところ、たがへ 所違 (名) 指定の場所を、ちがへたること、
ところ、てん 心太 (名) ところてん草を能く晒し煮て

しとろかして、冷し固めたるもの、醤油、酢などかけて食
ふ、夏の食物なり、
ところてん、ぐさ 心太草 (名) 植物 海底の砂子附着して
発生する小草を取り乾して、心太を製す、こころぶと、
ところ、どころ 処処 (副) あちら、こちら、ここも、かし
こも、ここよそよに、
ところ、の、しゆう 所衆 (名) 蔵人所の衆の男、蔵人所に
候して、雑務を司るものを呼ぶ、六位の侍之れに任ぜら
れたり、
ところ、の、ならはし 所所習慣 (名) 或土地に行はるる風習
、土風、✓
ところ、ばらひ 所拂 (名) 幕府時代に行はれたる刑名にて
、軽罪を犯したるものを其土地より追拂へ再び入れざる刑
罰なり、昔も軽きは門前拂といふ、
ところわかに 常若 (副) 常に若く変らぬこと、古語、
とこ、ゐ 常井 (名) 水の絶ゆることなき井、古語、かきや
れば庭に流るる山水のよどむ岩をとこゐにぞくむ、
とこ、ゑ 常声 (名) とここゑの約、いつもかはらぬ声、古
語、よそにのみ鹿のとこゑをききしより、
とこ、をとめ 常少女 (名) いつも若く変らぬ少女、古語、
とさ 土佐 (名) 国名 南海道四国島中の南方に面する国の

1690

1440

13

名稱、其蟲麿の所在地は高知市なり、旧藩文の高に、土御
門天皇此の國に遷幸せらる、戰國時代は細川氏の領する処
となり、徳川時代に至り山内一豊の領となれり、
ど、ざ　土座（名）どげざるたなじ、
ど、ざい　吐剤（名）吐氣を催する藥、はきぐすり、
ど、さい　駑才（名）おろか、才智のなきこと、
ど、さう　土葬（名）死人を其儘に土中に埋葬すること、
ど、さう　土藏（名）泥土にて塗りあげたる倉にて専ら火災
を防ぐ爲めにつくれるなり、
とさう、の、いと　斗筲人（名）小人を云ふ、即ち大人君子
にあらざるもの、一斗桝にて量り出すほど澤山ある人とい
ふ意より來れる語ならん、貶斥せば是非うけれぱなり、
どざう、やき　土藏燒（名）魚肉に胡麻味噌或は山椒味噌を
塗り燒きたる料理の名稱、
どざう、やぶり　土藏破（名）土藏を破り忍び入る盜賊、
と、さか　鳥冠（名）とりさかの略、鶏類の頭上に、赤き花
のごときの塊、雞冠、爲鶏冠勿爲牛尾、
とさか、ぐさ　鶏冠草（名）植物、けいとうまたなじ、
とさか、のり　鶏冠末（名）植物、海水の砂につき生ずる海
藻の名、其形ち、とさかに似たり、食用に供せらる、
とさき、だん兵ん　戸崎淡園（名）人名、常陸の人、名は允
明、通稱は五太夫、字は哲夫、守山侯に儒を以て仕ふ、詩
文及び書を能くし程子の学を奉ぜり、文化三年沒す、
どさ、くさ　どさくさ（副）こだこだ混雜するさま、俗語、
とさ、くさ、まぎれに　（副）とりこみ、まぎれに、俗語、
とさ、け　土佐家（名）足利時代に起りたる画家の名稱にて
、其開祖を土佐光信とす、現今尚は此の派行はる、
と、さけび　鳥叫（名）鳥のなき叫ぶこと、古語、とさけび
のけしきに書らし、
とさ、さんぴつ　土佐三筆（名）画家にして土佐派に属し最
も秀を得たる、春日基光、土佐光信、土佐光起の三氏画家
を称す、或説に、基光の代りに光長を数ふるあり、
と、ざし　鎖（名）とざすこと、戸をさすこと、鎖関、
とさ、じんじゃ　土佐神社（名）土佐国土佐郡一宮村にあり
、祭主は一言主神にして國幣中社なり、
と、ざす　鎖（動）戸を閉ち、錠を下し戸じまりすること、
とさ、せうじよ　土佐少椽（名）人名、土佐節なる一流を開
きたる淨瑠璃の大家、寛文年間に生れ、幼名内近虎之助と
呼ぶ、
とさ、つねたか　土佐經隆（名）人名、土佐派に属する画家
にして、幼名、春日有房と称す、元仁年中繪所預となり、
從五位下土佐權守に任せらる、醍醐天皇の皇子は即ち、經隆の筆

1691

にぬらい［似ふい］

とさいにつき　土佐日記　（名）此の書は、紀の貫之、土佐守任期満ちて、京に上る時、誌せる海路の日記なり。時に承平四年の冬、

とさにっき、かうしよう　土佐日記考證　（名）考證を集め土佐日記を解釈せる著書にして、岸本由豆流の作なり、

とさにつき、さうけん　土佐日記創見　（名）香川景樹の土佐日記を解釈せるもの、

とさにつき、ふねのただち　土佐日記船直路　（名）此の書は橘守部の土佐日記本文に字句を増補して解釈せるもの、

とさ、ちよ　土佐千代　（名）人名　土佐光信の女にして狩野元信に嫁す、父光に就き画法を脩め、人物、樹石に妙を得たり、天文時代に輩出せる女史の画家として有名、

とさ、の、くに　土佐国　（名）ときを見よ、

とさ、の、ゐん　土佐院　（名）人名　土御門帝を称す、帝の土佐に遷幸せられましより此の名ある所以なり、

とさ、の、さんぴつ　土佐三筆　（名）人名　土佐派に属する三画家を云ふ、春日基光、土佐光信、土佐光起、

とさ、は　土佐派　（名）繪の一派の名称、とさつねたかを見よ、

とさばうしやうじゆん　土佐坊昌俊　（名）人名いひたちばうかいそんを見よ

とさ、ばんし　土佐半紙　（名）土佐国より産する半紙、

とさ、ぶし　土佐節　（名）土佐国の海辺に産する松魚より製したる鰹節を呼ぶ、二、浄瑠璃の曲名にて土佐少掾の語り創めしもの、

と、ざま　外方　（名）一、ほかの方、古語、すこし、とざまる向きて、

と、ざま　外様　（名）徳川幕府時代よ、その譜代ならざる大名等は藩を呼ばれる名称、外様大名、外様藩、

とざま、だいみやう　外様大名　（名）とざまを見よ、

とさ、みつおき　土佐光起　（名）有名なる画人にして土佐三筆の一人、光則の子、土佐家累代の画法を学び画所預となり、従五位下左近将監に任せらる、後ち、法眼に叙せられ常昭と号す、花鳥に其妙を得たり、元禄四年没す享年七十五才

とさ、みつなが　土佐光長　（名）人名　有名なる画家、土佐三筆の一人なり、藤原経隆の弟子、筆意精緻併像に其の妙を得たり、世に中興の名手と称せらる、勅命を奉じ年中行事五十巻を画く、実に歴年間の事とす、

とさ、みつのぶ　土佐光信　（名）人名　画の妙手を以て名あり、土佐三筆の一人、足利義政に仕へ画所預となり、従四

位下刑部大輔に進む、大永五年五月歿せり享年九十二、
とゝさん 土産 名 その土地より出づる物産、二、みやげ、
とゝさん 登山 名 山にのぼること、山寺に参詣すること
、
とさゝもとみつ 土佐基光 名 人名 藤原清座の子、有名なる画家にして土佐派の開祖なり、家を春日と称し奈良東大寺に住し、初めて畫所預に任ぜらる、佛画は其尤も妙を得だるところなりて寛弘年ころの人なり、
とさ、ゑ 土佐繪 名 土佐家に属する畫法の称、
どさゑもん 土佐衛門 名 溺死人を呼ぶ、昔里船土佐衛門なる力士あり、其肥満せしよりそれにたとへていふ、
とし 年 名 地球の太陽を一周する間或は、太陽の黄道下一周して起点に到るまでの間をいふ、その間を三百六十五日とす、又之れを月に分てば、一月より十二月に到る、人のよはひを年といふ、とき、をり、時代、
とゝ志 徒死 名 徒らに死ぬること、無益に死すること、いぬじに、
とし 敏 名 覚りはやきこと、かしこきこと、土の語形容詞とも用ゐらる、
とし 疾 名 はやし、すみやか、土の語形容詞にも用ゐらる、
とゝ志 刀自 名 一家の主婦を呼ぶ敬称語、供御の事を司る女官を呼ぶ、古語、台盤所のとじといふもの、
とゝじ 途次 名 みちのついで、みちすがら、
とゝじ 屠児 名 獣類を屠りころすもの、
とし 同士 接尾 どちに同じ、友だちどし、
どしいくさ 同士軍 名 味方と味方と相戦ふこと、どしうち、内訌、
ドー●ジエ、 Doge 名 ベネチア及びゼノアの支配者を[illegible]いふ、最初は毎年選挙されしも、ベネチアにては終身官職となり、其の権力は次第に制限せられ、西暦一七九七年、ベネチア共和国の倒るると共に止み、ゼノアにても一八〇四年同様の運命に遭遇せり、
とし、おい 年老 名 としより、年齢の多き人、
としゝかさ 年高 名 年齢の数の多きこと、
とし、かはる 年変 名 年号のかはること、改元、古語、はかなくとしもかはりぬ、
とし、かへる 年返 名 新年を迎ふること、年あらたまること、
とゝ志き 屯食 名 とんぢきの略、古語、と志き十具ばかりにて、
としゝご 年子 名 年毎に生れたる子、
としこえゝぐさ 年越草 名 植物 むぎ(麦)の異名、古語、

1443

としこし　年越　(名)　一、その年を送り新年を迎ふること、足歳、二、十二月三十一日、即ち、大晦日の夜をいふ、除夜、節分の夜の名称、
としころ　年比　(名)　年のほど、年齢、成年に達したること、女の結婚期に達したること、此の語副詞にも用ゐらる、年来、曽てより、数年このかた、
としざかり　年盛　(名)　血気さかりなるころ、壮年、
としえ　兄弟子　(名)　枯和　ねなしかずらにたはし、
とした　年下　(名)　年齢の他に比し少きこと、
としだま　年玉　(名)　年始の祝に用ゆる贈物、歳暮、
としつうてん　杜氏通典　(名)　支那の制度を書きたる書籍にて唐の杜佑の著とす、
としつき　年月　(名)　年と月とを合せ呼ぶ、歳月、
としつみづき　年積月　(名)　陰暦十二月の異称、古語、
としてあて　年手当　(名)　年年のてあて、費、
としとくじん　歳徳神　(名)　俗人の能く祭る神にて年を守護し福を授くる八大龍王の一なる娑伽羅龍王の女なりといふ、陰陽師は此の神に付て語る、
としのいち　歳市　(名)　年の暮に新年の飾物、或は、用具を道路に飾り販売する市、此の市には重に飲食具を販売するが如し、

としのくれ　年暮　(名)　せいぼ又たねじ、
としのこう　年功　(名)　ねんこう又たじ、
としのは　毎歳　(名)　よはひ、年齢、古語、君が為め野辺の白雪うちはらひいやとしのはをつむわかなかな、
としのをはり　年終　(名)　としのくれ、歳暮、歳末、
としは　年端　(名)　よはひ、としのはかき意、
とりしば　鳥柴　(名)　鷹狩にて捕たる鳥を、他へに贈るときそゆる木なり、古歌に「雪のあした　とりしばに　きじをつけて」などの類
としはへ　年延　(名)　としごろあること、としかさ即ち年輩のこと、
としび　杜子美　(名)　人名　支那の詩人、名は甫、唐の玄宗粛宗の朝に仕へたり、
としま　利島　(名)　島名　伊豆国東南海中にある伊豆七島の一、周囲、二里余、
としま　戸島　(名)　島名　伊豫国西南海中にあり、周囲四里余、
としまがさき　富島崎　(名)　摂津の国にある崎にて、手島の名称、
としまがは　豊島川　(名)　河名　武蔵国にあり荒川の下流を呼ぶ、東京都を貫流して隅田川と成る、

1694

としま、がをか　豊島岡　(名)　地名　武蔵東京府小石川区の西部にあり、

とじまり　戸締　(名)　戸を鎖すこと、

とし、み　精進閑　(名)　慎し忌みの果、精進の終に魚肉など食ふこと、古語、宗氏和語に出づ説見ゆ、

としみつ、づき　年満月　(名)　陰暦十二月の異称、古語、

と、しん　妬心　(名)　ねたみ心、そねむこころ、

と、じん　都人　(名)　みやこに住む人、都の人、みやこびと、

ど、じん　土神　(名)　つちがみ(土公)に同じ、

ど、じん　土人　(名)　その土地にすむ人、土着のひと、

としんげん　杜審言　(名)　人名　初唐の人にして詩文を以て著る、神竜年中修文館の直学士たり、

と、じんし　都人士　(名)　都のしんし(紳士)、みやこびと、

と、じめ　戸締　(名)　おしこめ、とも云ふ、徳川幕府時代の刑罰にて、庶人の閏刑なり、戸を閉じ作業せしむ、軽きは三十日、重きは百日に至る、

と、しや　吐瀉　(名)　はきくだしに同じ、

と、しや　図写　(名)　文字など、えがきうつすこと、

ど、しや　土砂　(名)　土と砂とを合せいふ、

と、じやう　都城　(名)　都会にある城塞、

どじやう、ひよく　土壌肥沃　(名)　土地の肥料に富みたるこ

と、よきとち、

どしや、かぢ　土砂加持　(名)　真言宗にて行ふ祈祷、

としやく　年役　(名)　年とりたる人の勤むる役、

と、じやく　杜若　(名)　植物　かきつばたに同じ、

とし、やとひ　年雇　(名)　年を限りて人を雇ふこと、

と、しゆ　徒手　(名)　からて、赤手、むて、

とじゆ、けい　吐綬雞　(名)　動物　からくんてうの異名、

としゆせき　吐酒石　Tartar emetic　(名)　鉱物　吐酒石は単斜晶系の風化し易き八面體の結晶を呈し、重酒石酸加里及び酸化アンチモンを水と共に熱して製す、吐剤或は発汗剤なり、

と、しよ　図書　(名)　文書、絵画の総称、

と、じよかい　杜如晦　(名)　人名　支那京兆の人、唐初の良相にして字は克明、高祖に仕へ尚書右僕射に進み朝政を治む、

[illegible]

[illegible]

としよ、くわん　図書館　(名)　づしよくわんに同じ、

と、しよく　徒食　(名)　遊びて日をくらすこと、むだぐひ、坐食、

としよつむ、つき　年世積月　(名)　陰暦十二月の異称、

としよ、の、ひつじ　屠所羊　(名)　屠殺場の羊にて屠られんとするもの、之れを死地に迫り悲哀に見ゆるものに例ふ、

摩耶経中に、譬如旃陀羅駈牛至屠處、歩々近死地人命亦如是
、とあり

としより 年寄 （名） 一、年とりたる人、老人、戦国時代に於ける諸侯の重臣をいふ 二、徳川幕府の老中をも年寄と称せり 三、相撲せしよりをも罷して年寄と呼ぶ、

としより、ご 年寄子 （名） 年老いてより生みたる子、

としより、こい （名） 動物 すずかけばとの異名、形ち小にして頭に白点あり、

とじろ、だき 純白瀑 （名） 紀伊在田郡にあり、其高さ十八丈、幅二間、風景甚だ佳なり、

とし、わか 年若 （名） 年齢のわかきこと、わかもの、若年、十年、青年、

とし、わすれ 年忘 （名） 年末に催する宴会の名称、その年中の労苦を忘れ新年を迎ふの意、忘年会、

とし、をとこ 年男 （名） 徳川時代より、新年の初め、諸儀式を行ふ役にあたる人をいふ、

とし、をとる 取年 （名） としよりになること、歳月をとること、老人となる、

どす 度す 凡脳に迷ふて居る人を悟らしむ、済度す、解脱せしむ、僧人を傳とおす

トスカナ Tuscany （名） 地名 以太利の一州にしてアペニン連山の西方より南方に到る一帯の地を称す、地中海に面する方は土地豊饒、農産物に富む、此の地歴史上の関係に於ては古代エトリアの一部なりしが西暦一五五九年サルジニア領に合せられ、一八六一年遂に以太利領となる、其首府をフロウレンスと呼ぶ、

トスカネリ Toscanelli （名） 人名 以太利の天文学者にて西暦一三九七年フロレンチアに生る、政川より東洋支那に至る航路に付コロンブスに導りたる [illegible]

に用ゆ、歳、

業

て某方六位にあ

球より大なるこ

世祖に仕へ、我が

共に来朝し室津

を犯しめたる名

ドスト ムハメッド Dost Muhammed （名） 人名
阿富汗屢々王位争奪の乱ありしに乗じ、ドスト ムハメッドはカブールに起り阿富汗を統一したりしが時の王シュジアは救を英国に求めたり、露国此機に乗じ一八三七年使をカブールに遣りて修交を求めしかば、ドスト ムハメッド直に之を容れ遂に戦備を整へたり、英国是に於て兵を出しカブールを陥れ、シュジアを阿富汗王とせしも国人服せず却て英軍の帰路を絶ちしをもて英軍敗北したり、一八四九年初めて英国と和を媾じたり、一八六三年六月ヘラットにて歿す、

1686

どせう 鰌 （名） 動物 どぢやうを見よ、

どせん 土泉 （名） Frothy Spring （名） 硫酸塩、炭酸塩類等の種々なる物質を含有する鑛泉をいふ、

摩耶経中に、譬如旃陀羅駆牛至屠所、歩々近死地人命亦如是、とあり

としより　年寄　(名)　一、年とりたる人、老人、戦国時代に於ける諸侯の重臣をいふ　二、徳川幕府の老中をも年寄と称せり、三、相撲せしよりをも略して年寄と呼ぶ、

としよりご　年寄子　(名)　年老いてより生みたる子、

としよりこい　(名)　動物　すずかけばとの異名、形ち小にして頭に白点あり、[illegible]

とじろいだき　純白[illegible]犬、幅二間、凧[illegible]

としわか　年若[illegible]、十年、青年、[illegible]

としわすれ　年忘[illegible]中の労苦を忘れ新[illegible]

としをとこ　年男[illegible]を行ふ役にあたる人[illegible]

としをとる　[illegible]ることゝ老人となる[illegible]

どす　度　凡俗を達して悟らしむ、済度す、解脱せしむ、偉人を得とおす、

トスカナ　Tuscany　(名)　地名　以太利の一州にしてアペニン連山の西方より南方に到る一帯の地を称す、地中海に面する方は土地肥饒、農産物に富む、此の地歴史上の関係に於ては古代エトリアの一部なりしが西暦一千五九年サルジニア領に合せられ、一八六一年遂に以太利領となる、其首府をフロウレンスと呼ぶ、

トスカネリ　Toscanelli　(名)　人名　以太利の天文学者にて西暦一三九七年フロレンチアに生る、欧洲より東洋支那に至る航路に付コロンブスに傳りたることあり、

とせ　年　(名)　とし(年)の約、年を数ふるときに用ゆ、歳、

とせい　渡世　(名)　世わたり、いとなみ(営業)

どせい　土精　(名)　植物　にんじんの異名

どせい　土星　(名)　太陽系に属する星にして其大六位にある遊星なり、八個の衛星を有し、直径は地球より大なること九倍半あり

トセイチュウ　とせいちゅう　杜世忠　(名)　人名　支那元の世祖に仕へ、我が建治元年四月何文著、都魯丁等と高麗使と共に来朝し室津に於て世祖の国書を奉つる、其書無礼にして我れを辱しめたる為め鎌倉に護送せられ龍の口に斬らる、

どぜう　鰌　(名)　動物　どぢやうを見よ、

どせん　土泉　(名)　Fresh spring　(名)　硫酸塩、炭酸塩類等の種々なる物質を含有する鉱泉をいふ、

とゝせん　徒跣　（名）すあし（素足）のかち、はだし、はきものをはかぬをいふ、

どゝぜん　徒然　（名）つれづれ、ものさびしきこと、為すこともなく日を暮すこと、退屈、無聊、

とゝせん　渡船　（西）わたしぶねにおなじ、

とゝせん　賭銭　（名）勝負ごとのかけ銭、

とせんゝば　渡船場　（名）わたしば、船渡のある場所、

とゝそ　屠蘇　（名）年の始の祝に酒に加へて飲む薬、山椒、防風、肉桂、桔梗、白朮を合せ製す、古語、屠蘇酒治悪気温疫辟邪風毒気、

とゝそう　抖擻　（名）づだにおなじ、仏教の語、

どゝそく　土足　（名）履物を着けたるままの足、どろまみれの足、

どゝぞく　土俗　（名）その土地に限り行はるる風俗、

どゝぞく　土賊　（名）百姓一揆、土民のそうどう、土寇、

とそゝしゆ　屠蘇酒　（名）とそを見よ、

とそつゝてん　兜率天　（名）仏教の語にて須彌山頂にある天

なかとゝいふ、古語より見ゆ、

まり、

ドルソン　Dohsson　（名）人名、十九世紀の初葉の人、蒙古史の上に又土耳古史の著者あり、あるめにやに生る、

ドーソン　シチー　Dawson City　（名）地名、カナダ、クロンダイク金坑地方、ユーコン河上流一三〇〇哩にあり、西紀一八九六年八月十六日ジオルジ　ドーソン博士（カナダ地質調査会長）発見せしを以て此名あり、〔64.5°N. 138.0°E.〕

どゝたう　怒涛　（名）あらき波、怒れる波、大波、激浪、

どだうき　土当帰　（名）植物　うどにおなじ、

とゝだえ　跡絶　（名）あとだゆること、つづかざること、

とだえゝのゝはし　跡絶橋　（名）古陸奥国にありし名所に架せられたる橋、あやぶしとみゆるとだえのまろはし、

とだゝじよう　富田城　（名）出雲国能義郡廣瀬町富田に築かれたる城にして足利時代には佐々木持清之れを守護せり、後ち毛利氏に帰し関ヶ原役後、徳川氏は之れを廃す、

とたてぐも　（[illegible]）（名）動物　蛛巣を更かき、岩石に穴堀り作くる、其構造甚だ巧みにして外界より識別し難し、其入口に糸にて作れる戸を建て晝は大概もて此の戸を引き暮し、夜は出でて食を求む、

とゝだな　戸棚　（名）たな（棚）に戸を附けたるもの、をしいれ、板厨、

とゝたん　塗炭　（名）泥のくるしみ、火と水、書経に、有夏昏徳民墜塗炭、塗は泥、炭は火なりと見ゆ、

とたん　亜鉛　（名）金属元素の一にして其質堅く折れ易し、色灰白、爐甘石中より製す、真鍮は之れを銅に和せ製したるもの、

とたん　機　（名）はづみ、をり、ひようし、

とゝせん 徒跣 (名) すあし(素足)のかち はだし、はきものをはかぬをいふ、
どゝぜん 徒然 (名) つれづれ、ものさびしきこと、為すこともなく日を暮すこと、退屈、無聊、
とゝせん 渡船 (名) わたしぶねにおなじ、
とゝせん 賭銭 (名) 勝負ごとのかけ銭、
とせんゝば 渡船場 (名) わたしば、船渡のある場所、
とゝそ 屠蘇 (名) 年の始の祝に酒に加へて飲む薬、山椒、防風、肉桂、桔梗、白朮を合せ製す、古語、屠蘇酒治悪気温疫、辟邪風毒気、
とゝそう 抖擻 (名) づだにおなじ、仏教の語、
どゝそく 土足 (名) 履物で着けたるままの足、どろまみれの足、
とゝぞく 土俗 (名) その土地に限り行はるる風俗、
どゝぞく 土賊 (名) 百姓一揆、土民のさうどう、土寇、
とそゝしゆ 屠蘇酒 (名) とそを見よ、
とそつゝてん 兜率天 (名) 仏教の語にして須彌山頂にある天なりといふ、古語より見ゆ、
どゝだい 土台 (名) 一、ものの基礎、もと、二、礎の上にあり家の柱を載する材木、
とゝたう 徒党 (名) 悪しき者どものあつまり、

どゝたう 怒涛 (名) あらき波、怒れる波、大波、激浪、
どだうき 土当帰 (名) 植物 うどにおなじ、
とゝだえ 跡絶 (名) あとだゆること、つづかざること、
とだえゝのゝはし 跡絶橋 (名) 古陸奥国にありし名所に架せられたる橋、あやぶしとみゆるとだえのまろはし、
とだゝじやう 富田城 (名) 出雲国能義郡広瀬町富田に築かれたる城にして足利時代には佐々木持清之れを守護せり、後ち毛利氏に帰し関ケ原役後、徳川氏は之れを廃す、
とたてぐも (Tarantula) (名) 動物 蜘蛛で柔かき岩石を穴堀り作くる、其構造甚だ巧みにして外界より識別し難し、其の口に糸にて作れる戸を建て晝間は大腹もて此の戸を引き寄し、夜に出でて食を求む、
とゝだな 戸棚 (名) たな(棚)に戸を附けたるもの、だしいれ、板厨、
とゝたん 塗炭 (名) 必死のくるしみ、火と水、書経に、有夏昏徳民墜塗炭、塗は泥、炭は火なりと見ゆ、
とたん 亜鉛 (名) 金属元素の一にして其質堅く折れ易し、色灰白、爐甘石中より製す、真鍮は之れを銅に和せ製したるもの、
とゝだん 機 (名) はづみ、をり、ひやうし、

とだ、もすゐ　戸田茂睡（名）人名　寛永年中に出でたる有名なる歌人、名は恭光、通称は八兵衛、梨本庵と号す、又寒露軒と呼び、和歌の制に関せる著書少からず、

とだ、ゑちご　戸田越後（名）人名　戸田流剣法の祖にして世に刀槍の達人なり、元亀慶長年中前田利家に仕ふ、

とち　橡（名）植物　此の木は深山に発生し葉は桐に似て長大七葉相并ぶ、夏、栗花の如き穂を出し五瓣淡黄色の花を開き実を結ぶ、此の実は橡酒或は橡餅として食せらる、

とち　鼈（名）動物　とちがめの略、

と、ち　土地（名）地面、ところ、地所、

とぢ　綴（名）はんなどとぢたるところ、つづること、

どち　共（接尾）なかま（伴侶）を示すこと、代名詞 どちら（何方）

とち、かがみ　蘋（名）此の草は水中に生じ葉は大さ一寸ほどにて円く黄緑色なり、秋、茎を出し三瓣なる白花を開く、水鼈、

とち、がめ　鼈（名）動物　すつぽんにおなじ、

とち、がゆ　栃粥（名）栃の実をいれて煮たる粥、

とち、から　土地柄（名）その土地のさま、ばしよがら、

とちぎ、けん　栃木県（名）栃木県庁の管轄する区域をいふ、即ち下野国全郡なり、其県庁は河内郡宇都宮町にあり、

とぢ、こめ　閉籠（名）とぢこむること、れしむること、幽閉、

とぢ、すけもち　都治資持（名）人名　有名なる剣客にして無外流剣術の祖、月丹と称し近江甲賀郡の人なり、

とち、なまり　土地訛（名）或土地に限り用ゐらるるなまり（訛言）とちことば、国なまり、

とち、の、しようこう　土地の昇降 [illegible] and depression（名）土地の昇降は地殻褶曲の変動を挟す、而て之の昇降で生ずる原因は地皮の漸次地熱を失ひ縮まらんとする為め、内部の熱の為め溶解せる液体は外皮罅隙を通じて湧出し地上に変動を生ずるなり、

とち、もち　栃餅（名）栃の実を粉に入れてつきたる餅、

と、ちやう　斗帳（名）神佛の龕或は、帳台の上などに垂るるとばりの種類なり、其目的亦とばりと同じ、

どぢやう　鰌（名）動物　有脊動物中真骨四口類、鯉鮒族に属し其形ち鰻に似て太く短かし、口辺に鬚あり、背部は黒色の斑点を具ふ、多く泥中に住む、肉は美味なり、其料理法によりて鰌汁、鰌鍋、等の名称あり、

[illegible]ること、
[illegible]く、路をあゆみ
[illegible]ば、半途、

どーぢやう　土壌（名）鉱物　岩石風化作用の為及植物の根にて次第に腐朽して成りたるものなり、礫土、砂土、壌土、埴土の別あり、

1448

とだ、もすゐ　戸田茂睡（名）人名　寛永年中に出でたる有名なる歌人、名は恭光、通称は八兵衛、梨本庵と号す、又寒露軒と呼び、和歌の刷新に関せる著書少からず、

とだ、えちご　戸田越後（名）人名　戸田流剣法の祖にして世に刀槍の達人なり、元亀慶長年中前田利家に仕ふ、

とち　橡（名）植物　此の木は深山に発生し葉は桐に似て長大にして七葉相並ぶ、夏、栗花の如き穂を出し五瓣淡黄色の花を開き実を結ぶ、此の実は橡酒或は橡餅として食せらる、

とち　鼈（名）動物　とちがめの略、

と、ち　土地（名）地面、ところ、地所、

とぢ　綴（名）はんなどとぢたるところ、つづること、

どち　共（接尾）なかま（伴侶）を示すこと、代名詞〻どちら（伴）達の略、

とち、かがみ　蘋（名）此の草は水中に生じ葉は太さ一寸はどにして円く黄緑色なり、秋、茎を出し三瓣なる白花を開く、

とち、がめ　鼈（名）動物　すつぽんに同じ、水鼈、

とち、がゆ　栗粥（名）栃の実を入れて煮たる粥、

とち、がら　土地柄

とちき、けん　栃木県、即ち下野国全郡

とぢ、こめ　閉籠（名）とぢこむること、おしこむること、幽閉、

とぢ、すけもち　都治資持（名）人名　有名なる剣客にして無外流剣術の祖、月丹と称し近江甲賀郡の人なり、

とち、なまり　土地訛（名）或土地に限り用ゐらるるなまり（訛言）とちことば、国なまり、

とち、のしようこう　土地の昇降　Secular upheaval and depression（名）土地の昇降は地殻褶曲の変動を指す、而して之の昇降を生ずる原因は地皮の漸次地熱を失ひ縮まらんとする為め、内部の熱の為め溶解せる液体は外皮薄隙を通じて湧出し地上に変動を生ずるなり、

とち、もち　栃餅（名）栃の実を粉にし入れてつきたる餅、

と、ちやう　斗帳（名）神佛の龕或は、仏台の上などに垂るるとばりの種類なり、其目的亦とばりと同じ、

どぢやう　鰌（名）動物　有脊動物中真円口類、鯉鮒族に属し其形は鰻に似て太く短かし、口辺に髭あり、背部は黒色の斑点を具ふ、多く泥中に住む、肉は多た美味なり、其料理法によりて、鰌汁、鰌鍋、等の名称あり、

ど、ちやく　土着（名）或る土地に長く住みきること、

と、ちゆう　途中（名）ちうと（中途）に同じく、路をあゆみ居る、ものごとをなしつつある、なかば、半途、

1449

どふちゆう 杜仲 (名) 植物 まさきに似たり、

どちゆう 土柱 (名) 地文 軽鬆なる地中に石礫混じたる時、石下の部分のみ侵蝕を免れ、他は雨水の為に削磨されて生ずる柱状物をいふ、

……れたる僧尼の免許状

……の異名、古語、神や
……君の庭になれて、

トチラ Totila (名) 人名 東ゴード国の王、西暦五五二年東ローマ帝国とダジナに戦ひて利あらず、敗死す、

とつあう 凸凹 (名) あうとつに同じ、

とつあうレンズ 凸凹レンズ concavo-convex lens (名) 凸凹レンズはレンズの凸凹面を有するもの、

とつかつ 咄喝 (名) しかりつけること、

とつかのつるぎ 十握剣 (名) 刀の身の長さ十束ある剣、古語に見ゆ、

とつがは 十津川 (名) 河名 水源を大和国に発し紀伊国に入り熊野川と成る、急流の一つなり、

とつかん 吶喊 (名) わめきさけぶこと、ときの声をあぐること、きたけび、

とつぎどき 嫁齢 (名) 女のよめいりどき、とつぐべきとしごろ、

とつきやう 凸鏡 (名) 物理 凸面鏡に同じ、

……せきれいの異名、
……は西暦一八三九年英

国憲法中の六個条を変更せん為め請願せる下級の團體の名称なり、而て其個条とは普通選挙、無記名投票、毎年国会の開会、議員の有給、議員の財産資格廃止、平等選挙区之れなり、

とつぐ 嫁 (動) 女子が他家によめ入りする、嫁に行く、夫婦となる、

とづく 届 (動) ものの至り及ぶ意、とどく、とどける、

どつく 船渠 (名) 港湾内に、船舶を作り或は修繕する為めに作りたる渠をいふ、船廠、

とつくに 外国 (名) 一、本邦内の外の国を呼びなり、畿外、古語、とつ国には水草きよしこと志げき都のうちはすまぬきされり、二、外国をいふ、海外の国、

とつくりいちご 徳利覆盆子 (名) 植物 なはいちごに似、同じく蔓草にして茎は刺を有し茎葉は互生し、白色稀の花を開く、実は紅紫色なり、

とつかん 突貫 (名) わめきながら敵軍に突き入ること、

とつけつ 突厥 (名) 人名 土耳古族にして阿爾泰山の南方に住む、蠕蠕の部属なり、第六世紀の此土門なる者部長となり独立して伊利可汗と号す、伊利可汗は蠕蠕の君を殺さ、其子木杆可汗相継ぎ勇猛諸方を征服し遂に蠕蠕を滅し吐谷渾を降し、契丹を逐ひ其領土を広む、西もウラル海に迄る

1449

順序反対

とちゆう　杜仲　(名)　植物　まさきにれなじ、
どちよう　度牒　(名)　奈良朝時代より行はれたる僧尼の免許状、
また、告牒ともいふ、
とちよ、ぐさ　千代草　(名)　植物　松の異名、古語、神や
知ろう尼けるときをとちよぐされさしき君の庭になれて、
トチラ　Totila　(名)　人名　東ゴード国の王、西暦五五二年
東ローマ帝国とダジナに戦ひし利あらずして敗死す、
とつ、あう　凸凹　(名)　あうとつに同じ、
とつ　あうれんず　凸凹レンズ　Convexo-concavelens　(名)　凸凹レンズはレ
ンズの凸凹面を有するもの、
とつ、かつ　咄喝　(名)　しかりつけること、
とつか、の、つるぎ　十握剣　(名)　刀の身の長さ
十束ある剣、古語に見ゆ、
とつ、がは　十津川　(名)　河名　水源を大和国に発し紀伊国
に入り熊野川と成る、急流の一つなり、
とつかん　吶喊　(名)　わめきさけぶこと、ときの声をあぐる
こと、きたけび、
とつぎ、どき　嫁齢　(名)　女のよめいりどき、とつぐすきと
しごろ、
とつぎ、をしへ、どり　嫁教鳥　(名)　動物　せきれいの異名、
トツキヨトウ（とっきょとう　特許党）　Chartist　(名)　特許党は西暦一八三九年英

国憲法中の六個条を変更せん為め請願せる下級の團體の為
称なり、而して其個条とは普通選挙、無記名投票、毎年国会
の開会、議員の有給、議員の財産資格廃止、平等選挙区之
れなり、
とつぐ　嫁　(動)　女子が他家によめいりする、嫁に行く、夫
婦となる、
とづく　届　(動)　ものの至り及ぶ意、とどく、とどける、
どつく　船渠　(名)　海港内に、船舶を作り或は修繕する為め
に作りたる渠をいふ、船廠、
と、つ、くに　外国　(名)　一、当家内の外の国を呼ぶなり、
縁外、古語、とつ国には水草きよしこと忘げき都ゆうちは
すまぬきされり、二、外国をいふ、海外の国、
とつくいちご　德利覆盆子　(名)　植物　なわいちごに同
じく蔓草にして茎は刺を有し葉は互生し卑、白色五弁の花を
開く、実は紅紫色なり、
とつ、かん　突喊　(名)　わめきながら敵軍に突き入ること、
とつけつ　突厥　(名)　人名　土耳古族にして阿爾泰山の南に
住む蠕蠕の部属なり、第六世紀のはじめ土門なる者酋長となり
独立して伊利可汗と号す、伊利可汗は柔然の為めに殺され
其子木杆可汗相継ぎ勇猛諸方を征服し遂に柔然を滅し吐谷
渾を降し、契丹を逐ひ其鉄勒を虜む、西もウラル海に迄る

、東は満州に至り、西はハルピンより南は青海の地を併有
せり、其後ち、從弟達頭可汗をして四方を統治せしめし後
め於兵突厥は東西に分離せらる
とつき　咄嗟（名）しばらく、わずかのとき、しばし、
とつさか、のり　鶏冠菜（名）植物　とさかのりに同じ、
とつ、しん　突進（名）つきすすむこと、わきめふれずすすす
むこと、
とつ、しんじや　土津神社（名）岩代國耶麻郡磐梯村に鎮座
す、縣社にして保科正之を祭れるもの、元治年間從三位の
贈位宣下せられたり、
とつ、しゆつ　突出（名）ものゝつきいづること、
とつ、せん　突戦（名）つきたて戦ふこと、
とつ、つけ　鳥附（名）しほじの花ある紐、
とつ、で　取手（名）器具の手に持つ料につくられたるとこ
ろ、つまみどころ、柄、提梁、
とつ、とこ　外床（名）との方の床、古語、奥床に母は
いねたりとつとこに父はいねたり、
とつとつ、くわいじ　咄咄怪事（名）あやしむ意、咄咄とは
驚き怪しむときに発する語、怪事は事を怪しむ可き意、
とつとり　鳥取（名）地名　山陰道因幡國邑美郡にある都會
にして鳥取縣廳の所在地なり、旧幕時代池田氏の領なり、

とつとり、けん　鳥取縣（名）鳥取縣廳の管轄する區域の名
稱、因幡國、伯耆國の全部をいふ、其縣廳は鳥取市にあり
、
と、つなぎ　外繋（名）牛馬を繋ぐ柱、とめつなぎの意、よ
せはしら、柳て
とつなの、はし　十綱橋（名）陸奥にある名所、古語に、
みちのくのとつなのはしよくる綱のたえずも人にいひ渡る
かな、
とつ、ぱ　突破（名）すつぱに同じ、武家の役名、
とつ、ぱい　頭蓋（名）兜の鉢をいふ、
どつ、ばつ　銅鈸（名）どびやうしに同じ、
とつぴ　貂皮（名）動物　貂に似たる獣にて朝鮮に棲息す、
貂鼠、
とつ、べん　訥辯（名）ものいひに、よどみあること、つた
なき辯、不辯舌、
と、つ、みや　外宮（名）一、げくう（外宮）に同じ、二、り
きう（離宮）に同じ、
とつめん、きやう　凸面鏡（名）球面の凸起せる鏡をいふ、
どいて　土手（名）つゝみに同じ、
どて　十手（名）捕吏の用ゐる道具にて十手をいふ、
と、てい　徒弟（名）でし、門人、門弟、

とていゝがくかう 徒弟学校 （名） 職人たるに必用なる学問や実習を授くる学校、

とゝてつ 迍邅 （名） みち〳〵、すぢみち、

どてゝぶし 土手節 （名） 寛文年間に流行せる小唄の節をいふ、

とても 迚 （副） いかにするとも、いかになすも、とてもかくても、古語、とてやかくてやと、

どてら 縕袍 （名） 冬季の服とし或は夜着のねまきとする着物にて、座袖多し長く綿を入れつくれるもの、

とと 父 （名） ちゝ、てゝ、おやぢ、児供の父を呼ぶ語、

とと 魚 （名） うを、さかな、児供の魚を呼ぶ語、

とど 鯔 （名） 動物 北海道根室近海に産する海獣、其形は猪に似たり、海獺、

とど 椴 （名） 植物 えぞまつみたねなじ、

どゝど 度度 （副） たびたび、をりをり、しば〳〵、毎々、

どゝいつ 都都一 （名） 俗曲の小歌をいふ、七こ、七、七、五の四句もて作らる、都都逸、

とゝとう 度頭 （名） わたしばみれなじ、

どゝとう 土塔 （名） 地文 土柱に同じ、

かねぐさの異名、

とゝとく 都督 （名） 陸軍の区域せる各師団を管轄する官名、全国を東中西の三部に分ち大将或は中将もて其各域内にある師団を統轄せしめらる、又近衛兵の長官をいふ、

とどけ 届 （名） ものごとを届くること、役所などに届出ずること、

とどけゝいで 届出 （名） 役所に申して申し出でることと、

とどけゝさき 届先 （名） 品物や書状などとどく行き家、

とどけゝしよ 届書 （名） 役所へ申す出す書き付けを志るしたるかきもの、

とどこほり 滞 （名） とどまりゐること、つかへ、はかどらぬこと、又語動詞に用ゆれば、はかどらずすゝまず、滞滞す、貸せしもの期限に至りても返らず、

ととのふ 調 （動） 自動詞、ものごとの備はる、そろふ、整、全備す、釣合ふ、適合す、他動詞、ととのへる、調子を合す、備ふ、調和す、整ふ、

トドレベン Todleben （名） 人名 先き独逸人に出す、露西亜の将軍なり クリミヤ戦争の際、セバストポルの防禦者として其の名を著し、又、土耳古との戦争にプレブナに大功を立つ、後ブルガリアの総督となる、西暦一八一八ー一八八四年、

全く息を絶つこと、

とどめく 轟 （動） がやがやわめきさはぐ、古語、

とていゝがくかう 徒弟学校 (名) 職人たるに必用なる学問や実習を授くる学校。
とゝてつ 途轍 (名) みちゝ、すぢみち。
どてゝぶし 土手節 (名) 寛文年間に流行せる小唄の節をいふ。
とても 迚 (副) いかにするとも、いかになすとも、とてもかくても、古語、とてやかくてやと。
どてら 縕袍 (名) 冬季の服とし或は夜着のねまきとする着物にて、広袖にして厚く綿を入れつくれるもの。
とと 父 (名) ちゝ、てゝ、おや、児供の父を呼ぶ語。
とと 魚 (名) うを、さかな、児供の魚を呼ぶ語。
とど 鯸 (名) 動物、北海道根室近海に産する海獣、其形は猪に似たり、海獺。
とど 椴 (名) 植物、えぞまつにおなじ。
とゝど 度度 (副) たびたび、をりをり、しばしば、毎毎。
どゝいつ 都都一 (名) 俗曲の小歌をいふ、七、七、七、五の四句もて作くらる、都都逸。
とゝとう 度頭 (名) わたしばにおなじ。
ときゝにんじん 沙参 (名) 植物、つりがねぐさの異名、又とときともいふ。
とゝとく 都督 (名) 陸軍に区域せる各師団を管轄する官名、全国を東中西の三部に分ち大将或は中将もて其区域内にある師団を統轄せしめらる、又近衛兵の長官をいふ。
とどけ 届 (名) ものごとを届くること、役所などに届出ずること。
とどけゝいで 届出 (名) 役所に来て申しいでること。
とどけゝさき 届先 (名) 品物や書状などとどく行き家。
とどけゝしよ 届書 (名) 役所へ申す出ずる旨を記るしたるかきもの。
とどこほり 滞 (名) とどまりゐること、つかへ、はかどらぬこと、上語動詞に用ゆれば、はかどらず、すゝまず、渋滞す、経過しもの期限に至りても返らず。
とゝのふ 調 (動) 自動詞、ものごとの備はる、そろふ、整ふ、全備す、程よく適合す、他動詞、とゝのへる、調子を合す、備ふ、調合す、整ふ。

トドベレン Todeblen (名) 人名、先き独逸人に出す、露西亜の将軍なり、クリミヤ戦争の際、セバストポルの防禦者として其の名を著し、又、土耳古との戦争にブレブナに大功を立つ、後ブルガリアの総督となる、西暦一八一八―一八八四年。

全く息を絶つこと。
とどゝめく 轟 (動) がやがやわめきさはぐ、古語。

1451

とていがくかう　徒弟学校　（名）　職人たるに必用なる学問や実習を授くる学校、

とゝてつ　途轍　（名）　みち、すぢみち、

どてゝぶし　土手節　（名）　寛文年間に流行せる小唄の節をいふ、

とても　迚　（副）　いかにするとも、いかになすも、とてもかくても、古語、とてやかくてやと、

どてら　縕袍　（名）　冬季の服と云或は夜着のねまきとする着物にて、唐袖なし寛く綿を入れつくれるもの、

とと　父　（名）　ちゝ、てゝ、おや、兒供の父を呼ぶ語、

とと　魚　（名）　うを、さかな、兒供の魚を呼ぶ語、

とど　鯼　（名）　動物　北海道根室近海に産する海獸、其形ち猪に似たり、海獱、

とど　椴　（名）　植物　えぞまつにおなじ、

どゝど [illegible]

どゞ [illegible]

[pasted slip: [illegible]]

とゝとく　都督　（名）　陸軍に区域せる各師團を管轄する官名、全國を東中西の三部に分ち大将或は中将もて其各區域内にある師團を統轄せしめらる、又近衛兵の長官をいふ、

とどけ　届　（名）　ものごとを届くること、役所などに届出ずること、

とどけいで　届出　（名）　役所に申し出でること、

とどけさき　届先　（名）　品物や書状などとどくべき家、

とどけしょ　届書　（名）　役所へ申す出ずべき旨を志るしたるかきもの、

とどこほり　滞　（名）　とどまりあること、つかへ、はかどらずすゝまず、澁ゆとと、此語動詞として用ゐれば、はかどらず、滞す、延滞せしもの期限に至りても返らず、

とゝのふ　調　（動）　自動詞、ものごとの備はる、そろふ、整ふ、全備す、件に適合す、他動詞、とゝのへる、調子を合す、備ふ、同じく合す、整ふ、

とどまつ　椴松　Abies sachalinensis　（名）　植物　椴松（トドマツ）はえぞまつにおなじ、

とどまる　止　（動）　自動詞、とまる（留）、すゝまず、他動詞、とどめる、行かしめず、なさしめず、

とどめ　止　（名）　生物を殺したるとき、最後に、其喉を刺し全く息を絶つこと、

とどめく　轟　（動）　がやがやわめきさはぐ、古語、

とどや、すけざゑもん 呂宋助左エ門 (名) 人名 豊臣時代の商人にして呂宋等に外国貿易を営めり、和泉堺の人、日本商人鏡を見よ、

とどろき 轟 (名) ひびき亘る音、鳴動、鳴りわたる声、

とどろき、の、たき 轟瀑 (名) 此の瀑は阿波国海部郡平井村にあり、高さ十九丈作し又同名の瀑、伊豫国喜多郡大谷村にあり、高さ三十六丈、幅二丈、風致絶佳、

とどろき、の、はし 轟橋 (名) 大和国の名所にある橋名、之の橋にはき詠みたる古歌あり、

とどろく 轟 (動) 北響き渡る、有名になる、あまねく知らる、

ドナウ Danube (名) 欧羅巴に於てボルガ河に次ぐ大河にして其源を黒林に発し欧州中部高原渡流に便す、南流して黒海に注ぐ、西暦一八七七年六月露土戦争の際露軍は此の河を渡りブルガリアに侵撃せり、ドナウの航行は各国其自由の権を有せり、

となかい 馴鹿 Reindeer (名) 動物 寒地に産する鹿の一種にして、角は大にして曲り且つ下枝あり、性至順、力あるを以て土人は之を以て橇を引かしむ、肉は食用に供し皮は衣を製す、

となせ、かご 戸無瀬籠 (名) よつでかご(籠)、やまかご、

となせ、がは 戸無瀬川 (名) 河名 大和国にあり、此の川にて詠みたる古歌あり、

となせ、の、たき 戸無瀬瀑 (名) 山城国葛野郡嵐山麓にある瀑名、現今の歌に、吹きわたる峯の嵐の山風にとなせのたきの水のまさる波、

となせ、やま 戸無瀬山 (名) 山名 山城国嵐山の別称、

となた 何方 (代) どの方、どちら、いづかた、いづれ、何人、

ドナテロ Donatello (名) 人名、以太利の有名なる彫刻家にして且つ画工なり、西暦一三八六年以太利フロレンスに生る、初め鍛冶所の徒弟たりしが十七才のときにはローマに出で斯道を学び、帰りて大に名声を揚げたり、

となふ 称ふ (動) よぶ(呼)、声上ぐ、なづく(名)、となへる、

となふ 唱ふ (動) 声立てて呼ぶ、となへる、供名をとなへる、うたふ、誦す、

となへ 唱 (名) となふること、となへること、

となへ 称 (名) 人の呼び名、称号、名称、

どなべ 土鍋 (名) 土を焼き製したる鍋、瓷鍋、

となみ 斗南 (名) 地名 陸奥下北郡にある都邑、青森県下なり、別称、田名部、

14ノ1

となみ、つ、せき 礪波関（名）礪波山にあり関所の名称、
となみ、はる 鳥網張（枕）山深き谷辺などに網をはりて十
鳥を捕ふること、
となみ、やま 礪波山（名）山名 越中と加賀との界にある
山さ、一名栗殻嶽ともいふ、寿永二年木曽義仲が平維盛軍を
牛攻めにせし歴史上の古跡とす、
となり 隣（名）わが住居に並び並び立てられたる家、動詞
、となる、境を接す、さかふ、形容詞、となりの家、とな
りの人、
となり、の、をか 隣岡（名）地名 山城国時鳥の名所、
となん、の、さい 斗南才（句）天下第一流の才物、唐書に
、狄公之賢、北斗以南一人而已、
トニエストル Dniester（名）河名 此の河は水源をオラスト
リアに発し露領に入りベンドルを流過しアクジヤルマン
より黒海に注ぐ、流程六五〇哩を有す、
ドニエプル Dnieper（名）河名 此の河は源をスモレンスク
州に発し黒海に注ぐ古はボリステニスと称す、此の地方
は露領中尤も肥饒なる地とす、流程一三三〇哩、舟楫の便
あり
と、ね 刀禰（名）朝庭に仕へたる人の総称にて古語なり、
古く時世の語転用して、公事を司るも村長の如きも呼ぶ、

とね、あらそひ 刀禰争（名）力くらべ、すねをし、など
勢をいふ、古語、
とね、がわ 利根川（名）河名 別称、坂東太郎と呼び甘
で上野国利根郡文殊山に発す、武常総の三国を流轉して
子湾に注ぐ、流程七十余里、
トネグリエイ Tonnegrië（名）人名 佛国の将軍にして清佛
戦争に出征しクウルベイの海軍と協力諒山を降し鎮南関に
侵入せり、時に光緒十一年とす、
とねの、つかさ 刀禰司（名）さんにれう（散位寮）におなじ
、古語、
とねり 舎人（名）天皇或は皇族に仕へ雑務を司れる官名、
大舎人、内舎人、小舎人の別あり、各々其官位を異にす、
とねり、こ 秦皮（名）植物 此の木は古と秦皮と称し薬料
に用ゆ又膠に製す、其葉は對生にして鋸歯状なり、夏、淡
黄穂状の花を開き松子に似たる実を結ぶ、
とねり、しんわう 舎人親王（名）人名 天武天皇の第四子
、性、聡明にして博文強記、天明天皇の時勅命を奉じ総裁
となり日本書紀を撰す、天平七年薨す、享年六十、太政大
臣を贈らる、
との 殿（名）ごてん、高貴の人の住する家、二、摂政関
白の異称、三、貴人を尊び呼ぶ語、中古、妻より其夫を呼

14八4

ふに用ゐ轉せ、一般に女より男子を呼ぶ語となれり、接尾
語として人の姓名に添へて敬意を示す語とす、一条どの、
やべどの、代名詞、どの（何）、いづれの、どれの、

とのあぶら　殿油　（名）　おほとなぶらに同じ、古語、

とのうつり　殿移　（名）　住所をうつすこと、古語、

とのうら　外浦　（名）　石見国那賀郡にある浦にて一名
琴の浦ともいふ、

とのがた　殿方　（名）　婦人より或ほかの男子を呼ぶ称、

とのこ　砥粉　（名）　黄土を焼き粉にしたるもの金属を塗き
又は漆細工に用ゆ、磨力塗、

とのこ　鳥子　（名）　紙名にてとりのこの略、

とのごもる　殿籠　（動）　おやすみになる、いねる、古語、

とのさま　殿様　（名）　君主を尊び呼ぶ、又一般に身分尊き
人を呼ぶ語、

とのさまがへる　Rana esculenta　（名）　動物　金線蛙は両棲類
の蛙の一種にて背に萌黄色の縦縞あり、飛躍力極めて強く
河川池沼に棲み虫類を食し生存す、鳴く時は咽袋を膨大す、

とのたまがき　外玉垣御門　（名）　伊勢両宮の外より
第一の御門、

とのづくり　殿造　（名）　家の作りかた、

とのど　殿戸　（名）　家の戸、古語、

とのばら　殿原　（名）　とのがた、とのたち、おほくの男子
を呼ぶ語、

とのばらむすめ　殿原女　（名）　殿原の女、

とのへ　外重　（名）　大宮の御垣の外をいふ、古語、

とのもづかさ　主殿寮　（名）　宮内省四寮の一にして、庭
の掃除、湯沐、薪油等を掌る役所にて大寶令にて定めら
れたるものなり、

とのもり　主殿　（名）　主殿寮の下に属する官人男女の総称
、古語に見ゆ、

とのもりょう　主殿寮　（名）　とのもづかさに同じ、

とのゐ　宿直　（名）　一、夜、禁中に宿直して守衛の任にあた
ること、二、皇后又は、女御などの天皇と共に添臥せらる
ること

とのゐぎぬ　宿直衣　（名）　とのゐさうぞくに同じ、古語
、

とのゐさうぞく　宿直装束　（名）　禁中に宿直するとき着用
する服、古語、

とのゑ　外衛　（名）　禁中の御垣外を守る左右の衛兵、古
語、

とば　鳥羽　（名）　地名　志摩国志摩郡にある都邑の名称、三
重縣下の管轄に属す、旧幕時代は稲垣氏の領なり、

4551

とば　鳥羽　(名) 地名　山城国紀伊郡鳥羽村の称、此の地京師に近きを以て歴史上の旧跡を挙げて数ふ可からず、元弘三年官軍の為め北条氏の将名越高家此の地に敗死す、維新の際、徳川慶喜大坂城より会桑の兵を率ゐ伏見及び此に薩長の兵と戦ふ、

どーば　賭場　(名) かけごとをするところ、ばくちするところ、勝負をするところ、

どいば　駑馬　(名) つたなき馬、あゆみのおそきうま、

トバ　Toba (名) 地名　スマトラ島の一州にして北部に湖水を有す、北緯二、〇、東経一〇一、〇、を占む

ドバ　Doba (名) 地名　ベルヂスタン国北部の一州にして北緯三〇、〇、東経六七、〇、を占む、

ドーバー　Dover (名) 地名、英国ケント海岸にある港なり、仏蘭西に最も接近し、ロンドンの東南六十哩にあり、ドーバア海峡は、英吉利海峡と北海とを連結す、

とば・ゑ　鳥羽絵　(名) 鳥羽僧正覚猷の戯画をいふ、

…ながろきかを知らず、

…博奕、

…所、地橋、

…などの何かになり

…はねとぶ、

…らすし間を抜く。

…手だて

…所子

とはずがたり　不問語　(名) 唯も問はざるに自ら語り出すこと、ひとりごと、

とはずがたり　不問語　(名) 中井甃庵の随筆の書名、

とはせじま　戸馳島　(名) 嶋名　肥後国西海中にあり、周囲、壹里一町、

とばそうじやう　鳥羽僧正　(名) 人名　堀川天皇の御代に出でたる鳥羽絵の開祖、名は覚猷と呼び源隆国の子にして天台の座主に挙げられ大僧正となる、鳥羽に住せるを以て鳥羽僧正と号す、幼にして画を好み、専ら写生により形似を求めず遂に一家を為せり、

とばたいのうら　飛幡浦　(名) 地名　伊勢国にあり、月、時鳥などの名所、古歌に見ゆ、

と、ばつつけ　土磔　(名) 古に行はれたる刑にして、罪人の手足を縛し地上にはりつけ射殺せるもの、

トハ、テムル　Toghatimur (名) 人名　脱歓帖木兒は欽察汗抜都の弟にして蒙古の一族、国を里海の隣に立つ、克里姆汗は其子孫なり、

とば、てんわう　鳥羽天皇　(名) 皇名　第七十四代の天皇にして御名はむねひと(宗仁)、堀川天皇の第一の皇子、御母は藤原茨子、在位十六年、譲位の後ち、政を院中に聴かるこれ我国院政の初めとす、天皇内寵のことより為め保元の乱起れり、

とば　鳥羽（名）地名　山城国紀伊郡鳥羽村の称、此の地京師に近きを以て歴史上の旧跡算げて数ふ可からず、元弘三年官軍の為め北条氏の将名越高家此の地に敗死す、維新の際、徳川慶喜大阪城より依り会桑の兵を集め伏見及び茲に薩長の兵と戦ふ、

どば　賭場（名）かけごとをするところ、ばくちするところ、勝負をするところ、

どば　駑馬（名）つたなき馬、あゆみのおそきうま、

トバ　Toba（名）地名　スマトラ島の一州にして北部に湖水を有す、北緯二、〇、東経一〇一、〇、を占む

ドバ　Doba（名）地名　ベルチスタン国北部の一州にして北緯三一、〇、東経六七、〇、を占む、

とほう　途方（名）みちすぢ、ことはり、しかた、手だて、俗語、とはうもないこと、

とはう、を、うしなふ　失途方（句）去かたを失ふ、如何すべきかを知らず、

どばく　賭博（名）ばくち、かけごと、博奕、

どばし　土橋（名）土にて覆ひ作れる橋、地橋、

とばしり　迸（名）とばちりともいへて水などの細かになりとぶこと、動詞、とびちる、ほどばしる、はねとぶ、

とばす　飛（動）急き走らす、はせる、ちらす、間を抜く、

とはずがたり　不問語（名）唯も問はざるに自ら語り出すこと、ひとりごと、

とはずがたり　不問語（名）中井甃庵の随筆の書名、

とはせしま　戸馳島（名）島名　肥後国西海中にあり、周囲、壹里一町、

とばそうじやう　鳥羽僧正（名）人名　堀川天皇の御代より出でたる鳥羽絵の開祖、名は覚猷と呼び源隆国の子にして天台の座主に挙げられ大僧正となる、鳥羽に住せるを以て鳥羽僧正と号す、幼よりして画を好み、専ら写生により戯化を求めず遂に一家を為せり、

とばた、の、うら　飛幡浦（名）地名　伊勢国にあり、月時島などの名所、古歌に見ゆ、

と、ばつつけ　磔（名）古に行はれたる刑にして、罪人の手足を縛し柱上にはりつけ射殺せるものゝ、

トハ、テムル　Tohatemur（名）人名　脱脱帖木児は欽察汗抜都の弟にして蒙古の一族、国を黒海の隣に立つ、克里姆汗は其子孫なり、

とば、てんわう　鳥羽天皇（名）皇名　第七十四代の天皇にして御名はむねひと（宗仁）、堀川天皇の第一の皇子、御母は藤原苡子、在位十六年、譲位の後ち、政を院中に聴かるこれ我国院政の初めとす、天皇内寵の為め保元の乱起れり、

とは、に 常盤 (副) ときはにの略、古語、
とはゝま、はし 欲问 (形) とひたし、ききたし、
とば、みなと 鳥羽港 (名) 志摩国答志摩郡鳥羽崎にあり、
とばん 吐蕃 (名) 族名 西藏に住せし回伯特族なり、唐の時代に至り初めて支那史に現る、此の時棄宗弄贊其君主となり佛教を深く信じ大臣をしてヒマラヤ山を越え印度に佛典を求めしめたり、其憲法律令は皆佛教の主義に基けり、唐の太宗貞観年了に侯君集をして之れを撃しむ、吐蕃散じ漸く遂に降り、太宗の女を嫁す、
と、ばん 土番 (名) 昔よりその地に住める蕃民、野蛮人、
と、ばり 帷 (名) 布を張りて室内の方をしきり隔つる布片をいふ、帷幔、帳、
とはれ、ぐさ 被问草 (名) 植物 をぎ(荻)の異名、古語、
とば、ゑ 鳥羽畫 (名) 筆意の粗にして軽妙なる画、とばそうじやうを見よ、
とひ 同 (名) ものたづぬること、问ふこと、尋问、諮问、
とひ 樋 水を引くためにつくれるもの、樋竹、筧、
とゝひ 都鄙 (名) 都と鄙、みやこと、いなか、
と、ひ 徒費 (名) むだづかひ、冗費、浪費、
とび 鳶 (名) 動物 有脊椎動物中、鳥目中、猛禽類中の鵰科に属す、其形ち、鷹に似て鋭利なる鉤状の爪を有す、其色は茶褐色にして尾開き嘴曲れり、能く腐肉を嗜食するを以て衛生上有益の動物なり、
どゝひ 奴婢 (名) 下男、下女の総称、
どゝび 荼蘼 (名) 植物 高さ一丈ばかりに至る木にして枝に刺を生じ葉は五葉一朶をなす、夏時青白の花を開く、とんきんいばら、

トビア Tobiah (名) ヘブライ人のことにて舊約全書に出づ、

……、跳上、名詞、
……とやる人、
……ことをたしかめる、名詞、といあはせ、
とび、いし 飛石 (名) 庭や路次などに少しづつはなして敷きたる石、
とび、いる 飛入 (動) 突然にものの中にのること
とび、いろ 鳶色 (名) 鳶の羽の如き色、茶褐色、
とび、うを 飛魚 (名) 動物 とびのうをよれなじ、
どひ、かしう 土肥霞洲 (名) 人名 江戸の人、徳川幕府の儒員なり、名は元成、字は允中、通称源四郎と呼ぶ、幼にして穎悟、六才にして旣に詩を賦す、新井白石に就て学び、学識兪々進み寶暦年了将軍家宣の侍讀と擢ばる、
とび、かふ 飛交 (動) とびきたり、とびさり、とびちがふ、あちこちとびあふ、

とは、に　常盤　(名)　ときはにの略、古語、
とはゝま、はし　欲問　(形)　とひたし、ききたし、
とば、みなと　鳥羽港　(名)　志摩国志摩郡鳥羽崎にあり、
とばん　吐蕃　(名)　族名　西蔵に住せし回伯特族なり、唐の
時代に至り初めて支那史に現る、此の時棄宗弄賛其君主と
なり仏教を深く信じ[illegible]仏
世人を求めしめたり[illegible]
唐の太宗貞観年号
来く遂に降り、太宗の女を娶る、
と、ばん　土番　(名)　昔よりその地に住める蕃民、野蛮人、
と、ばり　帷　(名)　布を張りて室内の方をしきり隔つる布片
をいふ、帷幔、帳、
とはれ、ぐさ　被問草　(名)　植物　をぎ(荻)の異名、古語、
とば、え　鳥羽画　(名)　筆意の粗にして軽妙なる画、とばそ
うじやうを見よ、
とひ　問　(名)　ものたづぬること、問ふこと、率問、諮問、
とひ　樋　水を引くためにつくれるもの、樋竹、筧、
と、ひ　都鄙　(名)　都と鄙、みやこといなか、
と、ひ　徒費　(名)　むだづかひ、冗費、浪費、
とび　鳶　(名)　動物　有脊椎動物中、鳥綱中、猛禽類中の鴟
科に属す、其形ち、鷹に似て鋭利なる鈎状の爪を有す、其
色は茶褐色にして尾羽長く嘴曲れり、能く鳥肉を嗜好すると
以て衛生上有益の動物なり、
ど、ひ　奴婢　(名)　下男、下女の総称、
ど、び　荼蘼　(名)　植物　高さ一丈ばかりに至る木にして
枝に刺を生じ葉は五葉一朶をなす、夏時青白の花を開く、
とんきんいばら、
とび、あがる　飛揚　(動)　はねあがる、雀躍、跳上、名詞、
とびあがりもの、前後の考もなくものごとをやる人、
とひ、あはす　問合　(動)　ききあはす、ものごとをたしかめ
る、名詞、といあはせ、
とび、いし　飛石　(名)　庭や路次などに少しづつはなして敷
きたる石、
とび、いる　飛入　(動)　突然にものの中にいること
とび、いろ　鳶色　(名)　鳶の羽の如き色、茶褐色、
とび、うを　飛魚　(名)　動物　とびのうをにおなじ、
どひ、かしう　土肥霞洲　(名)　人名　江戸の人、徳川幕府の
儒臣なり、名は元成、字は允中、通称源四郎と呼ぶ、幼にし
して穎悟、六才にして既に詩を賦す、新井白石に就て学び
、学識愈々進み宝暦年間将軍家重の侍読と擢ばる、
とび、かふ　飛交　(動)　とびきたり、とびさり、とびちがふ
、あちこちとびあふ、

とびーぐち　鳶口 (名) 材木などを引きよするに用ゆるもの、棒の一端に鳶の嘴状の鉄の鉤をつけたるもの、

とびーこす　跳越 (動) 物をはねこへるなり、又　秩序をふまずにゆくなり、

とびーさねひら　土肥実平 (名) 人名、勇将にして政治家、相模国土肥村に住む、源頼朝の下に将として石橋山に戦ひ危地より頼朝を救ひ出し　遂に覇業を成さしめたるなり　永久二年十一月歿す、

とびーさる　飛去 (動) 其の場をとびのく、とびて他へ去るなり、

とびーしま　飛島 (名) 島の名　羽後国西南に面する海中にあり、周囲二里あり、

とびーしま　飛島 (名)、島の名　備中国の南方に面する瀬戸内海中にあり、

とびーしやうぎ　飛将棊 (名)、遊戯の具、敵味方互に三個宛三層に駒を並べて　順番に前進し　早く敵の陣地へ我が駒を進めたるを勝とするなり、

とびーだうぐ　飛道具 (名) 遠所の敵を攻撃する武器の総称なり　例、弓、矢、鉄砲等の如し、

とびーだけ　樋竹 (名) 竹を二ツ割にして造りたる樋のことにして　雨水を承け　又は水を運びやるもの、

とびーち　飛地 (名)、其所彼所に散在する地にして　自分の住所よりかけはなれゐる地あり、

とびーちがふ　飛違 (動)、飛び違へて　普通はぬなり、とびかふ、又、大に違ふ、大いにかけはなれるなり、

とびーつきげ　鴾月毛 (名) 馬の毛色、鴾の羽の色を存したる月毛のこと、

ドビナ　Dwina (名) 河の名、ヨーロッパロシアの北部にある河のこと、西部にあるものを西ドビナ河と称す、共に白海に注ぐ、

とびーうを　飛魚 (名) 動物、魚類、喉鰾類に属す、体は尺余に及びて　円筒状をなす　其の胸鰭は殊の外　能く発達して　体より大なることあり、いるか等の捕食を恐れ　空中に飛び上り　其の鰭撥にて水上を横飛し　三回回波状をなして遂に海中に入る、而して一旦来れる方向に躍り返し　後漸く水中を游泳するものなり、而して其の大なる胸鰭は翼の作用をなし　とびが空中に於て　其の翼を張りて落下せざると同一の作用あり、

ロ3/41
14八

とびーのーもの　鳶者（名）消防夫のことゝ
とびーのーを　鴟尾（名）輳の如くに牛車の脊後に出たるものをいふ、
とびはちぢやう　鳶八丈（名）織物の名、鳶色と黄色とを次て八丈縞の如く織りたるもの、
とびーひ　飛火（名）、火事等の際に火片が遠隔の地まで風媒によりて行きたるものをいふ、又子供の面皀に出づる水膿の病をいふ、
とびーむし　飛虫（名）動物甲殻類中節甲類に属する虫にして　溜池等の淡水に生息す、全体側扁にして　灰黒色を呈し　灰色の斑紋あり、胸腹の肢は各其形を異にし　体全体に細毛を有し　尾節には叉状物あり　二つよりて巧に飛びはねるなり、其の触角は短大にして　頭側には一個の単眼を有す、
とひーや　問屋（名）製造家より貨物を仕入れ　小売販売人に卸し売りする大商店のこと、俗にとんやと称す、又　種々の貨物の水陸運送を業とする商店のこと、
どーびやうし　銅拍子（名）、楽器の一種、形皿の如き銅杯に紐を着けたるものにて　之を回転し作ら　打合はして鳴らすものなり、仏教の葬式などに用ゆ、
とびやーば　問屋場（名）、宿駅にある駅亭のこと、人足、駄馬等を給する所なり、
どーびら　扉（名）左右に開く戸のこと、即ち　ひらきどのこと、左右の戸を両扉、其の一方を片扉と称す、
とーふ　都府（名）、政府　其他の機関の集まり居る所の市、即ち　首府のこと、
とーふ　妬婦（名）、嫉妬心の深かき女のこと、りんきぶかき女のこと、
とふ　問（名）一、不審を問ひ糺すなり、事を尋ねるなり、二、其の人の安否を尋ぬるなり、三、死人の亡霊を弔ふなり、弔するなり、
どぶーがひ　溝貝（名）動物　貝の名、五六寸の貝にして多くは　淡水に棲息す、其の味　美ならず、
とぼーぎよ　杜父魚（名）、動物　魚の名、いしぶしのこと、
とーふく　屠腹（名）　自ら　腹を屠ること、即ち　切腹　割腹におなじ、
とぶかりのー　かずさへーみゆる　飛ぶ雁の数さへ見ゆる、（句）

1459

秋の月の　皎々たることを示したる句なり、古今集「し
ら雲に羽うちかはし　飛ぶ雁の　数さへ見ゆる　秋の夜
の月」とあるより起る、
と－ぶさ　鳥總（名）、木の梢のこと、元来は樵夫が　大木
を伐栽して　其の木の末を　伐株に立てて　山神を祭りた
ることなり、
とぶ－さらひ　溝浚（名）、滞りたる下水を　掃除して押し流
し清めること、
どーぶつ　土佛（名）、土を焼きて造りたる佛像のこと、又
甚しく肥満せる女の嘲称、
とぶとりーの　飛鳥（枕）、あすかと称する鳥は　沖天高くど
に鳥なれば　あすかに懸けていふ、
どぶーねずみ　溝鼠（名）、下水の中に住み居る鼠のこと、
とぶーひ　飛火（名）狼火の一種、昔時事変発生したる時
、之を遠所に知らする為めに　沖天高く打揚げたる火のこ
とをいふ、
とぶひーの　飛火野（名）、野の名、霞　若菜等の名所、大和
国添上郡にあるもの
どーふん　土墳（名）、土高く　土を盛りあげたる墓のこと、
又、あつちのこと、
とぶらひ　弔（名）死人の亡霊を弔ふて　冥福を祈ること、

冥福を祈ること、
ドブルジア　Dobrudja（名）地名、ブラック海とドナ
ウ河の中間にある土地の名、
と－ぶろ　土風爐（名）土をねて焼きあげたる風爐のこと、
とぶろうーわづかにーぐわしよくをみ　都府楼纔看瓦色（句）
菅家道真の詩の句、菅家後草の不出門中に出づ、
どぶーろく　濁醪（名）酒の一種、濁酒のまま　未だ精製せ
ざるもの、滓尚混在して　色白く、味甘く且濃し、婦
人、又は下賤の人の飲むものなり、
と－へい　斗柄（名）星名、破軍星のこと、即ち　北斗星の
第七位にあるもの、
ど－へう　土俵（名）土嚢のこと、俵に土砂を充めたるもの
、河の堤防、築地の濠などを囲むるに用ゐ、
どへう－いり　土俵入（名）相撲の詞、幕の内の相撲のこと
をいふ、又　二段目力士がまはしをしめて　土俵場にて
行ふ儀式のこと、
どへう－ば　土俵場（名）、相撲を角する場所、多く其の周囲
を土俵にて堅めたる故に名く、
とべら－のーき　海桐花（名）植物　木の名、常緑葉の樹に
して　葉形は石楠に似たり、夏季　白花を開き　実はき
さきに似たりといふ、

とーほ　徒歩（名）車　輿等によらず　両脚にて歩み行くこと、かちあるき、
とーほ　瘏痡（名）、疲気にかかることをいふ、　我馬瘏矣　我僕痡矣とある類あり、
とーほ　杜甫（名）人名、勤王家、慷慨的詩人、唐代の人、貧乏書生なりしが　賦によりて　玄宗に擧げられ　安祿山反するや　賊の擒となる、後　肅宗朝に仕へしも間もなく辭して　天下を周遊し　慷慨の詩を吟して　時勢を歎せり
其の詩は　李杜と併せ称せられ　就中　述懐、哀王孫、北征等は　古今の傑作たり、年五十九にて　酔死す、
とほーあさ　遠淺（名）海岸の傾斜　緩くして　沖の方まで海底の淺きことをいふ
どーほう　土崩（名）物の衰頽して堪へ支ふることを能はざるをいふ、とほう　くわかいの條を見よ、
どほうーくわかい　土崩瓦解（名）、事物の潰乱するさまをいふ詞、恰かも土の崩れるが如く　瓦の解けは触れおつるが如く　解頽すること、
とほきおもんばかりなければーちかきうれいあり　無遠慮有近憂（句）、論語中の語なり、眼前の小事のみに焦慮して遠き将来を思考せざれば　憂ふべきことは　手本に発生するなりとの義、

とほきところもーいでたつあしもとよりーはじまりて　遠き所も出立足もとより始まりて（句）、古今集の序文中の詞、千里の道も　一歩より初めざる可からず　大事も亦細かなる手本のことより成就する義を示せり、白樂天の座右銘に曰く（千里始足下　高山起微塵　吾道亦如此　行之貴日新）とあり、
とぼく　恍（動）、他に心を奪はれて　しれこれしくなることありぼけるなり　又、我関せず焉たる風を装ふ、そらをつかふあり、しらばくる、
とーぼく　奴僕（名）、自家に使用するしもべをとこのこと、下男　下僕のこと、
どーぼく　土木（名）家屋　堤防　橋梁　鉄道等の如く　土地を基礎として　營む工事を土木といふ、故に　器具　機械等を製造することは　土木にあらざるなり、
どぼくーきよく　土木局（名）官廳の一部、土木一切の事を執掌する役所のこと、今は内務省の一局をなす、
どぼくーぎし　土木技師（名）内務省土木局の官吏となりて土木事務を行ふもの、又、會社　例へは鐵道會社　建築會社の役員となりて　土木に従事するもの、
とぼくし　杜牧之（名）人名、有名なる唐末の詩人、杜甫の老杜に對して　小杜といふ、進士、賢良方正に擧げられ

時の宰相李德裕の為に　画策せし所大なり、資性剛直　世
に在杜牧と称す、年五十三にして死す、
どぼくーし　奴僕視（名）下男下僕と同様に取扱ひて軽視す
ること、
とぼくしのーへん　土木の變（名）明時代の戦乱、宣宗の後
英宗位に即きし時友人で　瓦斯の入寇あり　瓦斯は当時
馬哈木より　脱歡を経て　也先に至る　也先大兵を率ゐて
明に寇せしかば　英宗は　宦官王振の勧によりて親征し
土木に至りて　大敗して　先也（也先）の為に　英宗は擒にせらる
之を土木の變といふ
とぼっくーほ　土木堡（名）地名　古戦場　清國直隷省宣化府
懐来縣の西にあり　之れ明の英宗が　宦官王振の勧により
て　五十萬の大兵を次で　瓦斯の也先を親征し　却りて敵
の為に擒にせられし所なり、
とほーごゑ　遠聲（名）遥かに隔りたる所より聞ゆる聲、とほ
き聲、
とほざとをの　遠里小野（名）地名　摂津国にあり、萩の名
所なり、
とほーざむらひ　遠侍（名）昔時　武家の邸内の中門の所に
廊の如く造りたる家ありて　其所に　番の武士などが詰合
居るを以て　其家を遠侍といふ　蓋し　主人に近侍する

さむらひに対する語なり、
とぼし　簁（名）農家の具、舂きたる米と　糠とを振ひ分く
るに用ゆるものにて　其形　種々あり、
とぼし　乏（形）、不足なることなり、充分ならず、すくなき
あり、
とほーしま　遠島（名）半島の名、陸前国牡鹿郡の東南に突
出せる半島なり、
とほしま　遠島（名）海面遥かにあなたにある島、
とほーじろこ　遠著、遠白し（形）遠いなれども物のあざや
かに見ゆること、気だかくして鮮かなるなり、
とほーすめらぎ　遠皇（名）、天皇の御祖宗のことをいふ、
とーぼそ　樞（名）　閾並に孔を穿ち　之にとまらを相合は
して　くるるとなり　戸の廻転するものをいふ、後　之を
誤用して　門扉のことにせり、
とほたふみーのーくに　遠江國（名）地理　國名　東海道の
一國、十二郡より成る　即ち　榛原、周智　佐野　城東、
豊田、山名、盤田　長上　敷智　濱名、引佐　麁玉なりと
す　西は三河に接し　東は駿河に接す、
とほーち　遠方（名）遠隔せるところ、遥かは離れたる所、
とほきかた、
とほつあすかーのーみや　遠飛鳥宮（名）宮の名、大和國高

1462

帝都にあり　允恭天皇の在はせし所、
とほつあすかの一　みやに一　あめのした一　しろしめす一　すめら
みこと　遠明日香宮御宇天皇（名）天皇の御名　允恭天皇
を申す、
とほ一つ一おき　遠沖（名）遥かなる沖、海原はるか沖、隔
りたる沖のこと、
とほ一で　遠出（名）家を出て　遠所へ行くこと、遠隔の地
へ行くこと、
とほ一どほし　遠遠（形）遠路なるなり、甚しく隔たりおる
なり、又　久しく音信をたちおるなり、疎遠になりしおる
なり、うとし、
とほ一の一みかど　遠朝廷（名）国の首府より　隔たりはな
れたる土地にある官府のこと、殊に　大宰府のことをいふ
、又　特に三韓の任那に置かれたる官府のこと、
とほ一まはしに　遠廻（副）直接に当らずに、迂遠の方法に
て、間接に、
とほ一み　遠見（名）遠所の様子を見わたすこと、遥かあ
なたを見ること、又　殊に　戦争中　両軍　間近く近より
て　敵軍の動静を伺ふことなり、即ち　隔りたる所より
敵の動静を候ふこと、
とほみ一ばん　遠見番（名）徳川幕府時代の役人の名、戦争

の際に　敵の動静を伺ふ役するもの、なほ　とほみの　みの條
を見よ、
とほ一みみ　遠耳（名）遠くはなれたる所よりの声音を聞き
とりうる耳、即ち　鋭耳、
とほ一めがね　遠眼鏡（名）遠所の物を　近く明確に視るに
使用する眼鏡にして　円筒状の筐の両端に　レンズをはめ
て　其長さを自由に伸縮しうるもの、即ち千里鏡なり　尚
望遠鏡（ぼうえん・きょう）の條を見よ、
とほ一ものみ　遠物見（名）武家の役名、戦争中　両軍間近
しありしとき　敵の動静如何を伺ふ所の役をなすもの、
とほ一や　遠矢（名）遠き所に存在する物体を　矢にて射るこ
と　即ち　遠射のこと、
とほやま一かげもと　遠山景元（名）人名、政治家、徳川幕
府の町奉行たり、左衛門尉となり　能く民治に心を用ひ
良吏の名あり、之れ　彼は平素　民情に注意せし故なり、
安政二年二月二十九日卒す　年六十、
とほやま一けぶり　遠山烟（名）遥か　はなれたる遠山より
立ちのぼる烟のこと、
とほやま一ざと　遠山里（名）遥か　はなれたる遠山にある
人里のこと、遠き山里、
とほやま一ずり　遠山摺（名）遠山の風景を　青摺にすりた

6

るもの、
とほやまどり　遠山鳥（名）遥か　はなれたる遠山をへだてておる山雞のこと、山雞は元来　雌雄各　山をへだてておるものなれば　かく名く、
とほよせ　遠寄（名）敵人を殺さする權に　近かおして遠まきにすること、即ち　とほぜめに同じ、
とほりな　通名（名）通称のこと、世間一般に通用し居る名称なり、
とほりもの　通者（名）廣く一般に　世間に名を知られたる人のこと、又　花柳街の事情に通じたる人　即ち粋なるものの如きことをいふ、
とほりや　通矢（名）射術の語　射場より　先方の的場まで達する矢のこと、
トボルスク　Tobolsk　（名）地名、州名市名、アジア ロシアのシベリア西部にある　州にして　又同名の都府なり、其都府は ロシアの將軍チエルコフが 西紀一五八七の年に建設せしものなり、
とぼる　點火（動）火を點ずるなり、
とま　苫（名）葦の如きもの、船舶などに使用して　雨露を凌ぐものなり、菅、茅などにて　編製したるものなり、とばとも称す、

どま　土間（名）家屋内の　床もなくして　地面のままなるところ、
とます　斗桝（名）度衡の名、一斗桝……名を……人、

トーマス・ステフェンス　Thomas Stephens（名）一五七九年始めて印度に旅行したる英人なり、多くの寶石及び香料を得て帰れり、

ヘンリ二世の侍従たり（西紀一一一八年—一一七〇）、
二、トマス　ゼ　ライアルは　詩人にして歴史家、イギリスのスコットランドの人、詩に巧にして　又俗傳の野史子に通す（西紀一二二〇—一三〇〇）、
三、ケンピス　トマスは　高僧にして神秘學者、ドイツの人、著述家にして　イエスの模擬は　其の著にして　世に行はる（西紀一三八〇—一四七一）、
四、ジオルジ　ヘンリ　トマスは　將軍、アメリカの軍人にして　メキシコ戦争　其他の騒乱の時　掌に殊功を立てたり（西紀一八一六—一八七〇）、
五、トマス　テオドルには　有名なる音楽家、ハンノフェルの人、楽曲に通じ　胡弓は其の最も得意とする所なり、アメリカに渡りて　ニーヨークにて音楽会を創設し　前後十数年間　其道に盡し　遂に一八七八年　オハイオ州のシンシナチの音楽学校長に推さる、其後　諸所に於て　其学の発達

なるもの、

とほやまーどり　遠山鳥（名）　遠かはなれたる遠山をへだてておる山雞のこと、山雞は元来雌雄名　山をへだてておるも…

遠まき…

とほりーな　通名（名）　通称のこと、世間一般に通用し居る名称なり、

とほりーもの　通者（名）　廣く一般に世間に名を知られたる人のこと、又花柳街の事情に通じたる人　即ち浮かれものゝことをいふ、

とほりーや　通矢（名）　射術の語　射場より先方の的場まで達する矢のこと、

トボルスク　Tobolsk　（名）　地名、州名市名、アジア口シアのシベリア西部にある州にして又同名の都府なり、其都府は口シアの将軍チエルコフが西紀一五八七年に建設せしものなり、

とほる　點火（名）　火を點するなり、

とま　苫（名）　菅の如きもの、船舶などに使用して　雨露をしのぐものなり、菅、茅などにて　編製したるものなり、とばとも称す、

どーま　土間（名）　家屋内の床もなくして　地面のままなるところ、

とーます　斗桝（名）　度衡の名、一斗桝のこと、

トマス　トメ　Thomas-thome　（名）　人名　同名を名乗るものゝ内　有名なるもの五人をあげん、

一、トマス、オブ、ロンドンは　大僧正、イギリスの人、ヘンリー二世の侍従たり（西紀一一一八ー一一七〇）、

二、トマス　ゼ　ライアルは　詩人にして歴史家、イギリスのスコットランドの人、詩に巧みにして　又偉傳の野史家に通す（西紀一二二五ー一三〇〇）、

三、ケンピス　トマスは　高僧にして神秘学者、ドイツの人、著述家にして「イエスの模擬」は　氏の著にして　世に行はる（西紀一三八〇ー一四七一）、

四、ジオルジ　ヘンリ　トマスは　将軍、アメリカの軍人にして　メキシコ戦争　其他の騒乱の時　常に殊功を立てたり（西紀一八一六ー一八七〇）、

五、トマス　テオドルは　有名なる音楽家、ハンノフエルの人、楽曲に通じ　胡弓は其の最も得意とする所なり、アメリカに渡りて　ニユーヨークに音楽会を創設し　前後十数年間　其の道に盡し　遂に一八七八年オハイオ州のシンシナチの音楽学校長に推さる、其後　諸所に於て　其学の発達

に貢献せり（西紀一八四三年生る）、
とま一せ　泊瀬（名）初瀬のこと、初瀬を誤讀したるもの、
と一まつ　塗抹（名）文字などを塗り消すこと、抹殺する
こと、
と一まどひ　戸惑（名）、夜中俄然眠りより覚めて　ねぼ
けて　あちこちと迷ふこと、又轉じて　道を失ひあちこ
ちとまごつくこと、
と一ま一の一や　苫屋（名）とまやの條を見よ、
とま一びさし　苫庇（名）、苫を以て葺きたる庇のこと、
と一まへ　戸前（名）戸ぐちのこと
とま一や　苫屋（名）、苫を以て屋根を葺きたる家のこと、
多くは海人の住家をさす、
とまり　泊（名）船舶の錨を降して　やどるところ、即ち
碇泊すること、又其碇泊所のことにも用ふ、又旅行して
旅館などにやどること、
とまり一いつくわ　泊一火（名）人名、砲術の達人、筑前國
の人、天正年間の人にして　種子島に赴きて　砲術を研究
し遂に一家をなし　一火流砲術の祖と稱す、
とまり一がらす　宿鴉（名）夕方　我が巣に帰りきたる烏、即
ち帰鴉のこと、
とまり一しま　泊島（名）、島の名、伊豆國式根島のこと、

とまり一ぶね　泊船（名）港にやどりして　居る船のこと、
即ち　碇泊船のこと、
とみ　富（名）一、萬事萬物ゆたかなること、即ち　富裕
なること、二、經濟、吾人人類の慾望を満足せしむるに足
る財貨の豊富なることなり、故に富には　有形的の物もあ
り無形的のものもあり　然れども　有形と无形とを論せ
ず、交換し得る財貨たるを要す、
とみ　頓（名）急なること、俄かなること、急場なること、
突然なること、
とみ　登美（名）地名、古戰場、大和國生駒郡富雄村を流る
る富雄河の上流にあり、鳥見、迹見とも書く　神武天皇東
征の時　大和國の土酋　長髄彦は饒速日命を奉じ　此の地
に依りて　皇軍を生駒山に逆撃したりしが　饒日命　全く
事の望みなきを悟り　長髄彦を殺して　降りたり、天皇即
位の後　此地に皇祖天神を祀りたり、
とみ一かうみ　左見右見（副）あちこちと種々になかめ見る
さまなり、
とみ一くじ　富籤（名）經濟、多人數より　財物其他の物を
集めて　抽籤の結果　あたりくじの人に之を與ふる方法
なり、之れ一種の射倖的行為なり　故に我が國法は刑法
を以て之を嚴禁し　もし之を行ふもの　あるときは刑罰に

1465

處せらる、然れども 或國にたては 之を許可し 或は政
府自ら 其主人役となるものあり、
とみーこうぎやう 富興行 (名) 富籤の一種にして 之を無
盡講と称す、
とみーてんかをいうす 富有天下 (句) 富みゆたかなること
天下を有する義なり、中庸ニ富有四海之内と同じ、
ドミチアヌス Domitianus (名) 人名 皇帝の名、
、ローマの皇帝なり (西紀一五一－九六)、
ドミトリ Domitri (名) 人名 デメテリオと称する諸
のロシア諸なり 其名を有する四名のロシア大僭称者あり、
又 僭称ドミトリと称する四人あり、
とみつ 杜密 (名) 人名 東漢の正士、潁陽(川)城の人にして
太守となり 宦官令長等の悪分子を排棄し 後一旦辞職せ
しが 桓帝の時 召されて 尚書令となる、進んで 太僕とな
りしが 党事の為 罷坐せられ 其子 再び太僕となり
しが 党事の為に自殺せり、
とみながーちゅうき 富永仲基 (名) 人名 陽明派の学者
大坂の商賈なりしも 学に志し 三好萬年の門に学び 陽
明学を研究して 一家を成せり、出定後語は其の著なり、
其の書は 仏教を大に論責したるものなり、享保年間の人
なり、

トミニ Tomini (名) 湾名、セレベス島の東部、北部西
半島を隔つる海湾なり、湾西端は一地峡をなしマカッ
サル海峡を隔てて本島とボルネオ島とを分てり、同名の要
港此湾の北岸にあり、オランダの植民地なり、

ドミニコ Dominico, Domingo, Domingos (名) 人名 ドミンゴともいふ、希臘教
の聖徒、ドミニカ派の開祖、異教徒の改宗に大に熱心にし
て、説教にて效なきときは宗教裁判にて刑に處したり、さ
れば異教徒には殺害者として記臆さる、(西紀一一七〇－一
二二一)

ドミンゴ Domingo (名) 人名 ドミニコを見よ、
ドミンゴ Domingo (名) 地名 ハイチ島東部の共和國全
体地方の首府、一八六五年迄はイスパニア又はフランスに
属せしも 革命起りイスパニア人を放逐し共和国体を立つ、
ドミンゴは此共和国の主要の部分を成せり、

とみーに 頓 (副)、急に、俄に、忽に、
名 赤穂四十七士
ち性名は山本長左
衛 十六年二月四日
大和國添下郡龍王
にして 鴟の尾の
れにして 富箱の
に相應したる金員
時、早く耳きわけ
にしおる人民のて
信、イスパニアの
派の一派を唱導せ
江戸の人 冨本
保節より 脱化し

1465

處せらる、然れども　其國にたては　之を許可と　其は文
者自ら　其主人役とな……
とみーこうおやこ　富興行……
盡請と称す、
とみーてんかをいうす　天下を有する義なり、
ドミチアヌス　Domi……
、ローマの皇帝なり
ドミトリ　Dmitri
のロシア読なり　其名
又　假称ドが鮭トリと称
とみつ　杜密（名）　人名
太守となり　宦官令長
こか　桓帝の時　君す
りしが　党事の君子
しが　再党事の為に自
とみながーちゆうき　富永仲
大坂の商賈なりしも　学に
明学を研究して　一家を為
其の書は　佛教を大子論ず
なり、

とみーに　頓に（副）、急に、俄然、突然、
とみのもりーまさより　富森正因（名）　人名　赤穂四十七士
の一人、主君浅野長矩の自刃するや　然ち姓名を山本長左
衛門と変改し　遂に其目的を達せし　元禄十六年二月四日
、死を賜はる、年三十四、
とみーのーをがは　富の川（名）　川の名、大和國添下郡龍王
山より発し　遂に初瀬川に合する川なり、
とみーのーをごと　鵄尾琴（名）　琴の一種にして　鵄の尾の
形をなせる琴なるを以て　其称あり、
とみーふだ　富札（名）、富興行に使用する札にして　富箱の
中より出づる札と其の札と合する者は　札に相應したる金員
等を得るなり、
とーみみ　聡耳（名）　能く　物音を聞きうる耳、早く耳きわけ
る耳のこと、即ち　はやみみなり、
どーみん　土民（名）　昔より　其土地に住居しおる人民のこ
と、例へば　台湾の生蕃の民の如し、
~~ドミンゴ　Domingo（名）　人名、イスパニアの~~
~~人にして　ドミニゴ派と称するキリスト教の一派を唱導せ~~
~~し人なり（西紀一一七〇―一二二一）、~~
とみもとーぶし　富本節（名）　浄瑠璃の一種　江戸の人　冨本
豊前掾の初めて語いたるものにて　常盤津節より　脱化し

1468

まりたるもの、徳川幕府代より流行し　現今と雖も　盛んに
行はる、
とみもと　ぶぜんのじょう　富本豊前掾（名）、人名　富本節の開祖、江戸の人にして　常盤津を研究し　遂に一派をなす、即ち　富本節なりとす、明和元年十月二十二日歿す年四十九、
とみやま　富山（名）地名、陸前國宮城郡にありて海岸に瀕す、日本三景の一の松島を眺望するに　最も勝れたる地なるを以て　有名なり、
とみれば　但見（副）、一見すれは、下と見れば、
とみをか　富岡（名）、地名　上野國北甘樂郡にあり　有名なる製絲場のある所にして　其の近隣には　機織に有名なる伊勢崎　及び桐生　あり、
トムスク　Tomsk（名）地名　州名及び市名、アジアロシアのシベリア西部にある州　東南には　アルタイ山脈ありて　鑛物の産出あり、而して同名の市ありて　之の市はトム河とオビ河との合流地より十五哩はなれたる　地にあり人口は　四萬餘あり、大学の設けもあり　商業上　支那との要衝の地なり、
とむらひ　弔（名）災禍にかかりたるに同情をよせて　訪すること、喪あるものを訪ふこと、又　死人の亡靈を弔ふて追福を祈ること、又　送葬すること、即ち　野邊の送りをすること、
とむらひ・がっせん　弔合戰（名）其の前の戰役に於て戰没したる勇士の亡靈を慰むる爲めに　其の讐と再び　開戰して　仇を報ゆること、
とん　墩（名）腰掛の一種、支那に於て流行するものにて陶器製なり　其の形は　恰も太鼓の如きものなり、現今　我國に於ても　庭園等に之を散置するもの多し、商店等に於て　亦之を使用して[illegible]器の腰掛となす、
ドン　Don（名）河の名、ヨーロッパロシアを南流する河にして一千百餘里に及び　遂にアゾフ海に注ぐ　近傍一帯は例のドン、コッサクの住居地たり
とんあ　頓阿（名）人名　和歌に達したる高僧、俗名は二階堂貞宗にして　佛門に入るや　学を叡山及び高野山に修めたり、後　和歌を　藤原為世の門に学び　大に造詣する所あり、後光嚴院　彼を召して　未編の　新拾遺集を編纂せしめたり、兼好　淨辨　慶運と共に　和歌の四天王と称せらる　元中元年三月十三日寂す　年八十四

とんいーせう 頓医抄 (名) 書名 著者は梶原性全なり 医学に関したる書なり、

とんーえい 屯営 (名) 兵士の多衆たむろせるところ、殊に戦地に於ける陣営なり、

どんーえう 嫩葉 (名) 新芽の葉のこと、即ち わかば、

トンガ Tonga (名) 群島の名、太平洋の多数の群島の一なり、

どんーかく 鈍角 (名) 幾何学 鈍角とは 平角よりは小にして 直角よりは大なる角をいふ、直角より小なる角は之を鋭角と称す、

とんーかん 東干 (名) 人名、回紇の英雄 清朝が内憂外患に懊悩せるに乗じて 河西に依りて 兵を挙げ 甘粛の地を略有せり 阿克蘇、喀喇沙爾 庫車等の回教徒は皆彼を助けたり、

どんーがめ 團亀 (名) 動物 爬虫類に属す、すっぽん、即ち とちに同じ、

とんかめ、ざる 團亀笊 (名) 笊の一種にして かめのこざるのこと、

ドンガラ Dongala (名) 地名、アフリカ ヌビアの一地方なり

ドンキア Donkia (Kongra-Lama) (名) 山の名、インドのブータンとスキムとの 極北境に近きヒマラヤ山脈中の山なり 海抜二三一七六呎なり、

トンキン Tonquin 東京 (名) 地名、殖民地、後インドに於けるフランスの殖民地にして 地勢 肥沃 河川灌漑の便利よく 農産物には 米 木綿 絹 絹布 錫 砂糖等あり、古来 此の地は支那に属せしと雖も 一種の王国たりき 近年安南の領地となり 後 フランスと安南との争乱を生じ 終に一八八五年 支那とフランスと條約を結びて フランスに之を交譲せり、人口九百萬餘あり、

とんーおよ 訌團 (名) 怒りとばすこと、罵詈を浴びせて いきまくこと、

とんーぐう 頓宮 (名) 俄かに造りたる宮室、假に建てたるみやのこと、即ち 假御所、

どんーぐり 團栗 (名) 植物、一、樫の果実なり、 二、くぬぎの実のこと、

どんぐり まなこ 團栗眼 (名) 円ろかなる眼のこと、つぶらなる眼、

とんーご 頓悟 (名) 突如として悟了すること、忽ち其の事を了知すること、又 佛教上にては 佛果菩提を悟ることをいふ 即ち 無明煩悩の障礙の為めに 種々に迷ひしも 修業の効果として 其迷を破りて悟ること、

1468

とんこう　敦厚（名）事物に付て、親切なること、志、風俗等の純良なること、
とんこう　燉煌（名）地名、古の地名　清國伊犂の安西府城のことなり、漢の時代に燉煌郡を置き　明の時代には沙州衛を設け　清朝に至りて　直に縣となす、
どんこん　鈍根（名）佛語、根氣の鋭利ならざること、佛道を修するには　にぶき性質、性来愚鈍なること、又　性質のにぶき人をいふ、
とんざ　頓挫（名）急に中頓　失敗すること、威勢堂々たりしものが　急にくじけることをいふ、又　文章等の急に弱くなりたること、
とんさい　頓才（名）機會に乗じて　迸出する才能のこと、咲嗟の間に出づる才、
どんさい　鈍才（名）甚だ　にぶき才能のこと、之は頓才の反對なり、
とんし　頓死（名）突然　死すること、急性病等によりて俄かに絶命すること、
とんじ　遁辞（名）面正よりの口撃に對して　なす所のにげ口のこと、のがれことば、
とんじ　豚児（名）自巳の子を呼ぶ時の謙稱なり、不肖のせがれといふにおなじ、

とんじき　屯食（名）他人に與ふる所の辨當にして　一種のおりづめのこと、又　元服したる人の祝物として　本家より　其の關係者に與ふる握飯なり、
とんしゅ　屯集（名）多衆の人が　たむろしてあること、集りあること、
とんじんち　貪瞋痴（名）佛教の語、貪慾　瞋恚　愚痴のこと、之を三毒煩悩と称し　人界に迷ふは全く之あるが為めなり　之の三毒の煩悩を断絶するは　佛果に至るとなり、貪は　むさぼること、瞋は　いかること　痴は　ぐちなること、
どんしゃ　砘車（名）土木の道具、地面又は道路の面をでを堅くするに轉廻しある車にして　多くは　石又は鉄業を以て造る、
とんしやう　敦祥（名）うま手におなじ
どんじゃく　嫩弱（名）わかめの如く　柔かなること、みづみづしきこと、
とんしゅ　頓首（名）古代支那にて行はれたる礼儀の一種にして　頭を地下にさげることなり、即ち　周礼に拜頭叩地也とあるにおなじ、現今は　専ら　書簡の最末に敬言として　之を用ふ
とんしゅ　屯守（名）多数のものが　たむろして守りおる

12

ことをいふ、
とん－しよ　屯所（名）、警官　兵士などが　たむろしておる
ところ、
とんしよう－ぼだい　頓證菩提（名）佛敎の語、轉迷開悟す
ることの速かなること、忽ちにして　佛果菩提をさとるこ
となつふ　尚　とんご（頓悟）の條を見よ
とん－しよく　貪食（名）過分に　食物をむさぼることが
つがつとすること、
とん－しよく　褪色（名）植物　葉の緑素が充分　發達せざ
るためにて　白色をなせるをいふなり、
どん－す　緞子（名）織物の名、厚地の絹布にして　種々な
る美麗の模様を織り込みたるもの、
とん－せい　遁世（名）此の俗界を　のがれて佛門に入るこ
と、世を去りて　佛道を修すること、
どん－ぜい　呑噬（名）噛みて　むしやむしや　かみ食ふことと
、殊に大魚が細鱗を呑み食ふことにいふ、
とん－そう　遁走（名）逃げ走ること、殊に責任をさくる為
めにかくること、
どん－たう　鈍刀（名）、鋭利ならざるかたな、にぶき刃物、
なまくらなる刃のこと、
とん－ち　頓智（名）機會に應じて　湧出する智慧、咄嗟

の間に出づる智、即ち　機智のこと、
とん－ちん－かん　頓珍漢（名）事物の行き違ふことをいふ
、又　鍛冶の槌が　二丁ありて　相互に打合はす音の異り
て違ふよりいふなり、
どん－ちやう　緞帳（名）厚地の純子を以て製したる幔なり
、之は多く　神佛の前に垂らしおくなり、
とん－ぢやく　頓着（名）、物事に　気をかけて迷ふこと、其
の事に　深く思をかくること、即ち　執着すること、又
佛敎上にては　煩悩の作用にて　物に迷ふて　はなれざる
ことをいふ、
とん－でん　屯田（名）前漢の時　支那に於ては　其邊境を
防備する為めに　兵を其の地に出して　事無ければ　地を
耕し　事あれば　兵器を以て直ちに之に當たらしめたり　是れ屯
田の初めとす、我國に於ても　北海道に屯田の制を施行し
平時は鍬を持つも　急變あれば　即ち　劍を持たしむる
なり、又、支那の唐代の官名にも用ひたり　即ち　我國の
主税官に配するものの名なり、
とんでん－へい　屯田兵（名）首府及び本國より甚だ遠隔し
たるに屯田の制を行ひ　兵士は　平時に　鍬を持ち　耕し
時には　劍を持ちて　隊を編制する様にしたる兵なり、即
ち　屯田をなし居る兵のこと、

ドンドラ Dondra (名) 地名 嶋の名、インドのセイロン島の南端にある岬なり、

とんねる 隧道(名)、山腹 又は道路 河川の下に通道の穴を穿ちて 汽車又は人の通路にあつるもの、例へば 馬場のとんねるの如し、

とんびがっぱ 鳶合羽(名) 一名 インバネスと称する外套の類なり、羅紗にて之を製し 塵を防ぎ 寒をしのぐの具なり、

とんびーかん 豚尾漢(名) 支那人を呼ぶ嘲称、支那人の長く延ばせる辮髪は さながら 豚の尾に似たる故に 此の称あり、

とんびーだこ 鳶凧(名) 紙凧の一種、其形は 鳶の両翅を張りたるが如き故に此称あり、

とんーびやう 頓病(名)、俄然 発したる疾症にして 多くは難治の病なり、

とんぷくーやく 頓服薬(名)、唯一剤を一度のむ許の薬のこと、解熱剤、下剤等は 多くは之れなり、

どんーぶつ 鈍物(名) 一、にぶき刃物類のこと、二、才智のにぶき人のこと、愚痴なる人、

どんーぶり 丼(名) 陶器、形は 普通の鉢の稍深きものにして 兜を倒にしたるが如きもの、又 其の丼に盛る許の食物のこと、例へば うどんの丼の如し、

とんーぼ 蜻蛉(名) 動物 昆虫類 直翅類に属するもの、とんぼうの條を見よ、

とんーぼう 蜻蛉(名) 動物 昆虫類中 直翅類に属す 翅は膜質にして 前後其形を同ふすとも 其の種類は 各とんぼによりて異る、口器は 著しく発達して 咬嘴に適せり、雌雄共に 其の色彩を異にし 雨天には 樹間枝梢等の陰に宿り 天晴れば 河湖沼辺を徘徊して 他の小虫を捕食す、往々二匹のとんぼが 頭と尾とを連ね居るは 交尾せんとするもの、後者の尾が 前者の腹に接しおるときは 交尾しつつあるなり、即ち前者は 雄にして後者は雌なり、其虫の幼虫は 水中に棲息して 孑孑を捕食するを以て 蚊の駆除には大効ありとす、其突出したる 嘴を以て之を捕食す、之を たいこむしと称す、とんぼの翅は 前後共に 休息の際と雖も 之を畳む

ことなし、
とんぼーがへり　蜻蛉返（名）舞の手の名、舞楽の羅陵王の
舞にある手なり、
とんぼうーむすび　蜻蛉結（名）帯又は紐などの結方、其の
形恰かも　蜻蛉の翅を張りたるが如く　二個宛の輪を結
び出すなり、
とんぼーがへり　飛翻筋斗（名）剣術の語、撃剣の際　蜻蛉の
とぶあがりて　急に退方へとびかへるが如く　身をひるが
へす仕方をいふ、
とんーぼく　頓踣（名）頓も僵なり、踣も仆なり　即　頓踣
は　斃るることなり、
とんーや　問屋（名）法律上　問屋とは　自己の名を以て
他人の為に物品の販賣又は買入を業とする者をいふなり、尚と
之は商法に於て　詳しく説明し且研究するものなり、
いやの條を見よ、
どんーよく　貪慾（名）貪ることの甚しきこと、慾の深きこ
と、過分にむさぼること、
トンレ　サプ　Tonle Sap（Tale Sape）（名）湖の
名、シヤムとカンボヂアとの國境にある湖
とめ　姥（名）たうめのこと、
とーめ　利目（名）つぶやかにして　甚だ大なる目のこと、

さけるとめ、
とめーおき　留置（名）他人の物を　自分の下に留めおくこと
となり、借物を返へさざる故に　其の人の物を　自分の下
に留めおくこと、又、違警罪を犯したるもの或は軽微なる
罪をなしたるものを　警察署等に　拘留しおくこと　即ち
拘留におなじ、
とめーき　留木（名）衣に　香の匂を焼きてめること、
とめつど　吐迷度（名）人名　回紇の部長　菩薩の子、父の
後を継ぎて　薛延陀の叛乱に乗じ　鉄勒諸部の兵を率
ゐて之を破りたり　時に　唐の太宗も亦鉄勒を遣はして
其の弊に乗じて　之を滅ぼしたり、茲に於て　吐迷度も鉄
勒諸部と共に　皆唐に帰したり　これ皇紀千三百の六年な
りき、
とめっと　土默特、（名）地名、韃靼の達延汗の孫俺答の建て
たる部落にして　今の清國蒙古陰山附近の地なり　清の時
に至り　天聰三年来降す、
とめーど　止處（名）止むべき處、際限のこと、
とめーばり　留針（名）頭に笠のはけある針にして　ぴんと
も称す、物を假りに　刺し止めおくに用ゆるなり、
とめーや　止矢（名）最後に　止めをさす為に射りたる矢、
最末の矢のこと、

とも 友 (名) 朋友、知己、即ち 平常 互に親しく交際する間の人のこと、

とも 伴 (名) 仲間、伴侶のこと、又 同じ道づれのこと、即ち 同行者のこと、

とも 艫 (名) 船の後方のこと、へさきの反対の端のこと、即ち 船尾のこと、

とも 鞆 (名) 弓術の具、射弓の時 左の臂に結び付け 弦が飜弾して 臂に当るを防ぐ為めのものなり 多く 革皮にて製す、矢の鞆の上等なるものは 弦の弾ぢ打に依りて 響音を発するものあり、

ども 吃 (名) どもりの條を見よ、

とも―あらそひ 友争 (名) 味方同士の間に起りたる争のこと、即ち 内輪喧嘩のこと、

とも―あれ―かくも―あれ 兎有角有 (副) いかやうにもあれ、どのやうにかあれの意、

とも―がき 友垣 (名) 朋友、友達 友人のこと、蓋し 友人は 互に苦楽を共にし 相救ひ合ふものにて 恰も 垣の竹木が 相互に助合ふて 倒れざるが如き故に此称あり、

とも―が―しま 友島 (名) 島の名、二島 即ち地の友島と沖の友島との二つあり、紀伊國西方の海中に存するもの、沖の友島には 燈台の設けあり、

とも―がしら 供頭 (名) 武家時代に於て 諸侯の随従する供廻を支配する頭をいふ

とも―かせぎ 共稼 (名) 親子 夫婦が共に 稼ぎ合ふて生活すること、殊に 夫婦間が 共力して 家業を稼ぎ合ふことをいふなり、

とも―ぐひ 共食 (名) 自分と同類に属するもの を相互に害して食ふこと、

とも―しづま 乏妻 (名) 愛する妻のこと、珍らしく 飽きたらぬ妻のこと、蓋し 織女は 一年唯一回のみ 相逢ふものなるより起りたるなりし、

とも―しらが 友白髪 (名) 偕老のこと、死ぬるまで 夫婦相添ふこと、夫婦共に 頭髪の白くなるまで 生き長へて 相添ふこと、

とも―ずり 友摺 (名) 彼此 相すれあふこと、皆共にすりあふこと、

とも―すれば (副) やゝもすれば、またしても、

とも―ぜい 供勢 (名) 供廻の人数、供の人員、

とも―だち 友達 (名) 相交はる友、互に困厄を救ひあふ間柄の人のこと、友垣、友人、

とも―ちどり 友千鳥 (名) 群集しておる千鳥のこと、多数むらかりおる千鳥、

ともーづな 艫綱(名) 船舶をつなぎおく綱、
ともづなーをーとく 解纜(名) つなぎたる ともづなを 解き出帆すること、港を出づること、
ともーづり 明釣(名)、魚を釣るとき 其の類の一尾を放ちおき、同類の魚を誘ひに 鉤にて 引きかけて 釣ること、殊に鮎に於ては 牝を放ちて 牡を誘ふて 釣るなり、
ともなふ 伴(動)、共に連立つなり、同行するなり、ひきつるるなり、
ともーなり 共鳴(名) 物理、きょうめいの條を見よ、
ともなり 友成(名) 人名 有名なる刀剣家、備前國の人、一條天皇の御座の劔を鍛したり 其刀銘には 君節歳の三字を刻みたりといふ、
ともーね 共寝(名)、皆 同一の衾に入りてねること、即ち同衾すること、
ともーね 鞆音(名)、矢を射るとき 弦の 鞆弾して 鞆にあたりて 発する聲をいふ、
ともーのーうら 鞆浦(名) 浦の名、備後國鞆の港の前面にある海なり、
ともーのーみなと 鞆港(名)、港の名 備後國沼隈郡の南端にある港なり、福山は其の北方にあり、人口九千七百餘にして 保命酒の名産地たり、

ともーのーみやつこ 伴造(名) 歴史、上古の官名、朝廷に仕へたる八十伴緒を總稱していふなり、その種族及び職掌は極めて多し 中臣、齋部、物部、大伴 佐伯、史部 画部、山部 田部 海部 膳部 飼部 鳥飼部、鷹甘部 犬飼部、弓削部 矢作部、楯縫部 錦部 服部 衣縫部 木工 石作 鍛冶部 漆部 土部等多くして 祭祀、軍事、文事、工事 農業等を分担せり、之に伴部に居ると 郡國に居るとの区別あり 其数實に百八十種ありといふ、
ともーのーみやつこ 伴御奴(名)、上古 主殿寮の司(下)の内裏の掃除役をなせしものをいふ、
ともはやしーみつひら 伴林光平(名) 人名、ともはやしろくらふの條を見よ、
ともはやしーろくらう 伴林六郎(名) 人名、勤王家、攝津國の人、初め本願寺の僧たりしも 還俗して 大和國斑鳩村に居を構へ 子弟を教ふ、國学に精通して 夙に尊王攘夷の大事を唱道せり、文久三年 夷狄親征を聞くや 兵をあげて 天誅組に加入したりしも 奈良奉行の為に捕はれ元治元年二月十八日刑を受く 年五十二、
ともまつーゆき 友待雪(名) 降りたる雪が 消えずして後に降り来る雪を待ちおること、
ともん 土門(名) 人名、突厥の部長、甚た勇猛にして 四隣

1479

彼に服す、婚を柔然の頭兵可汗に求めしも　頭兵之を許さざりしを以て　大に怒り　遂に大兵を発して　柔然の軍を破り　頭兵可汗を殺し　自立して伊利可汗と称す、伊利可汗　死して子木杆可汗之を継ぐ、

どもり　吃（名）生理、音声を流暢に発することを能はず　どもることをいふ、之れ声帯に欠点あるにあらず、唯　気の急燥なるか　精神の落付かざるかに依りて起るものなり故に　心を沈静にし、言葉静かに修練すれば　遂に吃を矯正し得るなり、

ともしろ　艫艪（名）艫の方にて使用する艪のこと、

ともしゑ　鞆繪（名）人名　勇猛なる女将且美人、源義仲の妾にして　今井兼平の女　容姿艶美にして　武技に長す、戦歿　必ず　殊功を立つ、義仲陥死の遺言を守り　薙髪して尼となり　越前国友松に住せり、

ともゑ・がはら　巴原（名）巴の模様ある原のこと、即ち花頭原のこと、

ともゑ・のしはた　巴の旗（名）巴の紋をなしたる旗、右巴は宇都宮氏の紋、左巴は小山、結城、土肥　山下　沼田氏等の紋なり、

ともしをか　鞆岡（名）地名、山城国乙訓郡にあるなり、

と・や　鳥屋（名）雛（名）鷹其他の鳥類をやどす所をいふ、即ち　とぐらのことく、又、夏季に至りて　鷹の羽の抜けかはることをいふ、

とや・だか　鳥屋鷹（名）鳥屋に飼いある鷹のこと、とやかへりたる鷹のこと、

とや・だし　鳥屋出（名）、羽根が　夏季に於て抜けかはりたる後、其の鷹を鳥屋の外へ出すこと、

とや・のしかた　鳥屋潟（名）潟の名、越後国蒲原郡の西部にあり　周囲一里三十町あり、

と・やま　外山（名）連山の端にある山のこと、即ち　はやまのこと、奥山に対していふ、

と・やま　富山（名）山の名、安房国平群郡にありて　其の国の最高の山なり、

と・やま　富山（名）、地名　越中国上新川郡にあり、富山は足利時代よりの都府にして　土豪神保氏茲に居り　元亀三年上杉謙信之を陥れ　天正六年信長　其城を取り　佐々成政に賜ふ　豊臣秀吉に至りて　之を前田氏に賜ひ　世々前田氏の城下たり、現今は北陸の大市にして人口六萬余ありて　諸売薬の中心たり　之が行商に従事するもの　其数又　実に一千萬に近しといふ、北陸街道の衝に當り　又北陸鉄道線の終点なりとす、

とや・まさり　鳥屋勝（名）鷹の新羽　全く生じて　鳥屋を

出づるときの盛勢の盛なることをいふ、
とやまーのーさと　外山里（名）地名、大和國にあり、
とやまーのーしか　外山鹿（名）外山は端山のことにして
山の鹿といふほどの義なり、
とやまーまさかず　外山正一（名）人名　學者且政治家、靜
岡の藩士、幕府の選抜により　慶應元年十六歳の時　中村
敬宇　菊池大麓等と共に　英國に留學し　明治元年帰朝し
後　米國に留學し　帰朝するや　開成學校　東京大学、
帝國の教授となり　學位は文學博士となり　大学總長とな
り　更に進んで　明治三十一年文部大臣となる　三十三年三
月歿す　年五十三、
とゆきーかうゆき　東行西行（副）　あちらに行き　こなたに
行き、あちこちすること、
とよ　豊（名）、物事の富裕なること、充分なること、盛なる
ことをいふ、
とよ　杜預（名）人名、將軍　政治家にして且學者、字は元
凱にして　晋の名臣たり、文帝は其の妹高陸公主を以て
彼に尚す、鎮南大將軍都督荊州諸軍事となり　直に呉を討
つ：沅湘以南　交廣に至るの間　皆晋に降る、杜預は　又
水利修山の蹟　甚だ多し　然かも　暇閑あらば　経籍に耽溺
し　其の著はす所　甚だ多し、實に立派なる学者たり　年

六十三にて歿す、成と謚す、
とよあかりーのーみや　豊明宮（名）宮の名　大和國軽にあ
り　應神天皇の御在はせし所たり、
とよーあきつーしま　豊秋津洲（名）我日本國の別称、豊は
美称　秋は稲の穣々たることにて　我國の土地の勝ぐれて
よきことを称揚したる詞なり、
とよ・あしはら　豊葦原（名）我日本國の別称、
とよあしはらーのーなかーつーくに　豊葦原中國（名）我日
本國の別称、
とよあしはらのーみづほーのーくに　豊葦原瑞穂國（名）我
日本國の別称、元は我國は葦原なりしも　今は土穀豊穣の
良き美しき國といふ義、中古已前に於ては　其名称を以て
國名とせり、
とよきいりひこーのーみこと、豊城入彦命（名、人名　崇神
天皇の皇子にして　垂仁天皇の御兄なり　父　嗣を定むる
に當り　夢兆によりて　詔を命に降し　關東を治しむ　之
れ　東國に降りし皇子の第一番なりとす、
どーよう　土用（名）地文　雑節の一、一年四回とす、其の
各は十八日と六時間の長さを有す、而して各の土用の初め
の日は　大概左の如し　一月十八日　四月十七日　七月二
十日、十月二十一日頃とす、

とようけびめ―の―かみ 豊宇気姫命神（名）、神の名、ほむすびの神の御子なり、五穀の神、
どよう―さぶらう 土用三郎（名）年中四度日の一、夏季の土用に入りて三日目のこと、此の日の天気都合によりて年内の豊凶を卜するなり、
どよう―なみ 土用波（名）夏季の土用に入りて風なきに海上波浪の生ずること、
どよう―ぼし 土用干（名）夏季の土用に入りて衣類書籍等を干すこと、即ちむしぼし
とよ―がは 豊川（名）川の名、三河国設楽郡神田山より其の源を発し故海に注ぐ川なり、
とよ―かは―いなり 豊川稲荷（名）有名なる稲荷社、三河国宝飯郡豊川村妙厳寺の境内にあり
とよくこん 吐谷渾（名）部族の名、鮮卑の支族、東晋の末始めて国を青海附近に立て隋末唐始の間中国の争乱に乗じ屡隴西に入寇せしかは西紀六三十年唐の太宗は李靖侯君集等を率ゐて是を撃破す、再来吐谷渾は永く唐に隷属す 後吐蕃に併せられ 凡そ三百五十年にして 封嗣絶へたり
とよくに 豊国（名）植物 木の名、八重さくらの一種、花の色は淡紅なり、

とよくに―じんじや 豊国神社（名）有名なる神社の名、豊臣秀吉を祀る、京都市大仏殿の南隣にあり、慶長四年 豊国大明神の神号を賜はり、明治元年に至りて 別格官幣社となる、
とよくむぬ―の―かみ 豊斟渟神（名）神の名 天地の成立せし初めに生れ給ひし神、[illegible] 浮き漂りて 美
[illegible] の海中にあり
[illegible] 者にして史家、
[illegible] 覧強記なり 烈
[illegible] 公之を抜擢して 彰考館の編修となし 遂に総裁とす、著書 甚だ多し 元治元年正月没す 年六十、
とよたまひめ―の―かみ 豊玉姫神（名）神の名、わだつみのかみの御子なる女神
とよとみうじ―の―ごぶぎよう 豊臣氏五奉行（名）歴史、五奉行は五大老を助けて政務をとる官なり 前田玄以 浅野長政 増田長盛 石田三成 長束正家の五人とす、玄以は京都所司代として 市政及び社寺を 長政 長盛 三成は 法令 土木 訟獄を 正家は 金穀の事を 各自

とよけ―の―おほかみ 豊受大神（名）伊勢外宮の神にて豊受姫を祀る、度会郡にあり、雄略帝の時丹波より此地に遷さる

とようけひめ－の－かみ　豊宇気姫命神（名）、神の名、ほむすびの神の御子なり、五穀の神、

どよう－さぶろう　土用三郎（名）年中四厄日の一、夏季の土用に入りて三日目のこと、此の日の天気都合によりて年内の豊凶を卜するなり、

どよう－なみ　土用波（名）夏季の土用に入りて風なきに海上波浪の生ずること、

どよう－ぼし　土用干［illegible］書籍等を干すこと、

とよ－かは　豊川［illegible］其の源を発し［illegible］

とよ－かは－いなり　豊川稲荷（名）有名なる稲荷社、三河國寶飯郡豊川村妙厳寺の境内にあり、

とよくこん　吐谷渾（名）部族の名、鮮卑の支族、東晋の末に始めて國を青海附近に立て隋末唐始の間、中國の争乱に乗じ屢、隴西に入寇せしかば、西紀六三五年、唐の太宗は李靖侯君集等をやりて是を撃破す、再来吐谷渾は永く唐に隷属す、後、吐蕃に併せられ、紀元三百五十年にして封嗣絶へたり

とよくに　豊國（名）植物、木の名、八重さくらの一種、花の色は淡紅なり、

とよくに－じんじや　豊國神社（名）有名なる神社の名、豊臣秀吉を祀る、京都市大佛殿の南隣にあり、慶長四年豊國大明神の神號を賜はり、明治元年に至りて別格官幣社となる、

とよくむぬ－の－かみ　豊斟渟神（名）神の名、天地の成立せし初めに生れ給ひし神、

とよさか－のぼる　豊榮昇（名）旭日の光輝き渡りて美しくのぼること、

とよ－しま　豊島（名）島の名、安藝國東南方の海中にあり周囲實に二里十三町、

とよだ－てんこう　豊田天功（名）人名、儒者にして史家、水戸藩の儒者にして史学に精通し博覧強記なり、烈公之を抜擢して彰考館の編修となし、遂に總裁とす、著書甚だ多し、元治元年正月没す、年六十、

とよたまひめ－の－かみ　豊玉姫神（名）神の名、わだつみのかみの御子を申す、

とよとみうじ－の－ごぶぎよう　豊臣氏五奉行（名）歴史、豊臣氏の五奉行は五大老を助けて政務をとる官なり、前田玄以、淺野長政、増田長盛、石田三成、長束正家の五人とす、玄以は京都所司代として市政及び社寺を、長政、長盛、三成は法令、土木、訴訟を、正家は金穀の事を各自

分捨せり、
とよとみうじーのーさんちゅうらう　豊臣氏の三中老（名）歴史、豊臣氏の天下の時　五大老と五奉行とを助けて　大政を執る官にして　其は五大老と五奉行との中間にありて其の調和を計るにあり、之任に當りしものは　堀尾吉晴、生駒近成、中村一氏の三人なりとす、
とよとみーひでつぐ　豊臣秀次（名）人名　秀吉の甥、實は武藏守吉房の男にして　天正十九年十一月　迎へて養子となし　関白職に即かしむ、文祿二年　淀君秀頼を生み　秀次の威勢　殺減せられして　遂に　奢侈驕傲　暴虐至らざるなきに至れり　文祿三年七月　高野山に幽せられ　且つ死を賜ふ　年二十八
とよとみーひでよし　豊臣秀吉（名）人名　古今獨歩の大英雄、幼名は日吉丸　後　木下藤吉と改め　又羽柴氏と稱す　後信長の毛利氏を征せんとするや　秀吉を將とす、天正十年　秀吉は毛利氏の軍を　高松城に攻囲す　此時　信長の反臣　明智光秀の爲に殺さるるや　光秀を亡ぼし　遂に天下を一統し　關白太政大臣となる、同時　朝廷より豊臣の姓を賜ふ、今や國内事なきを以て　先づ支那を征せんとし　朝鮮王に信を通し　征明の案内を依頼せしに　朝鮮王聽かざりしかは　大いに怒りて　直に之を攻む、實に文祿元年三月にして　我兵海陸共に十五萬に及ぶ、連戰連勝　向ふ所敵なし、明帝大に恐れて　和を議す、依りて一旦　軍を班せり　慶長元年明使來朝して　國書を呈す、秀吉其文句の不遜無礼を怒り　再び明征の大軍を發せら　今や彼の大事業は成らんとするに際し　天　彼に命を借せず　慶長三年七月薨ず、年六十三、其歿せんとするや　五大老を定めて大政を議せしめ　徳川家康に命じて　朝鮮にある軍を班せしめたり、
とよとみーひでより　豊臣秀頼（名）人名、秀吉の第二、字は拾丸　年僅かに六歳にして　家を嗣ぎ内大臣となる、三成等の奸臣　事を誤り　遂に徳川家康に討たる、元和元年五月　大坂城陥りて自殺せら　年二十三、豊臣氏　茲に至りて亡ぶ、
とよーのーあかり　豊明（名）總て　朝廷にて饗宴を稱す、あかりとは　群臣　大酒宴を賜はりて　顔の赤らむ故なりといふ、特に　新嘗祭の翌日　群臣に賜ふ饗宴を稱すべく此日　豊樂院に於て　前日の新稲を　主上もきこしめされ群臣にも賜ふとなり、
とよのあかりーのーせちゑ　豊明節會（名）節會の名、十一月の中の辰の日に執行せらる節會にして　群臣に饗宴を賜はる、

とよーのーあそび　豊遊（名）、とよの　あかりのあそびのこ
とをいふ、
とよーのーくに　豊國（名）、九州の豊前　豊後を併せたる古
称なり、神武天皇御東征の時、宇沙津彦兄弟　此地に居り
宮を作りて次て天皇に献せし所なり、
とよーのーみそぎ　豊御禊（名）　一名　河原の御祓とも称す、
、大嘗會の御子行はせらるる御禊のこと、
とよはし　豊橋（名）　地名、三河國渥美郡にありて　三河の
大市街なり、人口二萬餘あり、世々　大河内氏の藩地たり、
とよはたーぐも　豊旗雲（名）、旗のひらひらとなびける形なれ
る雲をいふ、
とよはらーときもと　豊原時元（名）　人名　雅樂家、元来豊
原家は　世々雅樂を以て朝廷に仕ふ、時元　亦　堀河院の
御師範たりし、
とよはらーときあき　豊原時秋（名）　人名　雅樂家、時元の
子にして　後柏原天皇の笙師たりし、又和歌をよくし　常に
風雅隠栖を好み　小庵を後庭に設けて住みたり　大永四年
八月　殁す　年七十五、
とよはる　豊春（名）　人名　浮世繪の大家、能く人情風俗等
を寫し　流行に應じて　画をものせり　遂に一家をなす、天
明　享保の人、年七十にて　殁す、

どよみ　響音動（名）　ひびきとどろくこと、
とよーみき　豊御酒（名）、酒のこと、酒をほめていふ語、郎
ち　おほみきなり、
とよみけかしきやひめーのーすめらみこと、豊御食炊屋姫天
皇（名）　天皇の御名　推古天皇を申す、
とよみてぐら　豊幣（名）　幣のこと、幣をほめていふ語、
とよーみやかは　豊宮川（名）　川の名、伊勢國の宮川をほめ
たたへたる称、
とよむ　響動　ひびきとどろくなり、よよめく、
とよーめく　響動（動）、響きとどろくなり、
とよら　豊浦（名）　地名　長門國豊浦郡にある市街、世々毛
利氏の藩地たりし、
とよらーのーおほおみ　豊浦大臣（名）　人名、蘇我蝦夷のこ
とをいふ、
とよらーのーみや　豊浦宮（名）　之には二宮あり　一は長門
國にあるもの、仲哀天皇のおはせし所、二は大和國にある
もの、推古天皇のおはせし宮なり、
とよらのみやーあめのしたーしろしめすーすめらみこと、
豊浦宮御宇天皇（名）　天皇の御名、推古天皇を申す、
とよをか　豊岡（名）　地名、但馬國城崎郡にある町、世々
京極氏の藩地たりし、

とら　寅（名）十二支の一、
とら　虎（名）動物　獣類、長さ六尺より七尺餘に及ぶ　容貌
猫に似て　背は黄赤色にして　黒き太筋ありて　甚だ美な
り、性猛猛にして　他獣を捕食す、アジア大陸の諸國に産
す、殊に朝鮮には多し、
どら　銅鑼（名）樂器の名、形皿の如くにして　表面に疣あり
て　ばちにて　たたくなり　紫銅を以て製す、
とらい　渡來（名）外國より自國内に渡り來ること、
とらう　徒勞（名）勞して効なきこと、むだほねおり、ほ
ねおりぞん、
トライチケ　Treitschke（名）人名　歴史家、ドイツ國
の人（西紀一八三四―一八九六）、
ドライデン　Dryden（名）人名　有名なる詩人　イギ
リスの人（西紀一六三一―一七〇〇）、
ドライデン　Dryden（名）地名　アメリカ合衆國の二
ユーヨーク州の一村なり、
とら－が－あめ　虎雨（名）雨の名、陰暦五月二十八日より
降る雨のこと、
トラキア　Thracia（名）地名、ヨーロッパの南東部
地方の古称、
ドラクロア　Delacroix（名）人名、歴史家且畫家

なり　フランスの人（西紀一七[illegible]一八六三）
[illegible]山脈の名、ケー
[illegible]古代アテネの
[illegible]人名、愛國者に
[illegible]愛國者にして水
[illegible]ある如く（句）
[illegible]んなることを形

ドラケンベルグ　Drakenberg（名）人名　キリスチア
ン　ヤコブセン　ドラケンベルグは　ノルウェー人にて長壽
強健にて名あり、凡そ五十年間水夫たりしが　アルジェリアに
人に捕はれて奴隷となり　十六年間を送る、一一〇才の冬初
めて婚し後數年にして徒歩長旅行をなしたり、一七七二年
一四五歳の高齡を以て歿す、（西紀一六二六―一七七二）

とら－の－くち　虎の口（名）危險に瀕したる場合のこ
とをいふ、
とら－の－まき　虎巻（名）六韜の一にして　兵術を記した
る秘傳の書なり、轉じて　他人に秘すべき重要なる事
を記したるもの、
とら－の－みみ　虎耳草（名）植物　草の名、ゆきのしたの
こと、
とら－の－いを－かる－きつね　虎の威を借る狐（名）權勢あ
る人の後援あるを恃みて　悪事をなすことをいふ、戰國策

とら 寅 (名) 十…
とら 虎 (名) …
猫に似て 背…
り、性猛猛に…
す、殊に朝…
どら 銅羅 …
て ばち…
とらい 渡来 …
とらう 徒労 (名) 骨…
ねおりぞん、…國
トライチケ Treitschke (名) 人名 歴…
の人 (西紀一八三四 — 一八九六)、
ドライデン Dryden (名) 人名 有名なる詩人 イギ
リスの人 (西紀一六三一 — 一七〇〇)、
ドライデン Dryden (名) 地名 アメリカ合衆國の二
ユーヨーク州の一村なり、
とらーがーあめ 虎が雨 (名) 雨の名、陰暦五月二十八日より
降る雨のこと、
トラキア Thracia (名) 地名、ヨーロッパの南東部
地方の古称、
ドラクロア Delacroix (名) 人名、歴史家且画家

なり フランスの人 (西紀一七九九 — 一八六三)
ドラケンベルグ Drakenberg (名) 山脈の名、ケー
プ植民地にある山脈なり、
ドラコン Drakon (名) 人名 立法者、古代アテネの
頭領、立法者たり (紀元前六二〇年頃の人)、
トラシブロス Thrasybulos (名) 人名、愛國者に
して且つ海軍軍人、ギリシア國のアテネの愛國者にして水
師提督となる (西紀三七九年死す)、

トラシメヌス Trasimenus (名) 湖名 イタリア、コ
ルトナ、ペルギア両者間の山中にある湖、二一七年ハンニ
バル、ローマ人を破りし地にして名あり、(33.10.N.12.8.E)

…(ニ…如し (句)
…んなることを形
とらーのーくち 虎の口 (名) 危険な 必迫したる場合のこ
とをいふ、
とらーのーまき 虎巻 (名) 六韜の一つにして 兵術を記した
る秘傳の書なり、轉じて 広く他人に秘すべき重要なる事
を記したるもの、
とらーのーみみ 虎耳草 (名) 植物 草の名、ゆきのしたの
こと、
とらのーゐをーかるーきつね 虎の威を借る狐 (名) 権勢ある
る人の後援あるを恃みて 悪事をなすことをいふ、 戦國策

1478

とら 寅（名）十二支…

とら 虎（名）動物…

猫ニ似て 背は黄…

り、性猛猛ニして…

す、蹂ニ朝鮮ニは…

どら 銅鑼（名）…

て ばちにて た…

と・らい 渡来

と・ろう 徒労 ほねおりぞん、

トライチケ Treitschke（名）…

の人（西紀一八三四－一八九六）、

ドライデン Dryden（名）人名 有名なる詩人 イギリスの人（西紀一六三一－一七〇〇）、

ドライデン Dryden（名）地名 アメリカ合衆国のニューヨーク州の一村なり、

とら・が・あめ 虎雨（名）雨の名、陰暦五月二十八日より降る雨のこと、

トラキア Thracia（名）地名、ヨーロッパの南東部地方の古称、

ドラクロア Delacroix（名）人名、歴史家且画家なり フランスの人（西紀一七九九－一八六三）

ドラケンベルグ Drakenberg（名）山脈の名、ケープ殖民地にある山脈なり、

ドラコン Drakon（名）人名 立法者、古代アテネの執政、立法者たり（紀元前六二〇年頃の人）、

トラシブロス Thrasybulos（名）人名、愛国者ニして且つ海軍軍人、ギリシア国のアテネの愛国者ニして水師提督となる（西紀三九〇年死す）、

どら・ねこ 虎斑猫（名）宿のなき猫のこと、

とらの・ぐらを・おかすごとし 虎の塒を冒すが如し（句）塒は山曲なり、独の利を占めて 威勢の盛んなることを形容したる句なり、

とら・の・くち 虎の口（名）危険ニ 逼迫したる場合のことをいふ、

とら・の・まき 虎巻（名）六韜の一ニして 兵術を記したる秘伝の書なり、轉じて 他人ニ秘すべき重要なる事を記したるもの、

とら・の・みみ 虎耳草（名）植物 草の名、ゆきのしたのこと、

とらの・いを・かる・きつね 虎の威を借る狐（句）権勢ある人の後援あるを恃みて 悪事をなすことをいふ、戦国策

1479

及び文選等に出づ、

とらーのーを 虎尾 (名) 植物 草の名、原野に自生する草にして 高さ二三尺、淡紫色の五瓣花を咲く、其の花は穂状をなして 虎の尾の如し

とらのをーざくら 虎尾櫻 (名) 植物 木の名 櫻の一種にして、球の如き 淡紅の花を開くなり、

とらはれーびと 囚人 (名) 捕虜にとらへられたる人、めしうど、とりこ、

とらーひげ 虎髭 (名) 強き鬚の譬として 虎鬚の如きものをいふ、

ドラービダ Dravida (Damila) (名) 種族の名、インドの種族、

とらーふ 虎斑 (名) 虎の背皮の如く 太き黒節を有する黄赤色のものをいふ、

トラファルガル Trafalgar (名) 海名、海戰場、イスパニア國の南方の岬の近傍をいふ、西紀一八〇五年十月二十一日 イギリスのネルソンが フランス、イスパニアの聯合艦隊を破りし所なり、

とらふ・いし 虎斑石 (名)、礦物 虎斑の如き模樣ある美麗の石にして 装飾品の材料となす 近江國高島郡より産出するもの多し、

とらふ・だけ 虎斑竹 (名) 植物 うんかんちく、に同じ、

トラペズンド Trebizond (Trapezunt) (名) 地名、アジア、トルコのトラペズント州の首府にて要港なり、黒海の東南海岸にあり、二個の深洞峡口に在りて風景絶佳のぬし、小アジアにてはスミルナに次ぐ商業市なり、オーストリアホンガリア汽船会社航路の終局点なり、人口五万余、第四十字軍の時コンスタンチノプルにラテン帝國設けられしかばギリシア帝室は此地を首府としてトラペズント帝國を建てたり、一二九八年蒙古のフラグに征服せらる、〔41/01 N. 39,46 E〕

(名) 地名 ホ

(名) 地名

ケープ殖民地の

名 地名 アジ

國名 南アフリ

罪ある皇帝、ロ

ーマの皇帝（西紀五六一 一一七）、

とらんぷ (名) 西洋より渡来せるかるたの一種、

ドラモンド・とう ドラモンド燈 Drummond's lamp (名) 化學 酸水素焔にて石灰を熱して強光を発せしむる燈なり、幻燈等のごとく強光を要するものに用ゐらる、

沸璃璢の一種 永

く空中を飛翔し

と、

どり (名) 動物、主として 鳥を解剖する際に 出づる赤色

の臓腑のことをいふ、

で 赤兒を産ま

ドリア Doria (名) 人名 イタリアのジェノバの人にて海軍将官なり、一五一三年艦隊司令官として當時地中海に出没したるトルコの海賊を平げ、後佛帝イタリアを窺ふに及び、チアールス五世に仕へて佛軍を防ぎ、遂に軍を率ゐてジェノバに入り大に國民の歓迎する所となり國民より國父の尊号を受けたり、(西紀一四六六―一五六〇)

1479

及び支邏等に出づ、
とらーのーを 虎尾 (名) 植物…
名にして 高さ二三尺、淡紫色の…
状をなして 虎の尾の如し
とらのをーざくら 虎尾櫻 (名) 植…
して 球の如き 淡紅の花を開く… 櫻の一種に
とらはれーびと 囚人 (名) 捕吏にとらへられたる人、めし
うど、とりこ、
とらーひげ 虎鬚 (名) 強き鬚の濃きとして 虎鬚の如きもの
をいふ、
ドラービダ Dravida (Damila) (名) 種族の
名、インドの種族、
とらーふ 虎斑 (名) 虎の背皮の如く 太き黒筋を有する黄
赤色のものをいふ、
トラファルガル Trafalgar (名) 海名、海戦場、イ
スパニア國の南方の岬の近傍をいふ、西紀一八〇五年十月
二十一日 イギリスのネルソンが フランス、イスパニア
の聯合艦隊を破りし所あり、
とらふーいし 虎斑石 (名) 礦物 虎斑の如き模様ある美麗
の石にして 装飾品の材料となす 近江國高島郡より 産
出するもの多し、

トランシルワニア Transylvania (名) 地名 ホ
ンガリア王國の東南の地方
トランスオクシアナ Transoxiana (名) 地名、
ペルシヤの北部の地方、
トランスケイ Transkei (名) 地名、ケープ殖民地の
一地方、

トランスサブスタンシエーション Transubstantiation
(名) 聖餐の麺麭及葡萄酒は、僧侶の封聖の礼により、基督
の血と肉とに化するなりといふ基督旧教の教訓なり、

…名 地名 アジ
…國名 南アフリ
…羅馬皇帝、ロ
ーマの皇帝（西紀五六ー一一七）、
とらんぷ (名) 西洋より変来せるかるたの一種、
…浄瑠璃の一種 永

ドラモンド、とう Drummond lamp (名) 化學 ドラモンド燈 酸水素焔にて石灰を熱して強光を発せしむる燈なり、幻燈等のごく強光を要するものに用ゐらる、

…く空中を飛翔し
…と、
どり (名) 動物、主として 鳥を解剖する際に 出づる赤色
の臓腑のことをいふ、
…で 赤色を産ま

ドリア Doria (名) 人名 イタリアのジェノバの人にて海
軍将官なり、一五一三年艦隊司令官として当時地中海に出
没したるトルコの海賊を平げ、後仏帝イタリアを窺ふに及
び、チアールス五世に仕へて仏軍を防ぎ、之を率ゐてジェ
ノバに入り大に国民の歓迎する所となり国民より国父の尊
号を受けたり、(西紀一四六六ー一五六〇)

24

及び文選等ニ出ヅ、
とらーのーを 虎尾 [illegible]
ニシテ 高サ二三尺 [illegible]
状をなして 虎の尾 [illegible]
とらのをーおくら 虎尾 [illegible]
して 球の如き [illegible]
とらはれーびと 囚人 [illegible]
うど、とりこ、
とらーじげ 虎髭須 [illegible]
をいふ、
ドラービダ Dravid[illegible]
名、インドの種族、
とらーふ 虎斑 (名) 虎の背皮の如く 太き黒筋を有する黄
赤色のものをいふ
トラファルガル T[illegible]
スパニア國の南方 [illegible]
二十一日 イギリ[illegible]
の聯合艦隊を破り、[illegible]
とらふーいし 虎斑石 (名)、礦物 虎斑の如き模様ある美麗
の石にして 裝飾品の材料となす 近江國高島郡より 產
出するもの多し、

トランシルワニア Transylvania (名) 地名 ホ
ンガリア王國の東南の地方、
トランスオクシアナ Transoxiana (名) 地名、
ペルシヤの北部の地方、
トランスケイ Transkei (名) 地名、ケープ殖民地の
一地方、
トランスバイカル Transbaikal (名) 地名 アジ
アロシアの州、外バイカルと见よ
トランスバール Transvaal (名) 國名 南アフリ
カの共和國、今はイギリスの殖民地たり、
トラヤヌス Trajanus (名) 人名 有名なる皇帝、ロ
ーマの皇帝(西紀五六―一一七)、
とらんぷ (名) 西欧より渡来せるかるたの一種、
とらやーえいくわん 虎屋永觀 (名) 人名、淨瑠璃の一種永
閑節の祖、貞享頃の人、
とり 鳥 (名) 動物 二脚 二翼を有し 能く空中を飛翔し
行く動物なり、
とり 雞 (名) 動物 鳥の名、にはとりのこと、
どり (名) 動物、主として 鳥を解剖する際に 出づる赤色
の臓腑のことをいふ、
とりーあげーばば 取上婆 (名) 產婦を助けて 赤兒を產ま

1480

しむることを業とするもの、即ち産婆のこと、
とりあげーゑぼし　取上烏帽子 (名) 男子が元服する時ゴ
被る烏帽子のこと、
とりーあつかい　取扱 (名) 一、取りはからいすること、處
理すること、二、人をとりあつかうこと、即ち待遇する
ことをいふ、
とりあつかいーにん　取扱人 (名)、待遇係の人、又處理す
る人、
とりーあはせ　鶏合 (名) 鶏を持ちよりて鶏闘をなさしむ
ること、
とりーあへーず　不取敢 (副)、直ちに、猶餘せずに、又、物も
取りあへず、なしはてずに、
とりーあみ　鳥網 (名) 鳥を捕ふるに使用する網のこと、と
なみ、かすみのこと、
とりーいる　取入 (動) 気に入る様に行動をなして へつ
らふことなり、
ドリウク Deluc (名)、人名 地理学者且物理学者、イス
パニアの人（西紀一七二七ー一八一七）
とりーうち　鳥打 (名) 弓の名ところ、即ち ゆみの間かの
ことをいふ、
名、オーストリア

トリウムヴィリ Triumviri (Triumvirate) (名) 三頭政治に同じ、

第一の良港 人口十六萬餘あり、
トリエル Trier (名) 地名、プロシアのライン州のこ
と 及び同名の市名あり、
トリエンド Trident (名) 地名 市名 イタリア北部
にある市、
とりーえい　鳥鱏 (名) 動物 魚の名、体も頭も 其形 よ
く鳥に似たり たさ五尺あまりありといふ、
とりーおき　取置 (名) 一定の所へ ためおくこと、又 後
に残し置くこと、即ち保存すること
とり、おさふ　取抑 (動) さしおさへおくなり、又四人 罪
人等を捕りおさへることなり、
とり、おどし　鳥威 (名)、かかしのこと、
とりおとしーもの　取落物 (名) おとしもの、わすれもの、
遺失したる物、
とりーおい　追鳥 (名) 新年の初めに 編笠等を被り 三味
線を弾じ 歌をうたうて 錢を乞ふもの、
とりーか　取個 (名) 人民より取上ぐる年貢の高のこと、賦
税の外の入高、
とりーかしら　鳥頭 (名) 刀太の板の名、鳥の頭の形に造り
たるもの、
とりーかぢ　取檝 (名) 船の進路を右に傾ける様子 檝を使

こむることを業とするもの、即ち産婆のこと、
とりあげ－ゑぼし 取上烏帽子 （名） 男子が元服する時に被る烏帽子のこと、
とり－あつかい 取扱 （名） 一、取りはからひすること、處理すること、二、人をとりあつかふこと、即ち待遇することをいふ、
とりあつかい－にん 取扱人 （名） 待遇係の人、又處理する人、
とり－あはせ 雞合 （名） 雞を持ち來りて雞鬪を為さしむること、
とり－あへ－ず 不取敢 （副） 直ちに、猶餘せずに、又、物も取りあへず、なしはてずに、
とり－あみ 鳥網 （名） 鳥を捕ふるに使用する網のこと、となみ、かすみのこと、
とり－いる 取入 （動） 氣に入る様に行動をなして へつらふことなり、
ドリゥク Deluc （名）人名 地理学者且物理学者、イスパニアの人（西紀一七二七－一八一七）
とり－うち 鳥打 （名） 弓の名ところ、即ち ゆみの把（づ）かのことをいふ、
トリエスト Triest （名） 地名 港の名、オーストリア

第一の良港 人口十六萬餘あり、
トリエル Trier （名） 地名、プロシアのライン州のこと、及び同名の市名あり、
トリエント Trident （名） 地名 市名 イタリア北部にある市、
とり－えい 鳥鱏 （名） 動物 魚の名、体も頭も 其形 よく鳥に似たり たさ五尺あまりありといふ、
とり－おき 取置 （名） 一定の所へたくはへおくこと、又後に殘し置くこと、即ち保存すること
とり－おさふ 取押 （動） さしおさへおくなり、又囚人罪人等を捕りおさへることとなり、
とり－おどし 鳥威 （名） かかしのこと、
とりおとし－もの 取落物 （名） おとしもの、わすれもの、遺失したる物、
とり－おい 追鳥 （名） 新年の初めに 編笠等を被り 三味線を彈し歌をうたうて 錢を乞ふもの、
とり－か 取個 （名） 人民より取上ぐる年貢の高のこと、賦税の収入高、
とり－がしら 鳥頭 （名） 刀太の板の名、鳥の頭の形に造りたるもの、
とり－かぢ 取楫 （名） 船の進路を右に傾ける様子 楫を使

用すること、
とりーがーなく 鳥鳴(枕) 雞が夜明頃に鳴くもののあるより
あるかけていふ枕詞、
とりかへーこ 取替子(名) 取りかへたる子、
とりかへこし 取返(名) 物をとりかへすこと、
とりかへばやーのーたいしよう 取換ばやの大將(名) 取替
物語中にある大將にして女性なれども男と其性質をか
へて 戰争場に勇名をあらはしたる人なり、
とりかへばやーものがたり 取替物語(名) 書名 平安朝時
代の小説 作者は不詳なり、
とりーかよふ 鳥通(名) 鳥は羽根を以て飛び通ふものな
れは 則ちかけていふ[illegible]
[illegible]地に達せしめ 先
[illegible]之より根を生
[illegible]こと、
[illegible]事を處理すること
[illegible]取り[illegible]を取りかかるなり、
とりーがい 鳥貝(名) 動物 貝の名 全形は卵形にして
高さ二寸七分 幅三寸丈あり 色は淡黒色にして 殻偏よ

とりき 壓條(名) 植物 植物の枝を撓めて地に達せしめて
先端より少しく隔りたる處を土にて被ふことをいふ、此は
かくすれば早晩其部分より根を新生するによる、屢々桑に
施さる、

り 多数の放射線あり 我國東海西海等に產出す、之を乾
製して食用となす、
とりかい せうけい 鳥飼宗慶(名) 人名、有名なる書家、
攝津國の人、鳥飼流書法の祖なり、
とりかいーのーみまき 鳥養御牧(名) 地名 攝津國三島郡
にあり、
とりーかぶと 鳥頭(名) 植物 双子葉毛莨科植物にして山
野に自生する多年生草本なり、長さ五尺大、葉形は蓮に似
たり 花は白紫等種々あり 其の形伶人の鳥冠の如
きものなり故に此名あり、
とりーかへかみ 取替紙(名) 一度書きたる紙に多少の
附加をして 白紙半紙と取り代へる物、
とーりく 屠戮(名) ほふりて殺すこと、屠殺すること、
とりーくさ 採草(名) 昔時の医法に於て 種々の草を取り
あつめて ぬり薬を製せしこと、
とりーくじ 耒轅(名)、犁のおさり板より たたりかたに渡
り 縄に接するところをいふ、
とりーくみ 取組(名) 相手となること、又 東西に分れて
取組の定まりおること、
とりくみ ばんづけ 取組番附(名) 相撲の取組を しるし
たる番附のこと、

481

用すること、
とり－が－なく　鳥鳴（枕）　雞が　夜明に鳴くものなるより
ありにかけていふ枕詞、
とりか－－こ　取替子（名）　取りかへたる子、
とりかへし　取返（名）　物をとりかへすこと、
とりかへばや－の－たい－しよう　取換ばやの大将（名）　取替
物語中にある大将にして　女性なれども　男と其性質をか
へて　朝廷に出で男装をあらはしたる人なり、
とりかへばや－ものがたり　取替物語（名）　書名　平安朝時
代の小説　作者は不詳なり、
とり－かよふ　鳥通（名）　鳥は　羽根を以て飛び通ふものな
れは　関にかけていふなり、
とり－ぎ　取木（名）　植物、枝を撓めて　地に達せしめ　先
端より　少しく傷けたる部を　土にて被ひ　之より根を生
ぜしむる法なり
とり－きめ　取極（名）　規約等を決定すること、
とり－きる　取切（動）、一人にて　全ての事を處理すること
をいふ、
とり－かはす　取交（動）　物を取りかはするなり、
とり－がひ　鳥貝（名）　動物　貝の名　全形は　卵形にして
高さ二寸七分　幅三寸丈あり　色は淡黒色にして　殻頂よ

り　多数の放射線あり　我國東海西海等に産出す、之を乾
製して食用となす、
とりかひ　せうけい　鳥飼宗慶（名）　人名、有名なる書家、
摂津國の人、鳥飼流書法の祖なり、
とりかひ－の－みまき　鳥養御牧（名）　地名　摂津國三島郡
にあり、
とり－かぶと　鳥頭（名）　植物　双子葉毛莨科植物にして　山
野に自生する多年生草本なり、長さ七尺大、葉形は蓮子状
たり　花は　白　紫等種々あり　其の形　伶人の鳥冠の如
きものなり故に其称あり、
とり－かへ－がみ　取替紙（名）　一度　書きたる紙に　多少の
附記をして　白き半紙と取り代へるもの、
と－りく　屠戮（名）　ほふりて殺すこと、屠殺すること、
とり－くさ　採草（名）　昔時の医法にて　種々の草を取り
あつめて　ぬり薬を製せしこと、
とり－くび　耒轅（名）、犂のおさり板より　たたりかたに渡
り　縄に接するところをいふ、
とり－くみ　取組（名）　相手となること、又　東西に分れて
取組の定まりおること、
とりくみ－ばんづけ　取組番附（名）　相撲の取組を　しるし
たる番附のこと、

とり・けし　取消（名）法律、法律上存在し且つ其の効果を生じたるものを　瑕疵あるに依り　効果以前の状態に取り戻すことをいふ、例　無能力者の為したる行為は取消すことを得、即ち　其行為の効力を全く無きものとし　行為は初めより無きと同様にすること、

とりけし－の－うったへ　取消訴（名）法律　訴訟手続に関する原則に違背して為されたる確定判決に対して　効力をお破することを目的としてなす訴の方法なり、其方法には種々ありて　場合に依りて異る、

とり－と　鳥籠（名）とりかごのこと、

トリゴー　Trigault Nicolas（名）人名、高僧なり、ゼスイト派の僧にして　支那に来りて布教に従事し　南イキリスに於て死せり（西紀一五七七－一六二八）

とり－こ　虜（名）戦争中　生け捕りにせられる敵人、捕はれ人、俘、

とり－こ　取紛（名）　餅搗立ての餅を　取扱ふときに用ゆる米の粉のこと、

とり－ごえ－の－たき　鳥越瀧（名）瀧の名、陸中国南岩手郡西根村にあり、高さ十八丈あり、

とりこし－ぐらう　取越苦労（名）未だ為さざる前より　心配すること

とり－こみ　取込（名）多忙なること、事の世はしきこと、又、米などを収へ取りこむこと、

とり－ころす　取殺（動）他の為に　祟り殺すなり、鬼殺するなり、

とり－さか　雞冠（名）動物、雞などの頭の部に　赤色の肉帽子形のをなせる皮塊のこと、

とり－ざかな　取肴（名）酒の肴として　膳部に取りそへたるさかなのこと、

とり－さけび　鳥叫（名）作物などを害する鳥を　追ひ払ふ為めに発する高き聲、

とり－さし　鳥刺（名）竹竿等に　黐をぬりて　小鳥などを捕ふること、又其の人をいふ、

とり－ざた　取沙汰（名）世間に評判すること、世の風説、世間の風聞のこと、

とり、さばく　取捌（動）さばくことなり、とりは語勢を助くる発語なり、

とり－さふ　取遮（動）物事を争へる両者の間に入りて　調停するなり、

とり－ざを　鳥竿（名）鳥刺が用ゆる　竹竿にして其の先端には　黐をぬりつけたるもの、之を以て小鳥などを捕ふるなり、

とりーしまる　取締(動)　事甚だ多忙なり、又　萬事を一身
にうけて執行す、
とりーしまり　取締(名)　一切のことを取扱ひ且つ處辨する
こと、萬事を亂さざる様に統べること、
とりしまりーにん　取締人(名)　法律、外部に對して　會社
を代表し會社の業務を執行する所の常設の機關たり　之を
組織する社員とは區別すべきなり、之れ恰かも法人の理事
の如し　尚詳しくは内閣法に就て見よ、
とりーじーもの　鳥自物(枕)　鳥の如きものといふ意にて
水鳥なよは　水に浮ぶものなれば　うく　にかけていふ枕詞
なり、
とりーしらべ　取調(名)　事物を検査すること、　詮議又は證
據物をとり調ぶること
とりーすがる　取縋(動)　すがるなり、　とりは語勢を助くる
発語なり、
トリスタン　ダ　クニア　Tristão da Cunha　(名)
群島の名　南太西洋の群島なり
とりーすぶ　取總(動)、ひとくくりにまとめるなり、總括撮
括するなり、
とりーすつ　取捨(動)　すつるなり、とりは語勢を助くる發
語なり

とりすみーのーやま　鳥栖山(名)　山の名　大和國吉野郡に
あり、
トリチエリーのしんくう　トリチエリーの真空(名)　物理、
トリチエリの實験に於て　玻璃管の上部に存在する空虚な
る部分を　トリチエリーの真空と称す、然し乍ら　之は全
くの真空にあらずして　水銀の薄き蒸氣が　充ちおるもの
なり
トリチエリーのじっけん　トリチエリーの實験(名)　物理、
トリチエリーは太氣の壓力を實験せんとて　一米突ばかり
の玻璃管をとり　其一端を塞ぎ　之に水銀を充たし　其の
口を指頭にて塞ぎ　之を倒にして　水銀槽中に立て　指頭
を放つときは　管内の水銀下りて　上端に空虚を生ず、而
して　管外の水銀面上凡そ七百六十粍の高さに於て　静止す
、之れの管内に留りたる水銀柱は　管外の水銀面を壓する大
氣の壓力によりて支へらるる者なり、　而して　水銀の比重は　一三
、五九なるは　大氣の壓力は　一平方糎毎に　凡そ一千瓦
即ち百萬ダイン　なり、
と、即ち收穫萬
純子　綾等の模
相似へる模様を

トリチェリー、の、はふそく　トリチェリーの法則
Torricelli's law　(名)　物理　流出液の速度に關
しての法則なり、即ち容器の側壁或は下底に穿てる小孔よ
り自由に流出する液体の速度は、比重の如何に拘はらず
、液面の高さより流下せる物体が、小孔と同高の處に達せ
し時に有する速度に等し、

1482

とりーしまる 取締(動) 事甚だ多忙なり、又 萬事を一身ふうけて執行す、
とりーしまり 取締(名) 一切のことを取扱ひ且つ處辨すること、萬事を乱さざる様ふ統べること、
とりしまりーにん 取締人(名) 法律、外部ふ對して 會社を代表し會社の業務を執行する所の常設の機關たり 之を組織する社員とは區別すべきなり、之れ恰かも法人の理事の如し 尚詳しく内閣法ふ就て見よ、
とりーじーもの 鳥自物(枕) 鳥の如きものといふ義ふて 水鳥なども 水ふ浮ぶものなれば うくふかけていふ枕詞なり、
とりーしらべ 取調(名) 事物を検査すること、誤謬又は証據物をとり比らぶること
とりーすがる 取縋(動) すがるなり、取は語勢を助くる發語なり、
トリスタン ダ クニア Tristão da Cunha (名) 群島の名 南太西洋の群島なり
とりーすぶ 取總 …
接するなり、
とりーすつ 取捨 …
諾なり

とりすみーのーやま 鳥栖山(名) 山の名 大和國吉野郡ふあり、
トリチェリーのーしんくう トリチェリーの真空(名) 物理、トリチェリーの實験ふ於て 玻璃管の上部ふ存在する空虚なる部分を トリチェリーの真空と称す、然し乍ら 之は全くの眞空ふあらずして 水銀の薄き蒸気が 充ちおるものなり
トリチェリーのーじっけん トリチェリーの實験(名) 物理、トリチェリーは太気の壓力を實験せんとて 一米突ばかりの玻璃管をとり 其一端を塞ぎ 之ふ水銀を充たし 其の口を指頭ふて塞ぎ 之を倒ふして 水銀槽中ふ立て 指頭を放つときは 管内の水銀下りて 上端ふ空虚を生ず、而して 管外の水銀面上凡そ七百六十粍の高さふ於て 静止す 之れ管内ふ留りたる水銀柱は 管外の水銀面を壓する大氣の壓力ふよりて支へらる故なり、 而して水銀の比重は一三、五九なるを以て 大気の壓力は 一平方糎毎ふ 凡そ一千瓦即ち百萬ダインなり、
とりーだか 取高(名) 收入したる金高のこと、即ち收穫高のこと、又 禄高のこと、
とりーだすき 鳥襷(名) 織物の模様の名、綸子 綾等の模様ふ縦横の波形の節の中間ふ 二羽の鳥が相向へる模様を

繰り出したるものなり、指貫、奴袴等を造る綾子等に於て見る所なり、

とり−たつ　取立（動）貸金などを催促して取るなり、徴発するなり、又、他人を登庸してやるなり、挙げ用いるなり、又　悉く自分に行ふなり、

とり−たて　取立（名）、催促して取り集むること、徴発すること、又、挙げ用ゆること、採用してやること、又、唯今取りたるばかりなるもの、

とりたて−めいれい　取立命令（名）法律　債権者が債務者に代りて直接に第三債務者に対して債務の弁済を請求する権利を有せんが為に裁判所に申請して得る所の命令なり、

とり−たはけ　鶏婚（名）上古の罪名、或犯罪を為したる囚人が雞と交合すること、

トリチェリ　Torricelli（名）人名　物理学者、イタリアの人、（西紀一六〇八−一六四七）、

とり−ちがへ　取違（名）、物事をとりちがふること、誤りて取りまちがふこと、

とり−つか　取束（名）物器の握る所をいふ、鞭の握るところの如し、

とり−つき　取附（名）人又は物にとりつくこと、とり出がること、

とり−つぎ　取次（名）事を取り傳ふること、間に居りてなかつぎすること、

とりつき−しんしやう　取附身上（名）所帯を持ち初めたるばかりにて何物もととのはぬ身代のこと、

とりつぎ−じよ　取次所（名）なかつぎをする所、事を取り次ぐところ、

とり−つくろふ　取繕（動）、つくろふなり、とりは語勢を助くる発語なり、又、悪しき所を隠して善き所のみをあらはすなり、とりなすなり、

とり−つけ　取附（名）経済　銀行などの預金を引出しに来ることを取附と称す、多くは銀行が不振なる場合にあることにて之が為に其銀行は一層早く破産することあるものなり、

とり−つむ　取詰（名動）急に其事をせまるなり、猶餘なくなすなり、

とり−て　捕手（名）昔時の捕方のこと、罪人などをめし捕ふるもの、捕方、

とり−て　取手（名）器物などを手にて持つところ、即ち把手のこと、

とりで　砦（名）本城の周囲に於て諸所に設けたる假の小

1484

ある城のこと、即ち塞のこと、
とり－どころ　取所（名）人の能とする所は取り用ゆべき
ところなり、即ちとりえ、
とり－とむ　取留（動）確かと捕ふるなり、慥かおとる、又
確實ありと証明しうるなり、たしかむるなり、
とり－な－こ　鳥取名子（名）昔時の舞の名、年中行事の際に
行ひたるもの、
とり－なし　取成（名）仲裁すること、
とり－なは　捕縄（名）犯罪人囚人等を縛る縄、
とり－にげ　取逃（名）、他人の所有物を横奪して逃げること
なり　取りて逃げること、
とりにげ－もの　取逃物（名）、盗賊の盗取しまりたる物に
して　即ち贓物のこと、
トリニダート　Trinidad（名）島の名　西インドの
南方にある島なり、
トリノ　Torino（名）地名　州名及首府名、イタリアの一州
にして又同名の市あり　人口三十五万餘、市街は廣
漠たるものにて　公園　宮殿　城廓　大学　図書館等あり
産物は織物を以て　其の重要なるものとす、ビリトン　エ
マヌエル及びカブール　の生地なり
とり－の－あし　升麻（名）植物、草の名、あは［illegible］のこと、

とり－の－あと　鳥跡（名）、文字の別称、昔時支那の蒼頡
あるもの鳥の足跡を見て文字を編出せるなりとの傳あ
るなり　かくはいふなり、
とり－の－いち　酉市（名）とりのまちの條を見よ、
とり－の－かひくち　鳥飼口（名）鷹の取りたる鳥の胸毛小
刀にてさきおり肉塊を鷹の餌料とすること、
とりのこ－いろ　雞卵の色（名）卵色のこと、淡き黄色のう
すみたるをいふ、
とりのこ－かみ　鳥子紙（名）、紙の名　越前國丹生郡及び敦
賀等より産出する厚紙にして面はなめらかなり、之は
雁皮と楮とを以て製するなり、
と［illegible］の－こし　鳥取（名）取りのこすこと、
とりのこ－もち　鳥子餅（名）形丸き卵なりに造りたる紅
白の餅なり、祝儀用なり、
とりのこ－やま　鳥子山（名）山の名、富士山の別称、
とりの－つかさ　鳥司（名）にはとりの異称、
とり－の－ひたれ　鳥膠（名）あぶらじりのこと、
とり－の－ほろげ　鳥母衣毛（名）毛の名、鳥の脚の下の羽
毛のこと、
とりの　まさにしなんとするとき　その　なくやこと　やかなし、
鳥の將に死なんとする時其の鳴くことや哀し（文）、論語に

1485

出てたる曾子の言なり、
とりーのーまち 酉町 (名) 祭礼の名、十一月の酉日に行ふもの、第一の酉日を、一の酉といひ 第二の酉日を 二の酉といひ 第三の酉日を 三の酉といふ 初めは武蔵國南足立郡花又村なる鷲神社の祭日なりしが 現今は 浅草田圃の鷲神社にて行ふに至れり
とりーのーみち 鳥路 (名) 空中の里程、
とりーはからひ 取計 (名) 處分すること、とりはからふこととなり、
とりーばしら 鳥柱 (名)、白鳥が 一時に空中にあがることにして 恰も柱を空中に立てたるかの如きなり、
とりーはだ 鳥肌 (名) 性来皮膚の粗なること、又 寒気の為に 身の毛のよだつこと、
とりーはづし 取外 (名) 確かと取ることを能はずして とりはづすこと、
とりーはは 取母 (名) 養母のこと、
とりーははき 鳥箒 (名)、鳥の羽毛にて 造りたる箒、
とりーはやす 取栄 (名)、評番をしてやる、もてはやす、とりは発語なり、
とりーはらひ 取拂 (名)、無用となりし故に 取りしまふことと、又、失敗して諸物を撤去すること、

順序反対

とりーひき 取引 (名) 一、商人間の賣買のこと、うりかひのこと、二、法律、受取引渡の意味なれども 當事者の一方若くは双方は 營業として なす所の 賣買交換等の行為を云ふ、例へば 何々商店と取引せり、
とりひきーじよ 取引所 (名) 法律、貨物の賣買を行ふには 現物を提供して 授受する場合あり 又然らざる場合あり 現物を以てする場所は 市場なり 現物を以てせず 唯相場價に付て 營業者相互の間に 取引をなす所を取引所といふなり、米穀取引所、株式取引所、
とりーびしほ 鳥醢 (名) 鳥の肉を 塩漬にしたるもの、
トリーブシツク Trevithick (名) 人名 機械発明家あり、イギリスの人 蒸気機関に壓力を加ふることを発明せり (西紀一七七一ー一八三三)、
とりーぶつし 鳥佛師 (名) 人名 司馬達等の孫多須奈の子、鞍作部と称す、推古天皇の十三年 詔を蒙り 銅及び繍を以て 丈六の佛像各々一軀を造りし人なり、
とりーぶすま 鳥衾 (名) 丸瓦の細長なるもの、
房、配當したる
國磐岩郡にある

トリブヌス Tribunus (名) 古代ローマにて庶民の自由を保護し、貴族の壓制を防がん為め 庶民の選挙したる官吏にして、紀元前四九三年の内乱の時より始まる、
トリブヌス、プレビス Tribunus Plebis (名) ローマの政務検察官にして行政、立法の禁止権を有したり、

破門を解かれずば 廃位と認むべしと議決せしをにて 翌年 ヘンリ四世はイタリアに赴き、カノサ城中にてローマ法王に哀訴し、懺悔して遂に破門の赦免を領ひたり。

出てたる曽子の言なり、
とりーのーまち　酉町（名）祭礼の名、十一月の酉日に行ふもの、第一の酉日を、一の酉と、第二の酉日を二の酉といひ、第三の酉日を三の酉といふ　初めは武藏國南足立郡花又村なる鷲神社の祭日なりしが　現今は　淺草田圃の神田某子に於て行ふに至れり
とりーのーみち　鳥路（名）空中の異称、
とりーはからひ　取計（名）處分すること、とりはからふことなり、
とりーばしら　鳥柱（名）、白鳥鳥が　一時に空中にあがることにして　恰も柱を空中に[illegible]たるが如きなり、
とりーはだ　鳥肌（名）[illegible]鳥の粗なること、又　寒気の爲に　身の毛のよだ[illegible]あわして　とり
とりーはづし　取外[illegible]はづすこと、
とりーはは　取母[illegible]
とりーははき　鳥[illegible]
とりーはやす　取囃[illegible]りは発語なり、
とりーはらひ　取拂（名）、無[illegible]、又、失敗して諸物を撤去すること、

[illegible]

順序反対

とりーひき　取引（名）一、商人間の賣買のこと、うりかひのこと、二、法律、受取引渡の意義なれども　當事者の一方若くは双方は　營業として　なす所の　賣買交換等の行為をいふ、例へば　何々商店と取引せり、
とりひきーじょ　取引所（名）法律　貨物の賣買を行ふには現物を提供して　授受する場合あり　又然らざる場合あり　現物を以てする[illegible]は　市場なり　現物を以てせず　唯相場價に付て　營業者相互の間に　取引をなす所を取引所といふなり、米穀取引所、株式取引所、
とりーびしほ　鳥醢（名）鳥の肉を　塩漬にしたるもの、
トリーブシッグ　Trevethick（名）人名　機関発明家あり、イギリスの人　蒸気機関に壓力を加ふることを発明せり（西紀一七七一　ー　一八五五）、
とりーぶつし　鳥佛師（名）人名　司馬達等の孫多須奈の子、鞍作部と称す、推古天皇の十三年　詔を蒙り　銅及び繍を以て　丈六の佛像各々一軀を造りし人なり、
とりーぶすま　鳥衾（名）丸瓦の細長なるもの、
とりーぶん　取分（名）、わが有となすべき部分、配當したる部分、
山城國愛宕郡にある

トリブル　Tribul（名）地名　ドイツ、ライン河中流の東岸にある市、一〇七六年神聖ローマ皇帝ヘンリ四世に快からざる独逸諸侯此地に會し、帝若し一年にして法王より破門を解かれずば貶位と認むべしと議決せしを以て、翌年ヘンリ四世はイタリアに赴き、カノサ城中にてローマ法王に哀訴し、懺悔して遂に破門の赦免を願ひたり。

出でたる曽子の言なり、

とり－の－まち　酉町（名）祭礼の名、十一月の酉日に行ふもの、第一の酉日を一の酉と云ひ第二の酉日を二の酉といひ第三の酉日を三の酉といふ、初めは武藏国南足立郡花又村なる鷲神社の祭日なりしが、現今は浅草田圃神田等にて行ふに至れり

とり－の－みち　鳥路（名）空中の異称、

とり－はからひ　取計（名）處分すること、とりはからふことなり、

とり－ばしら　鳥柱（名）、白鳥が一時に空中にあがることかくて恰も柱を空中に立てたるが如きなり、

とり－はだ　鳥肌（名）性来皮膚の粗なること、又寒気の為に身の毛のよだつこと、

とり－はづし　取外（名）確かと取ること能はずしてとりはづすこと、

とり－はは　取母（名）養母のこと、

とり－ははき　鳥箒（名）、鳥の羽毛にて造りたる箒、

とり－はやす　取囃　とりは発語なり、

とり－はらひ　取拂

又、失敗して諸

とり－ひき　取引（名）一、商人間の賣買のこと、うりかひのこと、二、法律、受取引渡の意義なれども當事者の一方若くは双方は營業として為す所の賣買交換等の行為をいふ、例へば何々商店と取引せり、

とり－ひき－じょ　取引所（名）法律、貨物の賣買を行ふには現物を提供して授受する場合あり又然らざる場合あり、現物を以てする所は市場なり、現物を以てせず唯相場價に付て營業者相互の間に取引をなす所を取引所といふなり、米穀取引所、株式取引所、

とり－びしほ　鳥醢（名）鳥の肉を塩漬にしたるもの、

トリーブシック　Trevithick（名）人名　機発明家　イギリスの人　蒸氣機関に壓力を加ふることを發明せり（西紀一七七一－一八五五）、

順序反対

とり－ぶっし　鳥佛師（名）人名　司馬達等の孫多須奈の子、鞍作部と称す、推古天皇の十三年詔を蒙り銅及び繍を以て丈六の佛像各々一軀を造りし人なり、

とり－ぶすま　鳥衾（名）丸瓦の細長なるもの、

とり－ぶん　取分（名）、わが有となすべき部分、配當したる部分、

とり－べ－の　鳥邊野（名）、昔時の墓地、山城国愛宕郡にある墓地なり、

とりべーやま　鳥部山（名）地名、とりべののこと、
トリボニアヌス　Tribonianus　（名）人名、法律家
、ジヤスチニアン帝の時の法典編纂家なり、
トリポリ　Tripoli　（名）地名、アフリカの地中海に面
する地方の名にして　又同名の首府なり、
トリマ　Tolima　（名）山の名、火山、アンデス山脈中
にある山なり、
とりーまき　取巻（名）豪遊をなせる客の周囲に取り巻く詐
の藝妓又は封間の類、
とりまちーづき　鳥待月（名）陰暦四月の異称、
とりーまはし　取廻（名）物をとりまはすこと、處分すること、又他人を待遇すること、
とりーみち　鳥道（名）極めて細き山道のこと、唯鳥のみ
通ふ路なり、
トリンガノ　Tringano　（名）地名、港の名、マレ
イ半島の中部にあり、
とりーめ　鳥目（名）夜中は却て物の見えぬ眼、即ち権
盲のこと、
とりーもーあへず　不取敢（副）物を取るいまもなく、直ぐ
さま、
とりーもち　取持（名）他人の事をとりもつこと、他人を世
話すること、
とりーもどし　取戻（名）一旦渡したるものを取りもどすこ
と、回收すること、
とりーもーなほさず　取不直（副）改めずに、直に、
とりーもの　捕物（名）手に捕へたるもの、又、捕縛せられ
たるもの即ち罪人のこと、
どーりやう　度量（名）物を測るもの、度は物の長さを測る
尺なり、量は物の量かさを測る枡のこと、
どーりやうーかう　度量衡（名）尺と枡と秤となり、秤
は物の重さを測るものなり、
とりーやま・しけん　鳥山芝軒（名）人名、有名なる詩人、詩
を賦作することを以て專業とせり　屢詩を講説することは其
人を以を嚆矢とす　又書も亦傳はり一家を成せり、正徳五
年歿す　年六十一、
とりーやり　取遣（名）自分も取り先方へも與ふること、
贈答のことなり、
どーりよく　努力（名）骨折りてつとむること、精を出すこ
と、勉強すること、
とりーわけ　取分（副）事物を明に区別するなり、物を分
配して器物等に盛りわける、
とりーゐ　鳥居（名）神社前にある門の如きもの、

とりゐ-がうゑもん　鳥井強右衛門（名）、人名　鳥井勝商のこと、其の條を見よ、

とりゐ-かつたか　鳥井勝商（名）人名、勇將、奥平信昌の家臣、天正三年　長篠城中兵粮尽きたりしを以て　夜重囲せる武田軍を潜りて　徳川家康の下に至り　主命を陳じ　帰途　武田軍に捕はる、武田勝頼は勝商をして　奥平軍に向ひ　家康は多事なきを　援くる能はずと　言はしむ、勝商　之をきかずして曰く　家康　大軍を以て　敵を壓殺すること　三日を出でずと　遂に殺さる　年三十八、

とりゐ-きよのぶ　鳥井清信（名）人名、有名なる浮世繪の画家、江戸の人　菱川風の画を学び　遂に一家をなし　常に江戸の歌舞伎の繪看板を書けり、今日に至るも　尚鳥井流の看板を改めず、享保十四年歿す

とりゐ-たうげ　鳥居峠（名）地名、有名なる嶮嶺、信濃國下伊那郡にあり　中仙道街の藪原と奈良井との中間にある峠なり、

とりゐ-つむじ　鳥居旋毛（名）つむじの二つ併びてあるを云ふなり、

とりゐ-もとただ　鳥居元忠（名）人名、家康の忠臣、慶長五年　家康が東の上杉景勝を會津に征せし時　元忠をして伏見城を留守せしめたり　然るに大坂の兵　之を攻囲せし為に遂に戦死せり、年六十二、

とりーを　秤索（名）秤竿の紐のこと、

ドル　Dollar（名）銀貨の名、一ドル（弗）は　凡そ我が二円あり、

トルア　Troyes（名）地名　カトシャンパーニウの首府たりしフランス公の一市、一四二〇年五月廿一日トルコ条約此地にて調印せらる、

…ー八八二）（名）…中央アジアの一…スタンは　ロシ…

トルコ　Turks（名）國名、東方ヨーロッパ、西方アジア及び北方アフリカに跨る回教國の人民にして　現今トルコ帝の主権を握るものは　即ち此種族也、

トルコ　Turkey（名）國名、一名オットマン帝國と称す　東方ヨーロッパ　西方アジア　北方アフリカに跨る回教國をいふ、之を二大別して　アジアトルコ　とヨーロッパトルコとに区別するなり、首府はコンスタンチノープル　特に歴史上古國は　古来幾百の変遷ありしや　測る可らず、殊にギリシアと称せし時は　其文化の進みたること、実に驚くに堪へたるものあり、

…二帝名、プロシ…

ドルスス　Drusus（名）人名　一、ローマ皇帝カリグラの弟、性乱暴にして陰謀を企せ元老院より死刑の宣告を受けしがチベリウスに寛されて幽閉餓死せり、（紀前三三）
二、ドルスス　クラウヂウス　子ロはローマの将軍にしてチベリウス帝の弟なり、西紀十三年ライン河畔にてゲルマン民族の侵入軍を破りて功ありしかば　ゲルマニクスと綽名されたり、（紀前三八－西紀一八）

1487

こと、其の傑を見す、

とりゐ-かつたか 鳥井勝商（名）人名、勇将、奥平信昌の家臣、天正三年 長篠城中 兵粮尽きたりしを以て 衣囲せる武田軍を潜りて 徳川家康の下に至り 主命を達し 帰途 武田軍に捕はる、武田勝頼は勝商をして 奥平軍に向ひ 家康は多年なるを 援くる能はずと 言はしむ、勝商 之をきかずして曰く 家康 大軍を以て 敵を壓殺すること 三日を出でずと 遂に殺さる 年三十六、

とりゐ-きよのぶ 鳥井清信（名）人名、有名なる浮世絵の画家、江戸の人 菱川風の画を学び 遂に一家を成し 常に江戸の 歌舞伎の繪看板を書けり、今日に至るも 尚鳥井流の看板を残めす、享保十四年殁す

とりゐ-たうげ 鳥居峠（名）地名、有名なる 峻嶺、信濃國下伊那郡にあり 中仙道街の 藪原と 奈良井との中間にある峠なり、

とりゐ-つむじ 鳥居旋毛（名）つむじの 二つ係びてあるを云ふなり、

とりゐ-もとただ 鳥居元忠（名）人名、家康の忠臣、慶長五年 家康は東の上杉景勝を會津に征せし時 元忠をして伏見城を留守せしめたり 然るに大坂の兵 之を攻囲せし

とりーゐ 秤索（名）秤竿の紐のこと、

ドル Dollar（名）銀貨の名、一ドル（弗）は 凡そ我が二円あり、

トルア Troyes（名）地名 ウとシァンパーニウの首府たりしフランスの一都、一四二〇年五月廿一日トルコ条約式地にて調印せらる、

…（一八八二）

中央アジアの二 … スタンは ロシ…

トルコ Turkes（名）國名、東方ヨーロッパ、西方アジア 及び北方アフリカに跨る回教國の人民にして 現今トルコ帝の主権を握るものは 即ち其種族也、

トルコ Turkey（名）國名、一名オットマン帝國と称す 東方ヨーロッパ 西方アジア 北方アフリカに跨る回教國を云ふ、之を二大別して アジアトルコと ヨーロッパトルコとに区別するなり、首府はコンスタンチノープルなり、歴史上其國は 古来幾多の変遷ありしや 測る可らず、殊にわりしアと称せし時は 其文化の進みたること、實に驚くに堪へたるものあり、

…帝名、プロレ…

ドルスス Drusus（名）人名 一、ローマ皇帝カリグラの兄、性乱暴にして陰謀を企せ元老院より死刑の宣告を受けしかチベリウスに寛され幽閉餓死せり、（紀前三三）二、ドルスス クラウヂウス 子ロはローマの将軍にしてチベリウス帝の弟なり、西紀十三年ライン河畔にてゲルマン民族の侵入軍を破りて功ありしかばゲルマニクスと綽名されたり、（紀前三八－西紀一八）

トルステンソン Torstenson（名）人名 スウェーデンの有名なる将軍にして三十年戦争の時[illegible]に苦戦し、ドイツに於ける瑞典軍の総大将として一六四二年ドイツ軍を破りたり、（西紀一六〇三－一六五一）

とりゐ−がうゑもん　鳥井強右衛門（名）人名　鳥井勝商の
こと、其の條を見よ、
とりゐ−かつたか　鳥井勝商（名）人名、勇猛、奥平信昌の
家臣、天正三年　長篠城中　兵糧尽きたりしを以て　御
重囲せる武田軍を[illegible]
し　帰途　武田軍[illegible]
軍に向ひ　家康は[illegible]
、勝商　之をきかず[illegible]
殺すること三日を出[illegible]年三十八
とりゐ−きよのぶ　鳥井清信（名）人名、有名なる浮世絵の
画家、江戸の人　菱川氏の画を学び　遂に一家をなし　常
に江戸の歌舞伎の繪看板を書けり、今日に至るも　尚鳥井
流の看板を存めす　享保十四年没す
とりゐ、たうげ　鳥居峠（名）地名、有名なる峻嶺、信濃國
下伊那郡にあり　中仙道街の難所と　奈良井との中間にあ
る峠なり、
とりゐ、つむじ　鳥居旋毛（名）つむじの二つ係りてあるを
云ふなり、
とりゐ、もとただ　鳥居元忠（名）人名、家康の忠臣、慶長
五年　家康が東の[illegible]
伏見城を留守せし[illegible]

為に遂に戦死す、年六十二、
とりーき　秤索（名）秤竿の紐のこと、
ドル　Doller（名）銀貨の名、一ドル（弗）は　凡そ我が二円
なり、
ドルイン　ドリウイス　Drouyn de Lhuys（名）
人名、フランスの政治家（西紀一八〇五ー一八八一）
トルキスタン　Turkestan（名）地名　中央アジアの一
地方なり　之に東西の二あり　西トルキスタンは　ロシ
アに属し　東トルキスタンは　清國に属す、
トルコ　Turkes（名）國名、東方ヨーロッパ、西方アジ
ア及び北方アフリカに跨る回教國の人民にして　現今ト
ルコ帝の主権を握るものは　即ち其種族也、
トルコ　Turkey（名）國名、一名オットマン帝國と称す
東方ヨーロッパ　西方アジア　北方アフリカに跨る回教國
をいふ、之を二大別して　アジアトルコ　と　ヨーロッパト
ルコとに区別するなり、首府はコンスタンチノープル城なり
、歴史上大國は　古来幾百の変遷ありしや測る可らず、
ギリシアと称せし時は　其文化の進みたること、実に
驚くに堪へたるものあり、
ドルトムンド　Dortmund（名）地名　市名、プロシ
ア國の市なり、

ドールトン Dalton (名) 人名、英のコツカアマウスに生る化学者、且つ物理学者にして、マンチエスタアにて教授たり

トルファン 土魯番 (名) 喀什噶爾と共に察合台汗の裔なり、古の畏兀兒即ち回疆の地を領したりしが、清の康熙中に於ける準噶爾の噶爾丹に滅ぼさる、

トルン Thorn (名) 地名、西普魯西の市にして、ワルソウの北西一一五哩にあり、商業盛にして、中古の諸寺院あり、又、硝薹は有名なり。西暦一二三一年、チユウトン同盟の立てし所にして、一四五四年ポウランドに属す。此の市太古はフレ同盟中の一市にして一七二四年、此の地にて新教徒多く殺さる、ボウランド第二回分割の際普魯西に属し、一八〇四年ワルソウ公国に譲與され一五年又、普魯西の有となれり、人口凡そ四萬。天文学者コペルニクス此の地に生る、

どれい、はいし 奴隷廢止 (名) 近世自由思想の発達と共に續々各国に行はるるに至りしが、廢止の際は必ず一部人士の反對するものありて紛乱を起すこと多し、殊に甚しきは北米合衆國南北戰争を生じたるなり、

どれい、かいがん 奴隷海岸 Slave Coast (名) 地名 スレーブコーストのことなり、西アフリカ北上ギニアのベニン湾に瀕する沿海地にしてラゴスよりボルタ河に至る間をいふ、〔6.0N. 2.0E.〕

ドレーク Drake (名) 人名 フレデリキ ドレークはドイツの有名なる彫刻家にしてオケン、ランケ、ビスマルク、モルトケ、フレデリキ、ウイルヘルム三世等の半身像を作りたり、プロシアの八州に擬せる比喩体のもの及戰士の月桂冠を戴く像は最も有名なり、(西紀一八〇五―一八八二)

ヨセフ ロドマン ドレークは米国詩人にて犯罪者の悪神なる想像的詩を作り又アメリカ国旗の歌を作りて名を揚げたり、(西紀一七九五―一八二〇)

……河にして附近にて……ローマの執政セムプロニウスを破り、一七九九年六月スパ……ロー、仏国の元帥マグドナールの軍を破りたり、

ゼルラ、ウツゲンは夫王朝に代りてキルザ朝を建つ、とれがな

トレかつてすたちゆ 脱列哥掃 (名) 人名、元の太宗の皇后なり、太宗の崩ずるや遺命に背きて失烈門を立てず、却りて長子貴由を立てんとし、聖旨を矯めて摂政となり君位不定なること五年にして初めて會を開き、遂に貴由を立てたり、

ドレーク Drake (名) 人名 航海者、イギリス國の人なり (西紀一五四〇―一五九六)、

ト……リアと……の名、ドイツ國……壊伴聯合……スパニア國の人……シシリアの西部……ストラリアの南……風波の起らぬ……し、黒ふ……を

ドールトン Dalton (名) 人名、英のコツカアマウスに生る
化学者、且つ物理学者にして、マンチエスタアにて教授たり

しとき、實験及び論文を公にして、科学界に頭角を顕はせり、一八〇八年には有名なる化学哲学に於ける新説を公にせり、氏色盲なりしを以て、色盲に関する新研究は、特に有名なり、クエカア宗派に屬す、尚ダルトンの条を見よ、

ドールンコップ Doorn kop (名) 山の名、南アフリカ、カプラントの山名なり、

中埠市なり、

どるゐ、きんぞく 土類金屬 (名) 化学、「カリウム族」、「カルシウム族」、「アルミニウム族」等の元素をかく名づく、こは化合物となりて地中に多量に存在せるによる、

違したる今日に於ては不利益なるを次て
欧亜一般に廃止するに至れり、

どれい、かいがん 奴隷海岸 Slave Coast (名) 地名 スレーブ コーストのことなり、西アフリカ上ギニアのベニン湾に瀕する沿海地にしてラゴスよりボルタ河に至る間をいふ、〔6.0N. 2.0E〕

どれい、はいし 奴隷廢止 (名) 近世自由思想の発達と共に續々各国に行はるるに至りしも、廃止の際は必ず一部人士の反対するものありて紛乱を起すこと多し、殊に甚しきは北米合衆國南北戰争を惹起したるなり、

たるもの、主人は
ふ有り、奴隷は二
のと、他の未開地
ちアフリカの衣
るらず 西経済系
遂に前世紀近み
史、印度の夕々が
ゲンは初めゴール
西紀一二〇六年なり
西紀一二九の年

ゼルラ、ウッゲンは夫王朝に代りたるサルゲ朝を建つ、
とれかな
の鐘命せし

だつれつ、ごうな 脱列哥那 (名) 人名、元の太宗の皇后なり、太宗崩ずるや、命を矯して失烈門を立てず、却りて長子貴由に望を属しおり

君位不定 皇族親撫 七年にして初めて會を開き、遂に貴由を選立せり、

ドレーク Drake (名) 人名 航海者、イギリス國の人

ドレーク Drake (名) 人名 フレデリキ ドレークはドイツの有名なる彫刻家にして、オケン、ランケ、ビスマルク、モルトケ、フレデリキ、ウィルヘルム三世等の半身像を作りたり、プロシアの八州に擬せる比喩体のもの及戦士の月桂冠を戴く像は最も有名なり、(西紀一八〇五―一八八二)

ヨセフ ロドマン ドレークは米国詩人にて犯罪者の悪神なる想像的詩を作り又アメリカ国旗の歌を作りて名を揚げたり、(西紀一七九五―一八二〇)

[Pencil slip, partly covered]
…リカの河にして附近にて…八年…ン二八…
ローマの執政セムプロニウスを破り、一七九九年六月スパ
ロー、仏国の元帥マクドナールの軍を破りたり、

あり (西紀一五四〇―一五九五)、
トラリアと二
の名、ドイツ國
三当 撰伸聯合
スパニア國の人
シシリアの西部
ムトラリアの南
風波の起占ぬ
し、思ふ於左口

ドールトン　Dalton　西紀一七六六―一八四四　（名）人名、理化学者、イギリス国

ドルパット　Dorpat　（名）地名、都名、ヨーロッパロシアの都市、

トルワルドセン　Thorwaldsen　（名）人名、彫刻師なり、デンマルクの人、（西紀一七七〇―一八四四）、

~~ドールトン　Dorton（名）地名、城市の名、西プロシア国の城市なり、~~

ドールンコップ　Doorn kop　（名）山の名、南アフリカ、カプランドの山名なり、

どーれい　奴隷　（名）他人の家の奴となりたるもの、主人は之を人間として取扱はず物として取扱ふなり、奴隷に二種あり、其の国人が直に奴隷となるものと、他の未開地の蛮人が奴隷となる場合あり、後者は即ちアフリカの黒人等とす、奴隷は人倫に害あるのみならず経済発達したる今日に於ては不利益なるを以て遂に前世紀近に欧亜一般に廃止するに至れり、

どれい・おうちょう　奴隷王朝（名）歴史、印度のクタブ、ウッゲンの創設したる王朝なり、ウッゲンは初めゴール家の奴隷なりしを以て此称あり、時に西紀一二〇六年なり、後内乱外患并び起りて争乱絶へず、西紀一二九〇年ゼルラ、ウッゲンは此王朝に代りてキルヂ朝を建つ、

とれがな　脱列哥那（名）人名、元の太宗の皇后なり、太宗の崩せし失烈門を立てず、却りて長子貴由に望を属しおり、君位不定、皇族親旗五年にして初めて会を開き、遂に貴由を選立せり、

ドレーリ　Drake（名）人名、航海者、イギリス国の人なり（西紀一五四〇―一五九六）、

ドレーク　Drake（名）人名　フレデリキ、ドレークは、ドイツの有名なる彫刻家にしてオケン、ランケ、ビスマルク、モルトケ、フレデリキ、ウィルレム三世等の半身像を作りたり、プロシアの八州に擬せる比喩体のもの及戦士の月桂冠を戴く像は最も有名なり、（西紀一八〇五―一八八二）

ヨセフ、ロドマン、ドレークは米国詩人にて犯罪者の悪神なる想像的詩を作り又アメリカ国旗の歌を作りて名を揚げたり、（西紀一七九五―一八二〇）

…ローマの執政セムプロニウスを破り、一七九九年六月スバロー、仏国の元帥マグドナールの軍を破りたり、

…トラリアと…の名、ドイツ国…三旨　墺伊聯合…スパニア国の人…シシリアの西部…ムトラリアの南…風波の起らぬ…し、異に新たに

ドールトン Dalton (名) 人名 理化学者、イギリス国人 ~~西紀一七六六(一八四四)~~

ドルパット Dorpat (名) 地名 都名 ヨーロッパロシアの都市、

トルワルドセン Th… (名) 人名 彫刻師なり デンマルク人 (一八四四)、

~~ドール… Thor…~~ 中城市なり、

ドーンカップ

カ、カプラ

どーれい 奴隷 …之を人間と…種あり、其…の蛮人が奴隷と…グロ等とす、支奴隷は 人倫…違こしたる今日に於ては不利益なるを以て…欧亜一般に廃止するに至れり、

どれい・おうちょう 奴隷王朝 (名) 歴史、印度のクタブ…ウッヂンの創設したる王朝なり、ウッヂンは初めゴール家の奴隷なりしを以て 支那なり、時に西紀一二〇六年なり 後 内乱外患 屢起りて争乱絶へず 西紀一二九〇年ゼルラ、ウッヂンは支王朝に代りてキルヂ朝を建つ、

とれかな 脱列哥那 (名) 人名、元の太宗の皇后なり 太宗の崩御せし失烈門を立てず 却りて長子貴由に望を屬しおり 君位不定 皇族親族 土年にして 初めて會を開き、遂に貴由を選立せり、

ドレーク Drake (名) 人名 航海者、イギリス国の人なり 西紀一五四〇―一五九六、

トレス Torres (名) 海峡の名、オーストラリアとニージニアとの中間にあるもの、

ドレスデン Dresden (名) 地名 首府の名、ドイツ国の王国サキソニアの首府なり、西紀一八一三年 墺伊聯合軍が 那翁の為めに敗られし所なり、

ドレスデン、でうやく ドレスデン條約 (名) 一七四五年プロシア王フレデリキ二世がドイツ帝フランシス一世とドレスデンにて結びし條約をいふ、此條約にて普王はシレシアの領有を確定し、フランシスの帝位を承認したり、

トレビア Trebia (名) 河名 現今のTrebbiaなり、北部イタリアの河にして附近にて紀元前二一八年ハンニバル、ローマの執政セムプロニウスを破り、一七九九年六月スバロー、仏国の元帥マクドナールの軍を破りたり、

…スパニア国の人 …しシリアの西部 …ムトラリアの南 …風波の起らぬ …し、思ふ所を口…

ドールトン Dalton (名) 人名 理化学者 イギリス國
の人 西紀一七六六(〜一八四四)

ドルパット Dorpat (名) 市名 ヨーロッパロシ
アの都市、

トルワルドセン Th… デンマルク… 人名 彫刻師
なり

…中城市なり、

ドールンコップ…

カ、カプラ…

どーれい …
之を人間として…種あり、其の國人が…の蛮人が奴隷となる…が如き事とす、其奴…達したる今日には…欧亜一般に廃止す…

どれい-おうちょう 奴隷王朝 …
ウッゲンの創設したる王朝なり…家の奴隷なりしを以て其称あり、時に…後 内乱 外患 並び起りて争乱絶へず 西紀…

ゼルラ、ウッゲンは其王朝に代りてキルヂ朝を建つ、

とれかな 脱列哥那 (名) 人名、元の太宗の皇后なり 太宗の崩せし 失烈門を立てず 却りて長子貴由に望を属しおり 君位不定 皇后親摂 五年にして 初めて会を開き、遂に貴由を選立せり、

ドレーク Drake (名) 人名 航海者、イギリス國の人なり 西紀一五四〇〜一五九六、

トレス Torres (名) 海峡の名、オーストラリアと ニュージニアとの中間にあるもの、

ドレスデン Dresden (名) 地名 首府の名、ドイツ國の王國サキソニアの首府なり、西紀一八一三年 墺俄聯合軍が 那翁の為めに敗られし所なり、

トレド Toledo (名) 人名 政治家、イスパニア國の人なり (西紀一四八四〜一一五五三)

ドレパヌム Drepanum (名) 地名、シシリアの西部地方の旧称なり、

トレンス Torrens (名) 湖の名、オーストラリアの南部地方にあるもの、

トレントン Trenton (名) 地名 北米合衆国ニウージアジーの市、一七七六年ワシントン此地を攻撃し英守兵を捕へてフィラデルフィアに送り、再び此地を占領したり、
(40,14 N. 74,45 W.)

…風波の起らぬ…

…し、罪を許し…

ドールトン Dalton（名）人名 理化学者、イギリス國
~~中人~~ 西紀一七六六ー一八四四）
ドルパット Dorpat [illegible] 名 ヨーロッパロシ
アの都市、 [illegible] 名 彫刻師
トルワルドセン [illegible]
あり デンマアル [illegible]
~~[illegible]~~
中城市なり、[illegible]
ドールンコッ [illegible]
カ、カ [illegible]
どーれい 奴 [illegible]
之を人間として取 [illegible]
種あり、其の國人 [illegible]
の蛮人が奴隷と [illegible]
グロ等とす、[illegible]
達したる今日に於 [illegible]
欧亜一般に廃止するに [illegible]
どれいーおうちょう [illegible]
ウッゲンの創設した [illegible]
家の奴隷なりしを [illegible]
後 叛乱 外患 [illegible]

ゼルラ、ウッゲンは夫王朝に代りてキルゲ朝を建つ、
とれかな 脱列哥那（名）人名、元の太宗の皇后なり、太宗
の遺命を鑄せし失烈門を立てず、却りて長子貴由に望を属しお
り 君位不定 皇后親摂 五年にして 初めて會を開き、
遂に貴由を選立せり、
ドレーク Drake（名）人名 航海者、イギリス國の人
なり（西紀一五四〇ー一五九六）、
トレス Torres（名）海峡の名、オーストラリアと ニ
ユージニアとの中間にあるもの、
ドレスデン Dresden（名）地名 首府の名、ドイツ國
の王國サキソニアの首府なり、西紀一八一三年 墺伊聯合
軍が 那翁の為めに敗られし所なり、
トレド Toledo（名）人名 政治家、イスパニア國の人
なり（西紀一四八四ー一五五三）
ドレパヌム Drepanum（名）地名、シシリアの西部
地方の旧称なり、
トレンス Torrens ~~Drepanum~~（名）湖の名、オーストラリアの南
部地方にあるもの、
とろ 瀞（名）波浪の極めて 静かなること、風波の起らぬ
こと、
とーろ 吐露（名）意見などを 陳述すること、思ふ所を吐

1488

に出すこと、
とろーいた 鳥餌枝 (名) 鳥屋にて鷹などの餌食を集する
枝をいふ、
とろし 蕩 (形) 心のしまりなきなり、心気のにぶきなり。
のろのろしきなり。
トロシウー Trochu (名) 人名、軍人、フランスの將
軍なり、(西紀一八一五ー一八九五)、
トロッパウ Troppau (名) 地名 首府の名、オース
トリアのシレシアの首府なり。
ドロテア Drothea (名) 人名 アレキサンドリアの一
處女、三一一年一月六日其宗教の犠牲となりて斬首せらる、
トロニエム Throndhjem (名) 地名 港名及び
港の名、ノールウェー國の中部にある峡湾にして 又 其
湾内には 同名の港津あり、
とろーび 漫火 (名) 火気ののろき火、文火、
とーろん 徒論 (名) 何等の効果なき議論、即ち 空論、
トロンド Toronto (名) 地名 首府、カナダ聯邦オンタ
リオ洲の首府なり。
トロンノル Dolon Nor (名) 地名、喇嘛廟のこと、清
國存蒙古にある都府たり、
トロンプ Tromp (名) 人名 海軍人、オランダの水
師提督たり (西紀一五九七ー一六五三)

トロンプ Tromp (名) 人名 一、マルテン ハーペ
ルツーン トロンプはオランダの水師提督なり、一六二四
年海軍に入り累進して一六三七年副水師提督となる、一六
三九年九月西班牙及葡萄牙の聯合艦隊を英吉利海岸に撃破
したり、一六五三年七月廿九日オランダ戦争の時戦死す、(西紀一
五九七ー一六五三)、二、コルネリオ トロンプは前者の子
にして同くオランダの水師提督なり、十九歳にしてアルジ
エリアの海賊を征伐し一六五三年海軍少将に任ぜられ、一
六七六年中将に任せらる、(西紀一六二九ー一六九一)

(名) 地名 小
初、神代の頃プリ
ヱメテオスの後
ふ之を怒りて
斬切頭は此ず、
おきて 將と為し
殺せしも 方ケ
城陥落せし、世

泥除 (名) 車の 車輪に着きたる泥の はねる
を防ぐ具にして 多くは車輪の上にあり、
とろろあふひ 黄蜀葵 (名) 植物 草の名、一年生草本に
して、葵の一種なり 長さ 三尺あまりありて 互生葉を有す
、花は黄色にして 五瓣なり 根は円錐形をなす、其根より
糊を製して 紙漉用に供す、
とろろじる 薯蕷汁 (名) 料理の名、山芋を 摺鉢にて お
ろし 之に澄し汁又は 味噌汁を加へて溶かしたるもの
なり 多くは 麦飯にかけて 食す、味 淡わして 佳なり、
饂飩にかけたるものを いもうどんといふ、
どーわ 篤哇 (名) 人名、寧居台汗、篤哇は 八剌汗の子、

に出すこと、
とろーいた 鳥餌板 (名) …
とろし 蕩 (形)、心の …
のろのろしきあり、…
トロシウー Trochu …
軍あり、(西紀)一八一…
トロッパウ Troppau …
トリアのシレシアの…
ドロテア Dorothea …
處女、紀元一一年一月…
トロニエム Throndhjem (名) 地名 港名及び
港の名、ノールウェー國の中部にある峡湾にして 又 其
港湾には 同名の港津あり、
とろーび 漫火 (名) 火気ののろき火、文火、
とーろん 徒論 (名) 何等の効果なき議論、即ち 空論、
トロンド Toronto (名) 地名 首府、カナダ聯邦オンタ
リオ洲の首府なり、
ドロンノル Dolon Nor (名) 地名、喇嘛廟のこと、清
國存在せる都會たり、
トロンプ Tromp (名) 人名 海軍人、オランダの水
師提督たり (西紀一五九七年生れ 一六五三年)
トロヤ Troy (Troia. Ilion) (名) 地名 小
アジアの古代の都名、古来有名なる古戦場、神代の頃プリ
ア、モス王の一子パリスなる者 スパルタ王メネラオスの後
後室ヘレナを誘拐せり ギリシヤ諸部 大に之を怒りて
トロア遠征軍を出せり 前後十年に亘るも 勝敗は分れず、
是に於てギリシア人は アヒルレウスを戴きて 将となし
トロイア兵を討ち 将軍アヒルレウスは陣歿せしも オデ
ッセウスの奇計 功を奏して 遂にトロア城陥落せり、世
に之をトロア戦争と称す、
どろーよけ 泥除 (名) 車具、車輪に着きたる泥の はねる
を防ぐ具にして 多くは車輪の上にあり、
とろろーあふひ 黄蜀葵 (名) 植物 草の名、一年生草本に
して、葵の一種なり 長さ三尺あまりありて 互生葉を有す
、花は黄色にして 上辨なり 根は円錐形をなす、其根より
糊を製して 紙漉用に供す、
とろろーじる 薯蕷汁 (名) 料理の名、山芋を 擂鉢にてお
ろし 之に澄し汁又は 味噌汁を加へて溶かしたるもの
あり 多くは 麦飯にかけて食す、味 淡にして佳なり、
饂飩にかけたるもの を いもうどんと いふ、
どーわ 篤哇 (名)、人名、撃居台汗、篤哇は 八剌汗の子、

1470

海都汗の擁立せられて　察合台汗と為り　海都汗の死を伝せて　東進し　哈剌大州に至る　元の世祖　皇子那木罕をして　之を防がしむ　両軍　鄂爾坤河畔に会戦す、後　篤哇は　海都の子察八児を擁けて　阿魯台汗国の主権を　掌握せしも　後遂に　察八児を勧めて　成宗に降らしめ、後察八児の異志を抱くや　之を撃破し　成宗の子武宗と　之を夾撃し　察八児　遂に窮して　武宗に降る、時に西紀一三〇八年なり、

とわだ－の－ぬま　十和田沼（名）沼の名　陸奥国上北郡十和田村にある沼なり　周囲凡そ十里にして　水清く　風光甚だ佳なるを以て　有名なり、

とわだ－やま　十和田山（名）山の名　陸奥国上北郡にあり、山中には　風光明眉の十和田沼あり、

と－わたる　門渡（動）河　海のみなとを渡る事、

と－わたる　疾渡（動）急ぎて　渡り行く、疾く渡り越す、

ど－ゐ　土居（名）城廓の周囲にある土塀のこと、

とゐ　都尉（名）官名、支那の武官の名、秦の時代の官名なり、兵事を司どるものなり、

どゐ　おほゐのかみ　土井大炊頭（名）人名　土井利勝のことと、其の條を見よ、

どゐ－がうが　土井聱牙（名）人名、儒者　伊勢国津藩の儒者たり、斉藤拙堂の門に学びて　文章書画等をも善くせり　資性磊落不羈　礼節に拘泥せず　明治十三年六月十一日没す　年六十四、

どゐ－としかつ　土井利勝（名）人名　政治家、土井秋昌の養子となり　天正七年生まれて　秀忠公に侍す　性　才智卓絶して　勤倹　寛仁なりしを以て　大に主君に用ひられ寛永十年佐倉より　古河城に移り　旧封合せて十六万二千石を食み　遂に大老職に任せられ　家光の儲君あるや　其の傅相となる、当時　青山忠俊　酒井忠世　土井利勝を以て　寛永三輔と称せり　正保元年七月没す　年七十二、

どゐ－ぶき　土居葺（名）屋根瓦を葺する前に　先づ　こけらを粗く葺き　之に泥土を盛りたるをいふ、

どゐ－みちはる　土井通治（名）人名、勤王家、伊豫国の人にして　後醍醐天皇　船上山に行幸せられしをきゝて　義兵を挙げて　軍勢を助け　尊氏叛するや　兵庫之を破り　義貞と共に皇太子を奉じて　越前国金崎城に據りしが　賊軍の之を囲むるや　遂に事の為ちざるを察して　自殺せり、

とをか－えびす　十日恵比須（名）祭礼の名　陰暦正月十日に行はるる摂津国大坂の蛭子の神の祭礼なり、

とをさと－をの　遠里小野（名）野の名、霞　蕨を以て　有名なり、摂津国にあり、

な

な 名（名）事物につけたる呼稱にして 有形無形を論せず
其事物を識別するために設けたる標の詞 特に人にあり
ては姓氏に對して 一族中の一人に限りて用ひたる稱を
いふ 又、世間のきこえ 評判 名聲の意に用ゆ
な 字（名）もじ 即ち 文字におなじ かな、まなといふ
かなにし
な 肴（名）酒膳の際に 副へて食するものをいふ 俗にさ
かなといふ、
な 菜（名）一、菜 又は野に生ずる草にして 食ひうべきも
の、二、あぶらなの略稱、三、たうなの略、
な 汝（名）なんぢにおなじ
な（辞）一、動詞の尾に付して 其動作を禁ずるに用ゆ 二、
同しく禁止の辞として 二動詞の間に位するもの、三、感
動の意を示す辭、
なあ（辭）感動の意を示す辭。
なーあて 名宛（名）手紙などに あててやるべき人の名。
ない 不（名）非背のことを示すに用ふる詞 例 行かな
い 見ないの如し
ない 地震（名）ぢしん のことをいふ、

ナイアガラ Niagara.（名）地理 瀑布の名、
アメリカ合衆國にある大瀑、イリー湖とオンタリオ湖と
の間にありて セントローレンス河の水源をなす、幅三三
六哩 長三大哩の急流、今盛に水力電気を起して 大工業
を經營するに至れり。
ないーい 内意（名）心内に思ふところ、内々の意向、
ないーい 内衣（名）中かたの異名、
ないーいう 内憂（名）内國の騒乱、うちうちの内騒ぎ、之
れは外患と對稱す
ないーいん 内印（名）大さ方三寸にして 文には天皇御
璽の四字ありて 外印に對す、之は昔時 五位以上の位
記及び太政官より下す 詔書 勅書などに押すに用ゆ、
ないーえつ 内謁（名）朝廷にて 公然の儀式を用ひず、内々
にて君主に謁すことをいふ。
ないーえつーけん 内謁見（名）ないえつにおなじ、
ないえん 内焔（名）化學 Inner flame. 焔は之
を區別すれば三部分となる 其内 黄色にして輝ける部分
あり 之を内焔又は還元焔と稱す
ないーえん 内宴（名）昔時 宮中にて 正月二十一日に行
ひたる公事、此日 仁壽殿に於て 文人に題を賜はり詩
を作らしめ 御前にて披講し 後 酒饌を賜はる 内々の

1

の符号なり、
ないーおう　内奥（名）　内通に同じ、
ないーかい　内海（名）　Inland Sea.　地理、其周圍の
殆ど陸地を以て　かこまれたる海をいふ、
ないーかい　内界（名）　外界に對し　心内各種の現象を示し
たる語、
ないかく　内閣（名）　内閣官制により　明治十八年十二月
二十二日に設けられたる我國最高の政府なり、宮内　外務
内務、大蔵、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の十
省及　内大臣をいふ　内大臣は後　宮内省に合併せらる
内閣は　天皇に直隷して　萬機をつかさどり　且つ　國政
をつかさどるところ。
ないかくーしよきかん　内閣書記官（名）　官名、内閣に属
する書記官、内翰、内史、
ないかくーそうりだいじん　内閣總理大臣（名）　官名、明治
十八年十二月廿二日新に内閣の組織せらるるに及び　十有
の上に位して　萬機を總理する官なり　其年伊藤博文の
任ぜられたるを嚆矢とす、
ないがしろ　蔑如（名）　輕蔑すること　侮ること、
ないかん　内感（名）　心理學、自己の古き經驗　及び遺傳經
驗が腦の組織中に存在し　それより生ずる感覺の總稱、

ないかん　内翰（名）　内閣書記官におなじ
ないかん　内官（名）　昔時、京都在住の官をいふ　即ち京官
なり　地方官を外官といふに對するなり、即ち二官、八省
、彈正台、衛府、馬寮、兵庫寮、後宮寮、東宮輔導の官吏
内官と稱す、
ないーき　内記（名）　古の官名、中務省に属して　詔勅　宣
名を作り　又宮中一切の記事をつかさどりしもの、大中二
があり　うちのしるすつかさ、
ないーきそく　内規則（名）　會社などにて設くる其の社内の
規則をいふ、
ないーきやく　内客（名）　うちわの客　即　公然として来ら
ず　内々にきたる客、
ないきよくちゆうそーせう　内局柱礎抄（名）　書名、菅原和
長の著せしもの、大内記に補任せられし人の心得べ
き事を記せるもの、
ないくう　内宮（名）　伊勢國皇大神宮の稱、五十鈴川の上
流にあり　天照大神を祀る　初め崇神天皇　神威を汚さん
ことを恐れ　故に　大和國笠縫の邑に奉祀せしものなりしが
垂仁天皇三十五年　倭姫命神託を受け　更に之を　此地に
移し奉りしものなり、八咫鏡を神体として崇奉す、我國家
の宗廟なり、内宮は　豊受大神を祀れる外宮に對する稱、

ないーぐぶ 内供奉（名） 僧侶の職名 内供奉十禅師のことかして 以前は十禅師と称せしが 寶亀二年に 内供奉と改称す、さて十禅師とは 大化の頃初めて 大安寺に置きし、高僧にして福亮、恵雲、常安、霊雲、恵至、僧旻、道登、恵隣、恵隠、恵妙の十人を云へり

ないーくん 内訓（名） 官省の長官より その部下に發する 内密の訓令をいふ、

ないーくん 内君（名） 妻君におなじ

ないーくわ 内科（名） 専ら 身体の内部における病を治する醫術をいふ、

ないくわくわん 内花冠（名） 植物、花冠の一種、Corona 花冠に二種の附属機関を着生することあり 即ち すゐせんの如き 單花被の内部に脱く發達せる盃状形をなす花冠様のものなり、また小鱗片よりなるもの、毛茸よりなるもの の等の種々の形状をなせるものあり。

ないーぐわい 内外（名） うちとそとのこと、

ないーくわん 内患（名） ないいうにおなじ

ないーくわんりやう 内管領（名） 歴史、鎌倉時代の執権、北條氏の執事をいふ、

ないけいどうみやく 内頸動脈（名） 生理、總頸動脈に起り 深頸筋の前に於て 咽頭側壁を登り 頸蓋底に至り 岩様部管を経て 頸蓋内に出て 蝶形骨溝に沿ひ 前走し 視神経孔の後側にて 上に轉曲し 脳底に達す、

ないーけう 内教（名） 佛教にて 佛道をさしていふ、

ないけうーばう 内教坊（名）、もと佛教の語を 歌曲に作りて教へたるよりいふものにて 即ち 昔時 禁中にて 舞妓を置き 女樂を教へたる所を稱す、踏歌の舞姫なども ここより 選出し

ないけんし 内検使（名） 武家の役目、民間田畑の豊凶を検視する官なり、

ないーこう 内攻（名） 病の外面に發せずして 内部に侵入するもの、病を追込むことと、多くは瘡毒に付ていふ、

ないーこう 内訌（名） 内輪同士の間に 闘着して 互に騒闘を起すこと、うちわもめ、同士うち、

ないーこう 乃公（名） だいこうともよむ、我方、拙者といふにおなじ、即ち 自尊して いふ詞なり、また 乃公とも書く 史記の高帝紀に [illegible]乃公事とあり、

ないーこく 内國（名） くにのうち、國内、

ないーこく 乃刻（名） 即刻におなじ、即ち 直ちにおなじ

ないこつかく　内骨骼（名）動物 Endoskeleton. 脊椎動物の如く体の内部にある骨骼をいふ、
ないこん　内閫（名）おくむきのこと、
ないさい　内済（名）争闘などの将に起らんとするを内々に済ますこと、私和。
ないさいぼうそう　内細胞層（名）動物、ないはいようにおけ
なじ就いて見るべし、
ないざう　内臓（名）ざうふ　即ち五臓の総稱、
ないぞうしんけいきゅう　内臓神経球（名）動物、Visceral ganglion. 貝類の内臓にある神経球をいふ、からすがい類の神経球には三對の大なる神経球あり　一は口の背面に位するもの、咽上神経球といい、一は足内に存在するもの　足神経球といい　一は後收筋の直下に位するもの　之を内臓神経球と稱す　各神経球は皆互に神経索を以て連続す、内臓神経球は　肛門　鰓　外套の一

部　心臓等に神経枝を発しおるなり。
ないし　内侍（名）一、内侍司に属する女官の名稱、即ち尚侍、典侍、掌侍の三等なり、二、特に掌侍をいふなり。
ないし　乃至（名）数の上下をあげて中間を略するに用ゐる語、七乃至九。或は、又は、などの意に用ゆ、之れは佛典より出でし語、般若心経に「無無明、亦無無明盡、乃至無老死」云云。
ないじ　内耳（名）生理 Labyrinth. 耳の部を見るべし。
ないしつ　内室（名）身分ある人の妻を敬ひて　呼ぶ語、奥方、夫人といふに相同じ、
ナイジア（ニジエル）Niger（名）地理　川の名、西部アフリカのコンク山より発したる大河にして長さ二千六百哩西に流れて　ギニア湾に入る　其河口には大なる三稜洲あり。
ないじきょく　内侍局（名）淳仁天皇の朝に　図書寮を改稱して　一時此名稱を用いたり、
ないじつ　内實（名）内々の事情　うちまく、内情。
ないしどころ　内侍所（名）一、之は或は賢所とも稱す、東西三間半　南北五間半、後に扇ありて　神器を奉安する所の殿なり、八咫の御鏡を安置し、内侍司　之を守護す

4

二、後には轉じて　神器　其物をさして　直ちに内侍所とい
ふにも至れり。
ないしどころのみかがみ　内侍所御鏡（名）八咫の御鏡の
別稱、
ないじのかみ　尚侍（名）内侍司の長官　じやうじをいふ。
ないじのじよう　掌侍（名）内侍司の判官、定四人　權二
人あり　その第一のを　一の内侍　又は勾當の内侍といふ
じやうじ、ないし
ないしのすけ　典侍（名）内侍司の次官、てんじ。
ないしのつかさ　内侍司（名）大寶令に依りて定めたる後
宮十二司の一、后妃に奉侍する女官をいふ、長官を尚侍、
次官を典侍、判官は掌侍となす、單に内侍といふときは
掌侍をさす、常に宮中にありて　内侍所を奉護し　常侍、
奏請、宣傳などの事をも司どり、兼ねて女孺を檢制し　命
婦　女藏人等の朝參及　其中の礼式の事を司れり、　今は
皇后宮職に屬す、
ないしん　内心、（名）こころのうち、したごころ。
ないじん　内臣（名）令外の官にして　時代、世状によりて
て　其設置一定せず、中臣鎌足は内臣を經て　天智天皇の
内大臣となり　左右大臣の上に位して　朝政を補翼したり
光仁天皇の時には　藤原良繼、魚名の兩人　内臣となりしが
左右内臣の下に位せり。
ないしんわう　内親王、（名）女子の皇族なり、父天皇より内
親王たるべき宣下をうけて　初めて此稱を用ふ、宣下なき
は　一般の女王と申すなり、
ないしやう　内傷（名）うちきずにひとし
ないしやう　内相（名）一、内務大臣の略稱、二、つま、
かない、内室をいふ、
ないじやう　内情（名）うちわの事情、内實。
ないしやうがん　内障眼（名）病の名、そこひといふ眼病
におなじ、
ないしやく　内借（名）一、金銭中の幾分かを前金にて
借りうくること、うちかり、二、内密にて借金すること、
ナイチンゲール（名）人名、看護婦、
フィレンツェ府に生る　家は富裕なる英人の家、年二十二
にして　始めて看護婦學校に入り卒業して後、西紀一八
五四年のクリミヤ戰爭の起るに際し　單身彼の地に渡り
時の醫も嚴たるに拘はらず、熱心鋭意、負傷兵の看護に
從事せり、戰後　國に歸り　看護婦學校を設立し　世の婦
女子を教育し　又看護の注意書と稱する書を公にせり。
ないじゆ　内豎（名）昔時、禁中にて使はれし　元服せぬ
小童、うへわらはともいふ。

次頁　ないぢん（内陣）の次に入る

ないじゅーしよ　内竪所（名）昔時宮中にて内竪の居りしところ。

ないしよ　内證（名）表面にあらはさぬこと、うちわ、おもて立たぬこと、

ないじよ　内助（名）一、内々に補助すること、二、妻の内子、

ないしよく　内職（名）本職の外になす私の生業、

ないしようじ　内障子（名）私生児、かくしご、私子、

ないすい　内錐（名）動物、Endostyle、囲皮の腹面にあたる線繊の内面にある四所にして粘液を分泌し内に長き繊毛あり食物は其の所にて塊となり下方に送られ排出せらる、ものなり

ないせき　内戚（名）父方の親戚、族

ないぜんし　内膳司（名）昔時、宮内省に屬して供膳供御のことをつかさどりしところ、うちのかしはでのつかさともいふ、

ないぜんどころ　内膳所（名）ないぜんしにおなじ

ないそ　内祖（名）せんぞにおなじ

ないそう　内奏（名）内密に奏聞すること、

ないそん　内損（名）腸胃を損ふこと、腸内をいたむることをいふ、

ないたい　内帶（名）地文　崑崙山系の日本海に面する部分をいふ、

ないだんしゆう　内談衆（名）武家の役目、ひきつけしゆうにおなじ

ないだんとうにん　内談頭人（名）武家の役目、ひきつけがしらにおなじ

ないち　内地（名）一、居地、居住、又は外國に對して一國の本土をいふ、二、國内の土地、三、一國内の海に遠き地方　例信濃、甲斐等を内地といふ、

ないぢ　内治（名）一、國内を治むること、二、内科の治療をいふ、

ないちざっきよ　内地雜居（名）別に居留地を設けず内外國人が内地に於て營業居住するの自由を與へたるもの即ち内國の開放なり　我國は明治三十二年七月より實施せらる、

ないちん　内陳（名）密かに己が意見をのぶること

ないじん　内陣（名）神社佛堂などの堂内にて　本尊又は神靈を安置しあるところ、即ち奥の社なり。

此間ニ前頁ノ「ナイチンゲール」ヲ入ル

ないちょう　内寵（名）君主の氣に適へる妾、即ち内嬖、

ないちょうけい　内長莖（名）植物、Endogenous stem.

ないーじゅーしょ　内竪所（名）昔時　宮中にて　内竪の居たりしところ。
ないーしょう　内證（名）表面にあらはさぬこと、うちわ、おもて立たぬこと、
ないーじょ　内助（名）一、内々に補助すること、二、妻内子、
ないーしょく　内職（名）本職の外に私になす生業、
ないしょーじ　内證子（名）私生児、かくしご、私子、
ないすい　内錐（名）動物、Endostyle、囲虫の腹面にあたる鰓籠の内面にある凹所にして　粘液を分泌し　内に長き繊毛あり　食物は其の所にて塊となり　下方に送られ排出せらるゝなり。
ないーせき　内戚（名）父方の親戚（族）
ないーぜんし　内膳司（名）昔時、宮内省に属して　供膳（結膳）供御のことをつかさどりしところ、うちのかしはでのつかさともいふ、
ないぜんーどころ　内膳所（名）ないぜんしにおなじ
ないそ　内祖（名）せんぞにおなじ
ないーそう　内奏（名）内密に奏聞すること、
ないーそん　内損（名）腸胃を損すること、腸内をいためることをいふ、

ないーたい　内帯（名）地理、崑崙山系の所を見よ、
ないーだいじん　内大臣（名）官名、ないしんに同じ、
ないーだん　内談（名）うちわの相談、密談、
ないだんーしゅう　内談衆（名）武家の役目、ひきつけしゅうにおなじ
ないだんーとうにん　内談頭人（名）武家の役目、ひきつけがしらにおなじ
ないーち　内地（名）一、居地、居所、又は外國に對して一國の本土をいふ、二、國内の土地、三、一國内の海に遠き地方　例信濃、甲斐等を内地といふ、
ないーぢ　内治（名）一、國内を治むること、二、内科の治療をいふ、
ないちーざっきょ　内地雑居（名）別に居留地を設けず　内外國人が　内地に於て　雜處居住するの自由を与へたるもの　即ち　内國の開放なり　我國は明治三十二年七月より開施せらる、
ないーちん　内陳（名）密かに己が意見をのぶること
ないーちん　内陣（名）神社佛堂などの　奥殿にて　本尊又は神霊を安置しあるところ、即ち　奥の社なり。
ないーちょう　内寵（名）君主の氣に合へる妾、即ち内嬖、
ないちょうーけい　内長莖（名）植物、Endogenous stem.

此間ニ　前頁の「ナイチンゲール」ヲ入ル

單子葉莖を横斷する時は 假皮層 基本組織 維管束の三部に區別しうべし、其の如き構造を有する莖にありては 數個の維管束は 基本組織中に散在し 維管束は新組織を有せざるを以て 其形を擴大することなし、從って莖の內方にある維管束は 外方にある維管束群よりも新成部に屬するを以て 之を內長莖と稱す。

ないーちょく 內敕 (名) 天子の御內意、密勅、

ないーちょくきん 內直筋 (名) 眼球に附着せる筋肉の名、眼球は其方向を變す之れ視線の方向を轉ずる爲の作用なり、動眼神經の下枝之れに循ふ、なほ 眼球(かんきゅう)の條を見よ、

ないていこう 內抵抗 (名) 物理 Internal resistance. 電池の內部にある液に於ける抵抗を內抵抗といふ、

ないーつう 內通 (名) 味方の內より敵に通ずること 即ち內應、

ないーてい 內廷 (名) 一、うちには なかには 二、てうてい(朝廷)におなじ

ないーてん 內典 (名) 佛教にて 佛書をさして 內典となし 佛書以外の書を以て 外典となす、例、漢書の如し、

ないーでん 內殿 (名) 內部の殿室、おくどの。

ないーど 內帑 (名) 天皇のうちうちの御費用、帝室費、

ないとう しんじゅく 內藤新宿 (名) 地名、武藏國南豐島郡にある市街、東京府の管轄に屬す、甲州街道にあたるところ、

ないーとりーかり 內鳥狩、(名) とまりやまにおなじ、

ないはいーそう 內胚層、(名) ないはいようにおなじ、

ないはいよう 內胚葉、(名) 動物、Endoderm. 腔腸動物の如く 三層よりなる動物体の內層をいふ、高等動物に於ても 發生の初期には 三層を生じ 其內層をさして 內胚葉と稱す、內胚葉は發達すれば 消食系內面の皮膜 脊索 肝 膵等を生ず、

ないーはう 內方 (名) ないぶにおなじ

ないーはう 內包 (名) 論理學の語 外延に對稱する語にして 事物の概念の內容に屬する屬性をいふ

ないーばく げばくし 內縛外縛 (名) 佛教の語にして かなしばりにおなじ、

ないーひやう 內評、(名) 一、內內の評判、二、內々の評議をいふ、

ないーふ 內府 (名) ないだいじんの唐名なり、

ないーぶ 内部（名）一、うちまく、うちわ、二、うちのかた、内面、三、腹の内。

ないふーじよう 内封状（名）こしぶみにおなじ、

ないーふく 内福（名）表面は さほどに見えざれども 内輪のとめること、

ないぶん 内分（名）一、うちわけにおなじ 二、表沙汰にせぬこと、何にせぬこと、うちわの

ないーぶん 内文（名）内印を捺したる文書、

ないーへい 内嬖（名）ないちようにおなじ、

ないーへん 内変（名）内国の騒乱、うちわの変事をいふ。

ないーべん 内弁（名）天子の即位 及び 元日次下の諸節会に 主として 承明門院内に於て 廃事を弁備する職をいふ。之れは 門外にて諸事を取る人を外弁といふに対して用ひたるもの、

ないまん 乃満乃蛮（名）人種の名、Naiman 唐代げる黙戛斯の南にして 宋朝および元起る時に当り アルタイ裏老靼、衛拉等と並び起りたる種族にして南部一帯より出でたり、

ないーみつ 内密（名）秘密にすること、ないしようの

ないーみやうぶ 内命婦（名）五位以下の女官の称にし外命婦に対する称なり、

ないむしよう 内務省（名）官省の名 明治十八年十二月二十二日の内閣設立の時に設置す、事務は内国一般の事に亘り 県治、警保、土木、衛生、地理、社寺、会計の諸局及び 地籍取調所、集治監等を統轄するところ、

ないむーだいじん 内務大臣（名）内務省の長官、内相、

ナイメーヘンわやく ナイメーヘン和約（名）Nymegen 和約とは 一六七八年オランダの西南 ライン河の左岸なるナイメーヘン市に於て フランス王ルイ十四世は オランダ及其他の諸邦と平和条約を結びしをいふ：其条約により フランスは オランダが其侵略地を返還し 独ては フライブルグを、西班牙は フランシュ コンテ 其他二三の要地を フランスに割譲せり。

ないーめい 内命（名）内々の命令をいふ、

8

ナイメーヘン Nymegen (Nijmegen)（名）地名 オランダ、ヘルデルランドの ワール河畔にある一市、有名なる画家ナイメーヘンの出でたる地なり、カロリンガ朝諸王の王宮ありし地なるも今は衰廃せり、(5.5.5.N. 5.5.E.)

ないーぶ 内部 (名) 一、うちまく、うちわ、二、うちのかた、内面、三、腹の皮。
ないふーじやう 内封狀 (名)、こしぶみにおなじ、
ないーふく 内福 (名)、表面はさほどに見えねども内輪のとめること、
ないぶん 内分 (名) 一、うちわけにおなじ 二、表沙汰にせぬこと、公にせぬこと、うちわの
ないーぶん 内文 (名)、内印を捺したる文書、
ないーへい 内嬖 (名)、ないちようにおなじ、
ないーへん 内變 (名)、内國の騒亂、うちわの変事をいふ。
ないーべん 内辨 (名) 天子の即位 及び 元日以下の諸節 [illegible] にて 要事を辨備する職を [illegible] 封じ [illegible]
外命婦に對する稱なり

[illegible]

ないむしやう 内務省 (名) 官省の名 明治十八年十二月二十二日の内閣設立の時に設置す、事務は内國一般の事務に亙り 縣治、警保、土木、衛生、地理、社寺、會計の諸局及び地質取調所、集治監等を統轄するところ、
ないむーだいじん 内務大臣 (名) 内務省の長官、内相。
ナイメーヘンわやく ナイメーヘン和約 (名) Nimegen 和約とは 一六七八年オランダの要衝 ライン河の左岸に在るナイメーヘン市に於て フランス王ルイ十四世は オランダ及其他の諸邦と平和和約を結びしをいふ。其條約により フランスはオランダに其侵略地を返還し 獨ては フライブルグを、西班牙はフランシュ、コンテ其他二三の要地をフランスに割讓せり
ないーめい 内命 (名) 内々の命令をいふ。
ないーやく 内藥 (名) 内服に用ふる藥をいふ
ないーやく 内約 (名)、内密の約束をいふ。
ないやくーし 内藥司 (名)、うちのくすりのつかさにおなじ
ないーよう 内癰 (名)、体の内部に發する腫物、
ないーら 内[illegible] (名) 馬又は猫に發する病名、ねいらい
ないーらう 内勞 (名) ないらにおなじ
ないーらん 内覧 (名)、ないけんにおなじ 内見。之は太政官より天皇に奏聞するに先ち 之を内見する役目にして

8

関白には必ず内覧の宣旨をくだされたり、関白ならずとも
のも内覧となりしものあり、文治元年、頼朝法皇に請
ひて月の輪兼実を内覧となさしめしを嚆矢とす、維新の時
にいたりて廃官となる。
ないーらん　内乱（名）内国の騒動、一国内の騒乱、内訌。
ないらんーのーせんじ　内覧宣旨（名）天皇の御閲覧なさる
べき文書などを先づ執政の関白等をして見せしめ給ふ
宣旨。
ないーり　奈利（名）梵語にして奈落迦に同じ、
ないーりよく　内力（名）地力、地熱の力をいふ、
ないーわ　内話（名）ないだんに同じ、
ないわくせい　内惑星（名）天文、Inferior planets
地球よりも太陽に距離近き惑星は之を内惑星といふ
即ち水星、金星は之れなり、
ないーゐ　内位（名）普通の位の称、外位に対する語、
ないーゑ　内衛（名）左右近衛の称にして外衛即ち衛門に
対していふ、内衛の語は内裏の宮門の内部を警固するよ
り起りし名なり、
なうー　脳（名）生理、頭蓋骨に包まれ尚三枚の膜にて堅
固に保護せらるる神経中枢の部分をいふ、其実質は灰
白質と白質より成る、灰白質の脳の外部にありて著く屈
表面に廣布せるものを皮質灰白といひ其内部の脳に存して
處々に塊をなせるものを中心灰白といふ、白質も亦脳の内
部に存して其繊維を以て灰白質の神経の細胞を連続し且つ
身体諸部に布蔓せる神経と連続せり、脳髄は之を区別して
大脳　中脳　小脳とす
大脳は頭蓋腔の最大部
分を占め左右の両大
脳半球より成る　中脳
は脳髄の基底にして
大脳の両半球を結合す
小脳は大脳の後下部に
位して亦左右の両小脳
半球より成る
なうーじやう　脳症（名）、脳に発する病の総称、
なうー　悩（名）なやみ、やまひ、病気、
なうー　喃（感）人を呼びかけ又は口説く時に発する声、
なうーあう　悩懊（名）なやみくるしむこと、
なうーがい　脳蓋（名）脳漿を包むところの頭部にある頭囲
き骨、八枚の骨片が鋸歯を組み合せたるが如く成す、俗
に天窓の鉢といふ、
なうーがいーこつ、脳蓋骨（名）なうがいに同じ。

脳の内部

なうーさ 嚢砂（名）史記淮陰侯傳中に見ゆる兵法の一法、韓信 漢の將として齊を討つ 楚國 龍且を以て齊を助けしむ 龍且 信と濰水を夾みて陣す、信即ち一夜 人をして 萬餘の嚢を造り 砂を滿盛して 水上の流を擁せしめ 軍を率ゐて 半渡りて 龍且を撃ち 佯り不勝して走る 且 果して喜びて曰く 固より信の怯なることを知ると 遂に追ふて河を渡る、信すなはち人をして先の擁嚢を決せしむれば 水大に至り 且の軍大半渡る能はず 信 急撃して 龍且を殺す、故に 且の軍は潰散し 齊王廣 又それじぬ 信遂に追ひて 北の方城陽に至り 楚軍を虜にす、

なうーさつ 惱殺（名）なやますこと 多く詩に用ゆ、

なうーし 直衣（名）衣の一種、之を着用するときは差貫をはきて 烏帽子をつく 之を烏帽子直衣といひ 冠を戴くを冠直衣といふ、形は 袍に同しく 手掌腋を[illegible]も 身分高き人の 許可を得て 禁中にても着ること又小直衣と稱えて 袖に露あるものあり、

なうーしやう 腦漿（名）なう腦におなじ、

なうーじゆうけつ 腦充血（名）病名、平時の血液、過量、脈管、酒類、諸飲食 種々の原因より 腦に血液の鬱積するもの、頭痛、耳鳴、不眠、腦擧等を起す

なうーしゆつけつ 腦出血（名）病の名 そつちゆうにおなじ、

なうーずゐ 腦髓（名）なう腦におなじ、

なうーそ 腦疽（名）病の名 腫物の咽喉に生ずるもの、のどちやう、くじりちやう。

なうーそつちゆう 腦卒中（名）病の名、そつちゆうにおなじ病なり、

なうーちゆう 嚢中（名）一、ふくろのうち、二、特に財布の中、

なう、ちゆう 嚢虫（名）動物 絛虫の中間宿主の体内に潜在する間のものをいふ、

ナウパクトス Naupaktos（名）地名 ギリシアのレパントの舊名、一五七一年十月イタリア、イスパニアの艦隊此地の西方にてトルコの海軍を破りたり、(28°25'N, 21°48'E)

なうーまく 腦膜（名）生理、腦髓を包む膜にして 三層より成る。

11

なうーさ　嚢砂（名）史記淮陰侯傳中に見ゆる兵法の一法、昔　韓信　漢の将として斉を討つ　楚国　龍且を以て斉を助けしむ　龍且　信と濰水を夾みて陣す　信即ち一夜人をして　萬餘の嚢を造り　砂を満盛して　水上の流を擁せしめ　軍を率ゐて　半渡りて　龍且を撃ち　佯り敗走る　まねをして還り走る　且　果して喜びて曰く　固より信の怯なることを知ると　遂に逐ふて河を渡る、信すなはち人をして先の壅嚢を決せしむれば　水大に至り　且の軍大半渡る能はず　信　急撃して　龍且を殺す　故に　且の [illegible]

[illegible]

なう [illegible] 過労　脳労　過度の精神労　種々の原因より脳に血液の鬱積するもの、頭痛、耳鳴、不眠、眩暈等を起す

なうーしゆつけつ　脳出血（名）病の名　そつちゆうにおなじ、

なうーずゐ　脳髄（名）なう脳におなじ、

なうーそ　脳疽（名）病の名　腫物の咽喉に生ずるもの、のどちやう、くじきりちやう。

なうーそつちゆう　脳卒中（名）病の名、そつちゆうにおなし痛なり

なうちゆう　嚢中（名）一、ふくろのうち、二、特に財布の中、

なうちゆうーのーきり　嚢中錐（句）良傳の人物は　世の中を避けていても　人に展らるるをいふ、史記平原君傳に平原君曰　夫賢士之處世也　譬若錐之處嚢中　其末立見云とあるに出づ

なうーてん　脳顛（名）あたまの頂上、脳天、

なうーなう　噥噥（副）元は　なう噥におなじ

なうーひんけつ　脳貧血（名）病の名　身体の或部分より急に血液を多量に出溢せし時　即ち外傷　出血等をはじめ精神感動　慢性下痢等により　脳部に血液欠乏するもの、皮膚蒼白にして　眩暈、脈搏頻数　不眠等を惹起す

なうーまく　脳膜（名）生理、脳髄を包む膜にして　三層より成る。